395.8
G.72

③

0056978000

0056978-000

３９５．８－Ｇ７２ウ

功労軍馬は嘶く

後藤斯馬太・著

健文社

昭和１８

AJE

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第６７条の規定に基づき、平成１２年５月１５
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので

3958
G72

功勞軍馬は嘶く

陸軍大佐·日本馬事會實習課長
後藤斯馬太 著

586

395.8
G72

功勞軍馬は嘶く

陸軍大佐・日本馬事會實習課長
後藤斯馬太著

健文社

969
50

はしがき

馬は昔から戰爭にはどうしても無くてならない活動兵器、否戰場に於ける將兵の無二の戰友であり、勇敢なる戰士である。又銃後に在りては、或は農耕に或は運搬に主命のまゝに忠實に働き、平戰兩時を通して國家の存立上に缺くことの出來ぬものであることは誰れしも異議を挾む餘地のない國寶的動物であるが、之を使役する人には其の馬の生ひ立ちも知らず其の本當の能力も知らず、況して其の心を知らず只馬は人間に使はれる爲に生れた動物であるから使へるだけ使ふと云ふ無理解な事が尠なくないのは、誠に遺憾の極みと謂はねばならぬ。それで誠に淺學菲才ながら、馬の育成とか乘り方とか鍛錬や使役等に就て馬がどんな氣持ちで人間に希望するかと云ふことなどを、聊か書き連ねて馬事知識普及の資に供せんとするのである。

昭和十八年六月

著者　後藤斯馬太識

功勞軍馬は嘶く　目次

牧場生活

名馬金華山……五
昔話……七
愛馬の日……八
子供と物語……一三
放牧開始……二〇
放牧地の案内……二三
牧場生活の注意……二六
牧場で恐しいもの……二〇

目次

朝禮……三四
踏創……三六
毒創……三七
馬主の喜びと憂ひ……四三
放牧育成に目醒めた馬主……四五
二歳馬の相馬法……四八
檢定檢査と用役區分……五一
馬市の前……九二
馬檢査……九五
羅開始……一〇七
子供の躾……一一三
功勞軍馬のお蔭……一二五
大長の生ひ立ち……一三七
子馬の取扱ひ……一三一

子馬の元氣……一三八
馴致の後戻り……一四〇
障碍馴致……一四三
放馬上手な馬……一四六

騎乘鍛錬

鍛錬査閲……一五一
鍛錬指導の技倆……一五八
馬の見方……一六四
馬の乘り方……一七二
馬術の目的……一七五
扶助……一七七
扶助一致……一七九
騎坐……一八〇

目次

上體……一八一
體重轉移……一八三
兩拳……一八六
脚……一八七
足……一九〇
騎坐の働き……一九三
歩度……一九五
歩調……一九五
歩様……一九六
常歩……一九六
速歩……一九八
輕速歩……一九九
駈歩……二〇二
短縮駈歩……二〇三

伸暢駈歩……二〇八
襲歩……二〇九
內方及び外方……二一二
手前……二一二
手前變換……二一三
前進……二一三
衝を受ける……二一四
停止……二一五
歩度の增加及び減却……二一七
乘馬及び飛乘・下馬及び飛下……二二一
韁の扶助……二二三
高過ぎて伏せつた拳……二二五
手頸に力を入れ過ぎて外方に曲げた拳……二二五
不確實な韁の保持法……二二六

控ふる扶助……二三八
開く扶助……二三〇
壓す扶助……二三一
韁の操作の自習法……二三三
舌越及び開口馬……二三七
1 頭絡の頰革の過短過長……二三八
2 騎手の拳が凝固……二三八
3 舌溝の淺い馬・狹い馬……二三七
騎坐・脚・韁の扶助一致の予習法……二四一
旋回……二四三
回轉……二四五
輪乘……二四七
輪乘の變換……二五一
卷乘……二五五

半卷……二五九
後退……二六〇
障碍通過及び飛越……二六六
横歩……二七二

使役

行進路の研究……二八五
使用時間の算出……二八六
行軍計畫の一例……二八九

服役

準備騎乘……三〇七
下馬牽馬行進及び騎手の鍛錬……三一一
準備騎乘間體重測定及び增飼給與……三一四

目次

本騎馬乘出發……三八
從軍表彰

功勞軍馬は嘶く

まへ書　陸軍大臣から其の功績を表彰せられ功章甲（人の金鵄勳に相當する）を授けられた軍馬豐國號と功章丙（人の瑞寶章に相當する）を授けられた大長號の二頭が某隊から癈役となり財團法人軍馬愛護協會の保管馬となつて、或る愛馬家へ預託せられて餘生を樂しんで居る。此の功勞馬が老後の置土產に若い馬に向つて、自分の生ひ立ちから、牧場生活、軍隊生活將又戰時勞役に關する體驗を話して、若馬共の將來の生活の心得や至誠奉公の誠を盡すべきことを教育し、或は二頭の老馬が相馬法、軍用保護馬の鍛錬又は馬術の方式等を語り合ひ、馬事知識の普及に資する所あらんとするものである。

牧場生活

春光麗かに木々の梢を照らし、去年から降り積つた雪は今日も朝から溶け始めた。屋根の上に、まだ融け残つた雪の塊りが滑つて大きな音を立てゝ落ちて來る。庇から下つた一、二尺もある「氷柱」が硝子の棒を投げるやうな音を立てゝ落ちる騷々しい中に、今年二歳の元氣潑剌たる駒が十數頭、厩から出て運動場の濘るみで肢と云はず、顏と云はず泥まみれになつて如何にも嬉しさうに戲れて居る。

軍馬愛護協會から預託せられた豐國號、大長號の二頭の老馬が此の牧場に樂しく餘生を送つて居る。大長號は今年二十五歳の春を迎へ永年勤續の功に依つて陸軍大臣から表彰せられて功章丙を頂いて居るし、豐國號は滿洲事變の功績で功章甲を頂いて居る今年十九歳、老いて尙壯馬を凌ぐ元氣である。

昭和八年陸軍で軍用動物表彰規定が定められて、甲は金鵄勳章、乙は旭日章、丙は瑞寶章に相當

するもので表彰狀と共に授與せられる事になつて居る。

大長號と豐國號は揃つて朝早くから、ブラ〳〵と道草食ひながら牧場の日當りの良い所で仲良く遊んで居る。

大長　オイ！　豐國君！　僕等は全く幸福だね……同じ馬に生れても僕等の樣に陸軍大臣から御賞めの言葉を頂いて、おまけに勳章を頂戴して一生涯斯うやつて呑氣に暮らせる所へ預けられて居ることを思ふと、外の同僚に濟まない樣な氣がする……君は金鵄勳章だからね……此の牧場に來る人が皆君を賞めて行くから一段と幸福で又名譽なわけだ。

豐國　何に！　僕は何んにも大した手柄を立てたのでないけれど、天道樣や兵隊さん達が僕に幸福を與へて呉れただけで全く天運さ……

大長　そんなに謙遜しなくてもよいではないか。僕はまだ君が金鵄勳章を貰つた御手柄話を詳しく聞いた事がないから――一つ今日は、ゆつくり話を聞かせて呉れ給へ……ねー君――

豐國　さう君！　僕ばかりに話をせがまないで、君の御手柄も話して呉れ給へ。

大長　いや僕は！　永年勤續と云ふことで唯無事に御奉公したゞけさ……それだから君の戰功を是非共聞きたいね。

名馬金華山

豐國　ウン！　それでは話をするが……僕は山形縣小國村の生れで、彼の畏くも　明治天皇の御寵愛を賜つた金華山號の生れた鬼首村とは近い所だが、然し金華山のやうな眞似は出來ないね。

大長　ヘセ、……！　君は良い所で生れたね。鬼首の直ぐ近所かい……鬼首と云へば昔は肢は細いが運動が輕快で頭が良くて品が良く、日本一の名馬が出る所だと云ふ評判の良い所だ。――

豐國　ウン！　鬼首は君の云ふ通りだが、僕が生れた小國村は其の北の方で山形縣だから迚も鬼首には叶はぬよ……

大長　さうかね……そりやさうと金華山と云ふ僕等の先輩が畏くも　明治天皇の御寵愛を受けたと云ふことは聞いてゐるが、そんなに偉い馬だつたかね……君一つ君の知つてゐることを話して呉れないか。

豐國　さあ……僕もあんまり詳しい事は知らないが畏くも　明治天皇は非常に馬が御好きで居らせられて乘馬も御名人であらせられたさうだ――澤山の御召馬の中で一番御氣に召したのが金華山であつた……さうだヨ――

大長　どう云ふ所がそんなに御氣に召したのだらう――

豐國　うーん！　そこが僕等の大いに學ばなければならぬ所だ。けれ共吾々には仲々出來ぬことだね毎日御乘りになる時に、向ふの方から　天皇陛下の御姿が拜せられるやうになると、金華山はチヤント其の方を向いて頭を下げて敬禮をして、御乘りになるときは全く直立不動で一寸の身動きもせずに立つて居つて、イザ前進となると、どんな所でも御命令の儘に動いて、何んなものにも驚かずに眞直ぐに歩いて行くが、少しでも危險な樣な所では良く注意して誤りのない樣に靜かに行くと云ふ風に忠實無二の行ひをしたさうだよ。

大長　なる程ね――

豐國　それで金華山が死んだ後でも、　天皇樣は非常に惜まれて、金華山を剝製になされて宮中に永久に保存されてあるさうで、全く吾等の先輩も大したものだ。――

大長　へへ……吾々馬共にもさう云ふ光榮を受けてゐるのがあるかね。

豐國　ほんとうに吾々の先輩にも、こんな光榮を賜はつて居るのが、あるかと思ふと心强いよ――話は又元へ戻るが君の御國は何處かね。

大長　僕は池月、磨墨が生れたと云ふので昔から有名な三春駒の產地で福島縣田村郡の生れだが、僕はその、あまり賢くなくてね――

豐國　イヤア、御謙遜々々々……隱れもせぬ日本有數な乘馬產地だから、お互に氣持が良い。それでは僕のことを自分から云ふのは、何んだか變だが……ザツト話をするか……

大長　是非賴むよ――

昔話

豐國　エー…先づそれでは僕の生ひ立ちが僕を幸福にしたのだから子供の時の事を一寸――實は僕はね……二歲の時に飼主に連れられて糶場へ出たら―澤山の同僚の中から僕と二、三十頭が選ばれて、體全體を細かに觸つて檢査せられたが――僕は胸がドキ〳〵して震へて居つたよ……檢査が終ると「よし。此の馬は良い馬だ將來將校馬になる……」と云ふ聲を聞いてホツと安心したよ―それから糶に出たら馬商連中が元氣に糶り上げたが、二百五十圓でパツタリ聲が止まつた、瞬間に三百五十圓と大きな聲が出た。ポン〳〵と手を打つて「三百五十圓軍馬御買上げ……」と云ふ素晴らしい聲がしたら馬商連中……「やあー軍馬だ〳〵」と一時大騷ぎだつたよ。其の當時では二歲で軍馬は三百五十圓位が上位だつたから僕は良い方だつたね……

大長　道理で君の體は何處となく氣品があつて氣立てが良く、肢が丈夫で頭が賢く、おまけに心臟もなか〳〵強さうだ。……

豐國　おい〳〵さう賞めるなよ……麒麟も老いては駑馬に如かずさ。

大長　イヤ〳〵〳〵まだ君は十九歳の中年者だ。今頃隱居の僕等と一緒に呑氣に餘生を樂しむ年でないぜ……軍隊には君よりも年寄つたのが澤山居るからね

豐國　ふゝん—功成り名遂げて……と云ふ所か——

愛馬の日

大長　ひや〳〵〳〵大變鼻息が荒いね……早く本筋の話にかゝつて呉れよ。

今日は四月七日「愛馬の日」である「馬よ嘶け勝鬨だ……」愛馬進軍歌が遠くから聞えて來る折柄、三、四名の牧夫に導かれて若駒が澤山どや〳〵と後へ續いて、わあ〳〵〳〵ひん〳〵と元氣よく嬉しさうに色々の事を語り合ふのが中々騷々しい。二、三頭が牧夫の前へ拔け出して競走して駈けつて來たが、豐國號と大長號が居るのを見て一寸吃驚したやうに又喜んだやうに立止つて、

駒一　やあー居つたよ〳〵老翁さん達が呑氣に日向ぼつこをして居らア……オイ……お老翁ちやん、早くから何處へ行つたかと思つたら、こんな處へ來て居らあ……やつぱり老人は要領がいゝなア……

駒二　ぢーちやん、こんな處で、なにしてゐるのさ……

此の時牧夫達も此處へ來て駒を自分達の周圍に遊ばせながら、大聲で尙も愛馬進軍歌を繰返して歌つて居る。一人の牧夫が「豐國や大長は年寄りだけに、暖かで良い草がある所を良く知つて居る感心々々」と老馬を賞める。駒共も草を食ひ始める。此處で牧夫共が駒を遊ばせて一寸一服と云ふ所である。

牧一　おい〳〵君等は「愛馬の日」の謂はれ因緣を知つて居るか……君等はボンヤリして居るから知らぬのだらうな、之れを知らぬ樣では馬の話など出來ないぞ。

牧二　さう人を馬鹿にしたものでないぞ、今日は君、東京では陸軍や民間の愛馬家が千頭も馬を揃へて、東京の街中を行進するさうで、この縣からも三、四十頭ほど二、三日前に出て行つたよ。

牧一　ソレア……今日の催し物の事だが、何んで、そんな事をやるのか、又今日を「愛馬の日」と定められた理由を知らぬだらう……

牧二も他の牧夫達も默つて居る。

牧一　それ見給へ、己れが君達ボンヤリして居ると云ふたのが其處だよ。

牧二　それでは一つ君の說明を煩はさうかね……

牧一　抑々「愛馬の日」とは、嘗て「六月一日」を「愛馬デー」として、馬の勞働を減じて農繁期の慰勞の目的で定めたものである。

牧三　おい〳〵そんなに四角張つて話されては分らぬから、もつと分り易いやうに話して呉れよ……

……

牧一　子供と云ふ奴は矢ッ張り物が判らぬね。近頃の青年には雄辯大會など〻云ふ事があつて、人の前で六ケしい理屈を云ふのを自慢にして居るが、君等は田舍者の子供だから仕方がないなア……ちつとは勉强し給へ——

牧二　オイ牧一君、一々講釋をたゝかないで、早く本筋の話をして呉れよ……

牧一　オイ、よし！　それでは話しをするよ。六月一日を「愛馬デー」と定めたのは、何んにも理由はないことであつたから、昭和十三年の秋であつたと思ふが、馬政局や、陸軍省や、日本競馬會、日本乘馬協會、帝國馬匹協會などの人が集つて「愛馬の日」を何時にするか……と云ふ事を研究せられたのであるが、四月七日と云ふ日はね……彼の日露戰爭が始まつてから明治三十七年の四月某日に　明治天皇が伊藤博文山縣有朋等の元老や桂首相や曾根大藏大臣など元老顯官を宮中の御陪食にお召しになつた時に、我が國の馬は其の資格が良くないからどうしても改良しなければならぬが誰か之をやらせるのに適當な者はないか、との難有御聖旨を賜はつたので一同陛下の御聖慮に感激して、色々と研究の結果藤波主馬頭が適任者であることに意見が一致したので、此旨奏上に及んだ所四月七日の午後藤波主馬頭を宮中に御召になつて拜謁を賜はつた後に明治天皇は、藤波其の許は馬のことを色々研究をして居るそうであるから我が國の馬匹改良に就て至急其の案を立てよ、との大御心をお授けになつたので恐懼して退下し研究の結果を奏上申上げたと當時の事柄が記錄に殘されてある。そうであるから四月七日は我が國の馬の改良上忘れることの出來ぬ記念日でそれで此の日を「愛馬の日」と定められたのだそうだよ。……どうだ！

牧三判つたかい——あんまり詳しく云つたとて、長くなるだけだ……之れ位にして置くよ……

牧三と其他　成程僕等はそんなことは始めて聞いたよ……僕等も賢くなつたヨ——有難う。

牧二　それでは今日は僕達はどんな事をしたら良いかね。

牧一　さあ……そこが僕等にとつて大切な事であるから、僕の考を君達に良く話して置きたいのだ。

……軍隊や地方の愛馬家連は今日は日本國中何處の地方でも皆馬を可愛がる心を養ふのに一生懸命で、馬を、見せ物の樣に方々引張り廻して御馳走を食はせたり、激しい勞働を減じたりして居るが、僕等はそんな事は出來ないから此處に居る駒を丈夫に育てゝ、全部が軍馬に合格して立派に御奉公が出來るやうに完全に育てゝ行くのが一番大切な事だ。……此の豐國號や大長號のやうに、功勞をたてゝ長生きの出來るやうにしたいものだね……今日からは、ウンと頑張つて一生懸命勉强しようね……「愛馬の日」を記念に大いにやらうよ……牧四郎、貴樣は時々駒の看視をするけることがあるぞ……牧三、貴樣は時々駒を打つことがあるが……二人共以後戒心せよ、今日からそんなことをしたら承知しないぞ……どうだ、判つたか……

牧三、牧四郎　判つた〳〵そんなに僕等を叱るなよ—僕等だつて馬を可愛がることは君にも負けないさ。

吹く風が枝を動かして、若駒共は一寸寒むさうな顏をし乍ら尻を風の方に向けて立つて居る。牧場の春はまだ淺く谷間に殘つた雪の上をかすめて吹く風は一段と冷たく感ずるのだ—駒は暖い所を我勝ちに占領しようと彼方此方へ歩いて居る。豐國號と大長號は共に一寸怒氣を含んだ樣な嘶きをすると駒共はばつたり止まつて皆老馬の方を見た。

子供と物語

豐國　コレ〳〵子供達、何んだ意氣地がないぞ。弱虫共だぞ。人間はなあ—子供は風の子と云ふて、風が吹くと手を腫らして寒さうな顏をして居るが、凧を揚げて喜んで居るではないか。アレを見よ！　里の方に澤山凧が揚がつて居るだらう、お前達は子馬、雪の子で—雪の中に轉つて遊んだり雪の下の甘い熊笹を食ふて喜ぶ樣な元氣がなくてはいかぬゾ……

駒一　だつて！　おぢいちやん、僕等去年の十一月、母ちやんのおつぱいを止めてから、今日迄暖い家の中ばかりで御馳走を食べて居つたのだから、こんな寒い所へ出て來たのは今日が始めだもの……千軍萬馬の中を往來した、おぢいちやん達とは違ふよ……

豐國　何んだと！　チビの癖に生意氣を云ふでない、お前は小僧ツ子だのに、どうして己れが千軍萬馬の中を往來した事など知つて居るか……

駒一　だつて…おぢいちやんが僕等の隣りの綺麗な家に遊んで居ると、時々人が來るだらう…其の時に內の主人公が、おぢいちやんを賞めて話をするのを僕は聞いて居つたよ……

豐國　感心々々、駒一は賢い子だ！　成程御前のお父さんはアラビアから來た名馬で、お母さんは

日本一の賢い馬だと云ふて高貴の方に御寵愛を受けて居つた賢母だから、お前も賢いのは當然だつたね。偉い〳〵、丈夫に育つてお父さん達に負けぬ名馬になるんだね……

駒一　あーあ〳〵、それで分つた〳〵、僕が母ちやんのおツぱいを呑んで居つた時に母ちやんが時々「お前のお父さんは身體は小さいが迚も偉いもので、走つても速いし、身體も強いし、どんな不味いものでも小言を言はずに澤山食べて何時でも丸々と肥つて居る、おまけに子供が立派な身體で、しつかりして賢いからネ、駒八の風を御覽なさい、どう見ても、お金持ちの坊ちやんの樣に品は良いが弱々しくて肢も細くて贅澤で、あの子の母ちやんが「此の子は贅澤で偏食で困る」とこぼして居るよ、あんな子は軍馬にはなれやしないヨ。駒六を御覽よ。あの子はお前よりも背も高いし、肢も太く、身體もしつかりして居るつて、あんまり賢さうにもないが迚も丈夫で良く働くよ。あれは「フランス」とかで生れた御父さんださうだが、日本ではこれから澤山生れるやうになるそうだよ……」と云ふ話を聞いたが僕の御父ちやん、いゝね。

豐國　駒一、お前は仲々頭が良いな、外の子供は仲々そんなに覺えて居らぬよ。お前のお母ちやんも偉いね、家庭教育は滿點だ、ハツハツハツ……

大長　駒一、偉い〳〵。良くそんなに覺えて居るね、將來偉くなれるぞ、ねえ豐國君……

豐國　さうだ〳〵、迚も賢い奴だね、將來は日本一の名馬になれるぞ。

大長　おい〳〵、豐國君、肝心な君の御手柄話を聞かうと思つて居るのに子供達との話にみが這入つて大分時間がとれたね。

豐國　ウン、子供の話も仲々面白いからね。

牧一　やあ、もう御晝近くなつたから飼付に行くぞ、厩へ歸る時は駈け出す奴が居るから豐國を先頭にして行くぞ。

と云ふ聲が聞えると、牧夫共は歸り支度を整へて、牧二が豐國を率いて先頭になつて喇叭を吹きながら歩いて行く。他の牧夫は馬群の兩側と後方とに附いて「ほゝゝほら〳〵〳〵」と聲をかけながら、楢林の中の細い馬道を中央にして一群れになつて厩の方に連れて行く。厩の構への入口には綺麗な水が流れて居つて、馬の水飲場が作られてある。厩に入るにはどうしても此處を通らなければならぬ。

豐國は先頭になつて小川に入つて水を思ふ存分呑んで居る。駒共も之に隨つて入り込んで水を呑み始めたが、中には前搔きをして居る内に寢轉んで泥を洗つて居るのもあり、駈け廻るのもある。皆嬉しそうに水を腹一杯に呑んでからぼんやり立つて居る。やがて牧夫に導かれて五、六頭位宛分れ

て厩に入り込んだら、美味しい牧草が棚の上に澤山載せてあるから先づ之を食ひかけた。厩の入口の方で「がつたん〳〵」と何時ものやうに大きな練飼桶で一生懸命に練飼を作る音が聞えて來る。

駒共は早く「食ひたいなア……」と云はぬばかりに待ち遠しそうに牧草を嚙つて居る。「がつたん〳〵」の音が止んだと思ふと、今度は「ぷーぷぷーぷぷ」と云ふ喇叭の音がして來る。

駒一　おい〳〵皆んな御飯だぞ。さあ早く御膳の所へ集れ々々、何時も定まつた所へ行けよ、自分の處を間違へた奴には食はしてやらぬぞ。

駒一は悧巧な馬であるから何時でも他のものを誘導して居る。追込厩では大抵飼付の時は自分の所を間違へぬ樣に覺えて居つて、何時もと變つたのが側へ來ると押し付けたり、蹴つたり咬んだりして其所に置かぬのが常である。喇叭の音を聞いて皆飼槽の上へ頭を並べて飼の分配を待つて居る。牧夫は迅速に練飼を飼槽に分配する。駒は揃つて飼を食ひ始めると、其の音は丁度霰交りの雨がトタン屋根へ降つて來た時のやうに「ざーざーぼつ〳〵〳〵」と迚も聞いても氣持の良い音を立てゝ食ふ。暫くは全く無言であつたが、物の十分も立つと、そろ〳〵駒の話し聲が始まる。

駒三　やあ、今日は御馳走だな、人參がある、豆がある、迚も甘いなあ。

駒八　已らア、何時もあんまり美味しいと思ふて食ふた事はないが、今日はほんとうに甘い御馳走だから、うんと食ふよ。

駒六　おい！　駒八君、君は何時もあれが嫌ひだ、これが嫌ひだ、と云ふてばかり居つて、牧夫さん達を手古摺らして居つたが今日は仲々良く食ふね。僕は何時でも君の殘飯を澤山平げて居るからこんなに太つて居るよ、君も是れから澤山食へよ。駒一君を見給へ、あんな小さな身體でも君の倍も食ふから何時だつて丸々と太つて居るでないか。偏食はいけないね、お父さんに似て贅澤だなア。

駒八　だつて君ねえ、僕は何時もの御飯はどうも澤山食ひたくないのだが、今日のやうな御馳走なら澤山食ふよ、「愛馬の日」が毎日續いて呉れると良いなあ。

駒一　そんな贅澤ばかり云つて居ると、君は今に痩せてしまつて胃病だとか傳貧だとか云ふ病氣に罹るよ、偏食を止め給へ。

駒八　今日はね、御馳走があるだけぢやないよ、朝から外に出て少しは寒かつたが、良い空氣に晒らされて運動したから、御腹が空いて居つた加減もあるんだ。

豐國　駒一や駒六は良い所へ氣がついた。お前達は駒八の惡い癖を直してやるやうにしてやれ。子供の時から贅澤を云ふやうな奴は、たとへ其の先祖が良くても駄目だからね、駒八、之れからは

何んでも食ふんだヨ。

駒八　おぢいちやん、僕惡かつたよ、これからは何んでもうんと食べてうんと丈夫になるよ。

こんな風で五・六日經つたある日のこと。

牧一　オイ、牧三、己らあ安心したよ。駒八が五、六日前迄は飼喰が惡くて閉口して、主人公も「駒八はサラブレットの血液が濃厚で將來立派な馬になると見込んで居るから氣を付けて丈夫に育成せよ」と云はれて居るが、毎朝體溫を測ると三十八度以上もあつて何をやつても餘り美味しさうに食はず、榮養が一向良くなつて來ないので今日は場主に云はうか、明日は云はうかと思つて居つたが、五、六日前から飼喰が非常に良くなつて、外の馬と同じ樣な元氣が出て體溫も三十七度五分位に定まつて來たので非常に喜んで居るよ。

牧三　ほんとうに僕も、毎日飼を分配してやるとね、駒一や外の奴等は片ツ端から何んでも美味しさうにドンドン食べ、駒六などは他の分迄も横取りして喰ふて居るのに、駒八の奴は鼻先で飼を引ツ掻き廻して燕麥だとか、牧草だとか、美味しいものばかり喰やがつて、野草や大麥などは香だけ嗅いで一向喰はない贅澤ものので、駒六などが腹が張り切れる位食ふて居るのをぽかんとして此の「喰ひしん坊」が、と云はぬばかりに見て居るのには全く閉口したよ。それだから何時でも、

駒一號

功勞軍馬は嘶く

痩せて肋骨が見える樣な細ツこい體をして居つたからね、ほんとうに癪に觸はつてゐたが、それが運動をさせるやうになつたら、全く變つて良く喰ふやうになつて嬉しいよ。

牧一　やつぱり、子供には運動が大切で、少し位寒くても出來るだけ厩の外へ出して運動させるのが一番肝腎だ、幼駒の育成には運動させることが秘訣だね、僕等もちと我慢してやろうよ。

牧夫一同　うんそう〳〵、僕等は馬を育てるのが天職だから、これからは寒さや暑さのことは我慢して一生懸命に働かうね。これも「愛馬の日」の御蔭かも知れない。

牧夫達はこんなことを話しながら飼槽の掃除をしたり、厩の中を片付けたりして午後の日課に取

掛つてゐる。厩附近の山遊びもだん〳〵其の回數が重なつて來たから、駒達も山を歩くことに馴れて來た……新綠滿山を蔽ふて吹く風も心地良く肌を撫で、谷間に殘つた溜り雪も今は見えない五月の末になつた。愈々放牧の時が來た。駒の一群は廣い放牧地の一番下の方で、暖かで草の伸び方も他の所よりも早い牧場に放牧される事になつた。豐國、大長も此の群と一所に牧場に行くことになつた。愈々今日は放牧開始日である。駒達は勇み立つて早く牧場に行きたがつてそわ〳〵して待つて居る。

放牧開始

駒一　オイ駒六君、山へ行つたら廣い所で元氣良く駈つ競をやらうか。駒八が近頃非常に元氣になつたし身が細くて風切りが良いから、彼奴には一寸千米位だと負けるかも分らぬが、遠い所なら負けぬから皆でやらうよ。

駒六　うん面白いね。けれど僕は身が太くて重いから勝てるかどうかわからぬが、何處迄でも續くから最後の勝利は僕のものかね。

他の駒共が皆勇み立つて、何時山へ行くのだらうと待ち兼ねて居る。ぷーぷーぷぷーぷーと喇叭の音が鳴り響く。牧一が先頭に立つて今迄毎日遊んで居つた山を通り越えて、廣い〳〵野原に導かれた。此處で牧一が牧場主から受けて來た注意事項を牧夫一同に言渡す。

牧一　今日から放牧開始になつたから一言注意する。此の馬群は二歳の初放牧だから一番大切な時だ。此の牧場は知つて居る者もあるだらうが、平の所が多くて草は良く伸びて居るし水飲場も水が良くて出入には容易であるが、馬の休息所になる森林は木が少し密生して居るから、此の中では馬が駈け廻らぬやうにしないと怪我をするから、良く氣を付けて看視せなければならぬぞ。二歳駒は九月には厩へ引き揚げて十月の糶に出る準備をするのだから、三ヶ月位の放牧だから一頭も損傷させぬやうに全力を盡してやれ。

牧一君大いに威張つて注意はしたけれども、此の牧場には三、四ヶ所小さな斷崖があり、二歳駒には稍々危險地であるが、之れを現地で示さないのは手落ちである。牧夫達は三ヶ月間牧場生活をするため、雨具だの色々の物を持つて來たから、之を看視小屋へ置きに行つたが、毎日一人宛交代で看視することになつて居る。民間の放牧は軍馬補充部の放牧と違つて、綿密に牧夫が教育してないから往々手落ちがあるのは仕方がない。馬群はぞろ〳〵と歩いて草を食ひ始めたが牧夫は一人も側に居ない。

駒一　おい駒六君、駒八君、廣い良い所だね、どうだ、皆で一つ駈つ競をしようではないか。

駒六　おーい、皆んな來い、ずーつと向ふの山の上迄行つて又此處へ戻つて來るのだよ、やらうやらう、皆んな用意！

豐國　こらつ、小僧ども、何を云つて居る、馬鹿め。初めて來たばかりの所で何處にどんな危い所があるやら、此の牧場にどんなものが住んで居るやら何んにも知らない内に駈つ競らなんぞと、とんでもない奴等だ。そんな事したら肢を折つたり崖へ落ちたりして死ぬ奴が出來るぞ。牧場はそんな駈け廻る所でない、澤山草を食つて適當な運動をして育つて行く所だ、そんな間違つた考を起しちやいけないぞ。

駒一　おー怖い〳〵。おぢいちやんに叱られた。駒六、今日は止めて置かうよ、おぢいちやんが知らない時にね、内證々々、

駒六　駒八、やめだ〳〵、こはい〳〵、やめだ〳〵。

放牧地の案内

豐國　子供達はすぐそう云ふ事を考へるから困る。これから己れがお前達に此の牧場の内を案内して、色々教へてやる事があるから後へ跟いて來い。

駒達は豐國に叱られて、ぞろ〳〵後へ跟いて行く。

「おぢいちやん、やつぱり偉いね、牧夫さん達が教へて呉れない事を僕等に教へて呉れるそうだ」

など〻囁きながら道草食ふて跟いて行く。

豐國　これからお前達が暮す屋敷が、どんなに廣いかと云ふことを教へてやるが、先づ此の屋敷から外へ出てならぬ境を一周り連れて行つてあげるよ。そらつ…此處に土堤があるだらう、此の土堤を越すと隣りの奴らから、ひどい目に逢はされるぞ。隨分長いだらう…まだ〳〵ずツと向ふの方の小高い所の後の方迄此の土堤が續いて居るよ。そーら此處に小さな川があるだらう、之れがお前達が水を飲む所だが決して一人で來てはならぬ。…牧夫さんに連られて來るか、他のものと連れ立つて來なけりやいけないよ。此の川は此の邊は淺いけれど下の方は深くて落ちたら仲々出られないから行つちやいけないよ。そーら此の土堤の上から一寸下を覗いてごらん、この崖の下の方に大きな川が流れて居るから、こんな所へ落ちたら最後即死だね。あつ！　そう〳〵、丁度思ひ出したから一寸話をしてやるがね！　今から三十年ばかり前に或る軍馬補充部と云ふ所で、阿武隈川と云ふ大きな川の高い斷崖の上に放牧地があつたが、丁度夏の暑い日に、支部長さんや

將校さんや技手さん達が檢査に來たので、百頭ばかりの吾々の先輩を今迄來たことがない其の牧場へ集めて檢査を始めたそうだ。丁度半分許り濟んだ時に雷が那須山と云ふ山から出て來たそうだ、それが一つ二つ鳴つた後で突然山が崩れたかと思ふ樣な大きな奴が鳴つたので、其處に居つた三、四十頭が吃驚して一散に南の方へ走り出して、一番先の奴が土堤を飛越したのを見て、後の奴等が次々と土堤を飛越したが、其の土堤の下には

水飲場

藤棚を設けてゆつくり水をさけて夏の炎暑を飲ませる。

百米もあるやうな斷崖だつたので皆阿武隈川へ落ちて折り重なつて三十頭許り肢を折つたり、頸を折つたり、頭が割れたりして、死んだことがあつたそうだ。それから其の牧場には放牧せぬ樣になつたそうだ。お前達も、これから斯ふ云ふ恐ろしい雷に逢ふことがあるが、そんな時には落ち付いて早く低い所へ集つて、靜かにして雷が止む迄其所に居らにやいかぬよ。

駒達は之を聞いて何んだか今にも雷が來そうな氣がして怖わ〳〵歩いて行く。

駒一　僕は雷が一寸怖いが…大した事はないだらうねえ。

駒六　僕は雷なんかちつとも怖かないよ。

駒八　僕　雷も怖いが、大きい雨が降つて來ると身體が痺れる位冷えて來て寒くて堪らないことがあつて雨が三、四日も續くと、體中に野晒（のざらし）と云つてボツ〳〵が出來て痒いやら痛むやらほんとに困ることがあるそうだから心配して居るよ。

豐國は一寸した崖でも、穴でも、樹の枝が密生して居る所も、隅から隅迄一つも殘さず子馬達に注意を與へて、一通り牧場の周圍を廻り終つて、休憩所に適當した森林に着いた。日は將に西に傾き山の端に見へつ隱れつして居る時であつた。初めて放牧をすると、牧場内や牧場の周圍を一巡して安心するのが馬の習性である。此の放牧地は產馬組合の共同放牧地であるから、彼方からも二頭、

此方からも三頭と連れて來たから大勢になつて、ザツト百頭位になつた。斯うやつて自分の家から連れて來た駒を仲間入りさせるのに、人參や燕麥などの御馳走を持つて來て、先へ來て居つた駒一の連中に食はせて御機嫌をとつて仲間入りの御披露をして行くが、皆んな相談したやうに豐國や大長の側へ來て人參を小さく切つたのを食はせながら「どうか、己んとこの小僧を賴むよ」と云はんばかりに顏や頸を撫で〳〵歸つて行く。太陽はだん〳〵山に隱れて夕燒が空一面に雲を赤く染めて居る。

、牧場生活の注意

豐國　大長君、君一つ子供達にこれから先の注意をしてやつて呉れんか、始めて顏を見る小僧も大分增えたから、此奴等でもやつぱり內の奴等と同じ事で丈夫に育たせてやりたいから可愛がつてやらうね。

大長　僕はね、御恥しい事だが子供の時から斯う云ふ廣い所で育つた經驗がないから、迚も話なんか出來やしない。實は今朝から君が子供を連れて方々を見て廻つて敎へた樣な事は全く知らなかつたので、良い事を聞いたと、此の年になつて物知りになつた氣がして居るんだ。八十の手習と云ふ所だね、だから君から話してやつて呉れ給へ、僕も謹聽するから賴むよ。

放牧を勵行しない馬產地の馬は實際舍飼ばかりで育ち、牧場の味を知らずに民間に買ひ取られて育つから無理もないことである。

豐國　それでは大長君のやうな先輩を、さし措いて出しやばりのやうであるが、僕が子供の時の經驗を思ひ出して御話をする事にするかね。

大長　おーい、皆んな集つて來い。今から豐國君がお前達の今日からの生活に就いて色々面白い話をして呉れるから聽きに來い。

駒達は我れ先にと大長の周圍に集つて來た。日のある中に澤山草を食ふたから滿腹で靜かで、中にはぼんやり眠むそうな顏をしてゐるのも居る。

豐國　己れんとこの子供達の外に、今日此處へ來たものは前へ出よ。おー、お前も、お前もか。仲々澤山來たなア、之れから、皆んな仲良く遊んで丈夫に大きくなるんだぞ。おー、可愛い〻子が居るなア

大長　豐國君、今日來た運中にも仲々賢こそうな奴も居るが、大部分は內の子供達よりは劣つて居る樣だね。殊に身體の發育が目立つて惡いのが多い。あんなのを御守りしてやるのも仲々骨が折れるね、僕が一番年長者であるから心配だ。

豐國　うん、そうだ。けれどもね、生れてから今日まで廣い所で暮らしたことがなく、狹い厩で小便や糞の中で轉がつて育つた奴が多いからあんな風に見えるが、これから三ケ月も此の牧場でうんと草を食ふて、山坂を上つたり下りたりして居る内に、だん〳〵骨も太くなり肉附きも良くなつて、九月になると、ほんとうに見違へるやうになるから、あれ等の中でも立派な奴が二十やそこらは居るよ。あのづんぐら坊の樣な奴はあんまり背は高くならないが、あれでも親の血筋も良さそうだから、仲々良くなるよ。あの細ッこい、ひよろ〳〵して居る奴はあんまり血筋が良過ぎるから、こんな牧場に放しきりにして置くのは氣の毒だが主人公が分らぬから仕方がない。

大長　君は仲々馬相見だね…。辻占ひに出てちと馬主に教へてやると仲々はやるよ。やあこれは失禮…離乳期から翌年の春までの育成方法が異ると、子馬の發育は非常に差異が出來るものであるが、民間で適當な運動場が無い所や、昔からの地方の習慣で寒い間全く厩の中に閉ぢ込めて置いて、碌に運動もさせないのが澤山あるが、これは幼駒の育成に適當でない。そこで近頃は農林省からも奬勵せられ、馬産家も氣が付いて、大抵の馬産地には幼駒の共同運動場が設けられてあつて、冬の間でも此處へ出して運動をさせて行くことを勵行されて居る。

豐國　ハッハッ、、僕なんか何んにも知らぬが、子供の時に大勢で育つたから多少覺えて居るだけのことだ。君も一ケ月も斯うやつて子供と一緒に遊んで居つて見給へ、きつと子供達の色々良い所や、惡い所が分つて來る。子供相手はほんとうに面白いものだよ。

大長　それでは豐國君、子供達が眠くならない内に一通り話をしてやつて呉れ給へ。おいつ、皆んな溫順しくして聽くんだよ。

駒一　おーい、皆んな今から己んとこの、おぢいちやんが君等に山で暮らす間の注意を話して呉れるそうだから謹聽するんだ。

豐國　駒一は生意氣だが、此の中の級長だから皆んな駒一の云ふ事に從ふんだよ。（一同靜かに聞いて居る、ヒヒン…と一聲大きく嘶いて子馬共の注意を喚起した）今から牧場生活に就き注意を與へる、克く記憶して誤りの無からむことを期せよ。

駒一　おぢいちやん、そんなに威張つて云つちや怖わいよ、分らぬよ…僕等はおぢいちやんを良く知つて居るが、他所から來た連中は怖がつて居るからもつとやさしく話してお呉れよ。

豐國　うーん、そうだ、己れがあんまり熱心になつたから遂ひ四角張つたね。今日からは皆んな此の牧場でうんと食つてうんと遊んで大きくなるんだよ。それでお前達にこれから先き毎日の生活に必要な事を教へてやるから間違ひのないやうにするんだよ。

新一　おぢいちやん、僕今夜何處で寢るの――寒い風が吹いて來ても戸がないし、蒲團もないぢやないの。内では風も入らない家の中で、厚いお蒲團の上に寢てをつたが今夜はどうやつて寢るのかなあ……

駒六　ヤーイ新一、あんなこと云つてるよ。甘へッ子だなア、僕等そんなことちやんと知つてるよねえ、駒一君。

駒一　そりや駒六君、無理だよ。新一君なんか婆さんと二人きりで居つたんだもの、誰も教へて呉れやしないから知らぬのが當り前さ、そんなに笑ふものでないよ。

豐國　駒一が云ふ通りだ。之れから己れが色々教へてやると云ふんだよ。始めて此處へ來た子供達は皆んな、眞中の方に集つて、此のプカ〳〵した草の上に寢るんだよ。夜、腹が空いたり咽喉が渴いても決して獨りで此森から外へ出てはいけない、夜は方角を間違へて迷ふからね。

新三　おぢいちやん、夜になるとどんな怖いことがあるの……

牧場で恐しいもの

豐國　ナーニ別に怖いことはないが、お前達が怖がつて騷ぐから却つて怪我をしたり、とんでもない大騷ぎをすることがあるよ。

夕燒の赤雲もだん〳〵と黑味が增して、谷間の森に颯と一陣の風が過ぎて行つたかと思つたら「チャツ〳〵、ヂヤ〳〵、ザーザー」と飛行機の低空飛行で掃射を受けたやうな氣味の惡い音が二つ三つ又續いて一つ二つ。子馬達は一時に聲を立てゝ「怖いよう」と豐國と大長の周圍を取圍んで震へて居る。

豐國　ハれ〳〵皆んな騷ぐでない、何んにも怖くないよ。今言つたばかりでないか。つまらぬ物にお前達が驚いて騷ぐと云ふのは此の事だよ。あれはナ、山鳴と云ふ鳩よりも小さい鳥が、日暮れ方や朝早く高い空を飛んで居つて森から上の方へ出て來る蚊や虻などを取つて食ふ爲に、急に眞下へ飛んで來る時に羽根で風を切る音だから、これからも度々あるがちつとも怖くないよ。そらつ、今も一つやつたゞらう。

意氣地なしの駒八、なんだつまらない、あんなものちつとも怖かないよ、皆んな弱虫だなあ。と威張つて居る。

駒一（外大勢）　駒八、何んだと、初めには一番怖がつて青くなつてぶる〳〵震へて、おぢいちやんの腹の下へ隱れた癖に、生意氣を云ふな、これから遊んでやらないぞ。

大長　豐國君、僕も始めてだ、そんな變な鳥が居るのかね、嫌な奴だね。

新一　もう外に怖い奴は居ないの。

豐國　こゝの牧場には來ないが、奥の山へ行くとね、熊と云ふてそれは〳〵怖い奴が出て來ることがあるよ、熊は晝の間は牧夫さん達を恐れて居るから僕等の側へ來ることはしないがね、小川の緣りへ行つて魚を捕らへたり、石の下の小さい蟹を取つたり、又木の實を取つたり、腐つた木の下や蟻塚を引つくり返して蟻の卵を食つたりして居るがね。夏の末から秋の初めになつて、冬籠りの準備をする樣になると、兎だとか狐だとかの小さな獸を捕つたり、大きな鮭を捕つたりするし夜になると時々吾々仲間の寢込を襲ふことがある。こんな時こそ夫れは大變だ、皆んなが驚いて四方八方に散亂してしまつて朝迄集まることが出來ないやうな恐ろしいことがある。彼奴は僕等が四方に逃げて、もうよからうと思ふて、元の所へぼつ〳〵歸つて來る時に其の通り道の狹い所で萩とか草の中に隱れて居つて獨りで怖々歸つて來ると、いきなり飛び付いて來てあの强い力で顏か咽喉をぶん撲つて爪で引ッ搔くのさ。そうすると僕等の仲間は氣が弱いものだからもう逃げる元氣が出ずに其處に立ちすくんでしまふよ、そうすると熊の奴、すぐに咽喉を嚙み切つて殺してしまふのさ、彼奴には敵はぬね。

駒八　怖いナア、そんな時どうするの。

豐國　夜でも皆んな同時に寢ないで三分の一か半分位が寢て他の者は起きて番をして居つて、彼奴が來たら大きな聲で皆んなを起すのだ。そうして彼奴の出て來た反對の方へ皆が散り〳〵にならぬ樣に一散に逃げるんだよ。そうして早く牧夫さんが泊つてゐる小屋の方へ集つて行くのが一番良い。若し獨りで逃げ出した時には元の所へ歸つて來ないで、朝迄林や草の背の高い所へ入らずに野ッ原に居るのが一番良いヨ、彼奴は眼玉が光るし眞黑だから原ッぱに居ると彼奴が來ても分かるから早く逃げ出せばよいからね、兎に角彼奴等に捕まらぬ樣にするんだよ。

駒八　僕は早く走るから大丈夫だよ。

駒一　もう、其の外に怖い事はないの。

豐國　未だある、さつき話してやつた雷さ、雷は何時來るかわからぬが、吾々は電氣には非常に弱いから恐しいよ。雷が鳴り出したら高い所に居ないで、早く低い所で成るたけ雨を防ぐことの出來る所へ行くのがよい。然し雷は大抵突然來ることは少なく遠くからゴロ〳〵〳〵と鳴りながらだん〳〵近寄つて來るから、あはて〻轉んで怪我をせぬ樣に注意するんだよ。

夜はだん〳〵と更けて行く。彼方にも此方にも欠伸をするものや、いびきをかく聲が聞え出した。

豐國の話も止んで靜になつて、何時の間にか其の夜は正に明けんとする。塒を放れた朝烏が、彼方此方の友を呼び集めて羽音も勇ましく打揃つて里の方へ朝飯に出掛けて出く。枝から枝へと飯を求めて飛び歩く鶯が天下の名歌手我一人と云ふやうに盛に囀り出して御得意だ。

朝禮

豐國　おーい子供達起床だ〳〵、早く起きよ、牧場では朝御飯前に朝禮だ、已の後へ皆んな附いて來い。

と云つて先頭になつて小高い丘の方へどん〳〵上つて行く。駒共は何だかわけが分らぬから眠む相な顏をしてぞろ〳〵と附いて行く。

新三　おい、駒六君、朝禮ッて何んなことをするのだい、君知つてゐるかい。

駒一　朝禮と云ふことはね、毎朝起きるとね、御天道樣が出て來るのが見える所へ集つて御天道樣を拜んで、御蔭樣で毎日無事に暮らして居りますが之れから先もどうぞ私共を御護り下さいと御禮を云つたり、御祈りしたりするのだよ。

駒六（外一同）　あー、そう云ふ事か。駒一君は偉いね。

豐國　駒一は良く知つて居る、その通りだ。どうしてお前はそんなことを知つて居るか、誰に敎へて貰つた。

駒一　僕、母ちやんから聞いたよ。

豐國　そうか、お前の御母ちやんはほんとうに賢母だからね。

牧場に放牧してある馬は、毎日朝になると休息所から出て太陽の出る方へ揃つて行つて、朝の日光に當るのを喜ぶのが習性である。斯うやつて豐國が先頭で丘の上に集つて太陽の昇るのを見てから水飲場に行つて水を飲んで草を食ひ始めた。月日の經つのは早いもので早や六月の末となつて草は伸びる、駒は太る、何等事故も起らない、全く順調に放牧が出來て居る。今日も皆仲良く草を食べながら丘の上へ登つたり、下りたり二、三頭が相撲を取つたり、鬼ごつこをしたり人間の子供が校庭で遊んで居るやうに如何にも愉快さうに見える。突然一頭が「痛い〻〻」と叫び出した。駒達は吃驚して其の聲のした所へ駈け寄つて「どうした、どうした」と慰めて居る。

此處は篠竹が密生して居つた所を五、六日前に里の人が來て刈り取つた所であるから、細い槍を並べた樣に篠の根が天を向いて突ッ立つて居るので、危險千萬であつたのを知らずに駈け込んだものだから、蹄の裏に突きささつたのだ。牧場で篠竹を鎌で刈り取ると斯う云ふ怪我馬を出す事にな

る。切つてから切口が乾いて堅くなつた時が一番危險である、腐つてしまへば踏めば碎けるから大した害はないが。

踏　創

豐國　誰だ、篠吉か、踏拔きをやつたのは、それあ不可ん、あんまり歩くでないよ。今に牧夫さんが來て拔いて呉れるから靜かに待つて居れ、動くと餘計にひどくなるぞ。

と云つて豐國はぼつ〳〵と柔い草を食つて居る。

豐國　おーい、皆んな來い、靜かに來るんだ、走つちやいけない。お前達に悪いものを教へてやるから己れの後の方へ靜かに集れ。

皆んな何だか薄氣味悪るそうにのこ〳〵集つて來た。

豐國　これ〳〵篠太、そんな所へ行ツちやいけない、己れの後へ來い。駒七も亦そんな所へ行く。又これ〳〵いけない。言ふことを聞かぬ奴ばかりだね。

駒六　おぢいちやん、今日は何んだか大變八釜しい事ばかり云つて居るが何んだらうか。熊でも出たんだらうか。譯がわからんなあ。

新三　うん、僕にもわからぬが、今朝から駒八が肢の細い癖に、あんまりはしやぎ廻つてゐるから、僕等迄側杖食ふて叱られるのが知ら。

毒　創

豐國　餘計なことを云ふんでない。それ、其處の萩の葉を食ふて居る。あーそれ、駒三の直き足元の柏の葉にも居る。その虫を知つて居るか。

駒共　なんだ、こんなもの毛虫ぢやないか、こんなもの足で踏んだら死んでしまふや、これが何んだらう、おぢいちやん、こんなものどうするの。

豐國　駒八や新三のやうなあわてもので、おまけに毛が短くて皮が薄い御上品な奴は此の虫にひどい目に逢ふよ。駒一のやうな注意深いものは大抵は大丈夫だがね。

新三　僕等だけが、どうしてこんな毛虫位に負けるの、こんなもの方々に澤山居るが、そんなに怖い虫かい、おぢいちやん、何だか變ね。

駒八　こんなもの何んだ、踏潰ぶしてやれ、皆んな踏め〳〵〳〵。

と云つて豐國の前へ飛び出して前搔を始めた。良く下を見ると柏の葉の裏にも其の下の草の葉にも

毒創痕

（クヌギカレハに刺傷された痕跡）

上にも下にも澤山居る。高い所には盛に萩の葉を食ふて居る奴が澤山居る。

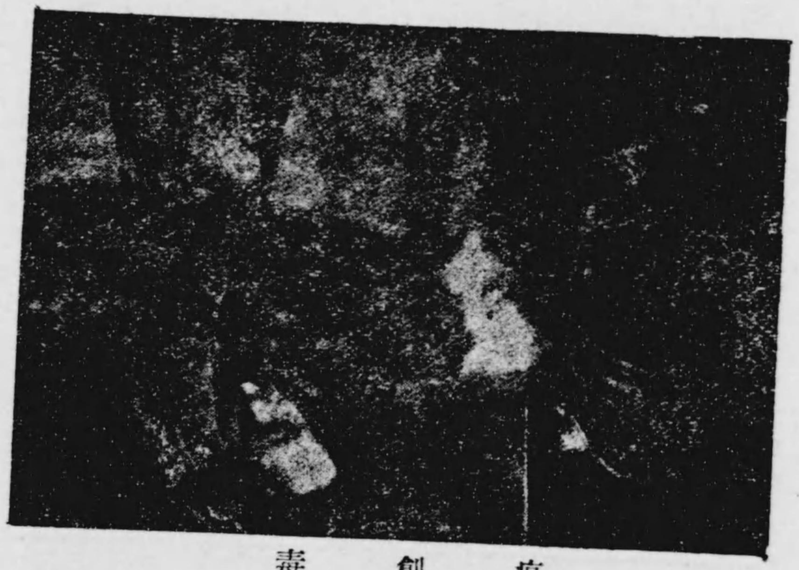
豐國　こらつ、馬鹿者奴。何ぜ己れの言ふことを聞かぬか。今から話をしてやるから皆んな良く聞け。此の毛虫は『くぬぎかれは』と云ふ奴でもう五、六日立つと五糎位の大きさになつて頭の上の紫色の毛が強くなつて來る、そうなるとお前達が此奴に刺されるのだ。此奴は晝の間は木の枝に昇つて行つて、葉を食ふて午後になると大抵の奴が下の方へ下りて來て、木の根元の葉の裏や草の上に止まつて、夜を過ごして居るのが此の虫の習性だよ。そこで朝お前達が歩き出すと朝の露でお前達の足の毛が濡れて皮にぴつちりとひツついて居る時、此の毛虫の側へ行

くと此奴は體を曲げ頭を擧げて觸つたら槍で突き刺してやるぞと待ち構へて居るから、こんな時に此奴に觸ると頭でポンとお前達の繋（つなぎ）だとか繋の後の方だとかに強く打ち掛つて來るんだ。

駒八　こんな小さな奴が百や二百足にぶつつかつても僕等何んにも痛くないよ、見付けたら踏み潰してやるんだ。

新三　うん、駒八の言ふ通りだ。こんなもの何にが怖わいんだ。おぢいちやん、餘ツ程意氣地無しだね、年寄りは矢張り弱いね

豐國　又貴樣等そんな生意氣なことを云ふ。己れが言ふ事を默つて聞いて居れ。此の毛虫が頭で足を打つと其の紫色の毛が皮に突き刺さるのだが、この時は痛くも何んともない。けれ共四、五時間立つと其處に砂粒位のプツ〳〵したものが出來ると少し搔ゆくなつて來る、それから七、八時間も過ぎると此のプツ〳〵がだん〳〵大きくなつて丁度萩の葉位大きくなつてぽつと腫れて來る。斯うなると足がだん〳〵痛くなつて來るから、お前達が之れを氣にして木の葉や草にこすりつける樣になつて來ると、痛みがだん〳〵ひどくなつて來て、二日目位になるともう痛くて跛行曳くやうになる。斯うなるともう痛くて〻〻寢ても起きても居堪らぬやうになつて、熱が非常に高くなつて皆んな泣き出してしまうぞ。



毒　創　痕
（クヌギカレハに刺傷された痕跡）

上にも下にも澤山居る。高い所には盛に萩の葉を食ふて居る奴が澤山居る。

豐國　こらつ、馬鹿者奴。何ぜ己れの言ふことを聞かぬか。今から話をしてやるから皆んな良く聞け。此の毛虫は『くぬぎかれは』と云ふ奴でもう五、六日立つと五糎位の大きさになつて頭の上の紫色の毛が強くなつて來る、そうなるとお前達が此奴に刺されるのだ。此奴は晝の間は木の枝に昇つて行つて、葉を食ふて午後になると大抵の奴が下の方へ下りて來て、木の根元の葉の裏や草の上に止まつて、夜を過ごして居るのが此の虫の習性だよ。そこで朝お前達が歩き出すと朝の露でお前達の足の毛が濡れて皮にぴつちりとひツついて居る時、此の毛虫の側へ行

くと此奴は體を曲げ頭を擧げて觸つたら槍で突き刺してやるぞと待ち構へて居るから、こんな時に此奴に觸ると頭でポンとお前達の繋（つなぎ）だとか繋の後の方だとかに強く打ち掛つて來るんだ。

駒八　こんな小さな奴が百や二百足にぶつつかつても僕等何んにも痛くないよ、見付けたら踏み潰してやるんだ。

新三　うん、駒八の言ふ通りだ。こんなもの何にが怖わいんだ。おぢいちやん、餘ッ程意氣地無しだね、年寄りは矢張り弱いね

豐國　又貴樣等そんな生意氣なことを云ふ。己れが言ふ事を默つて聞いて居れ。此の毛虫が頭で足を打つと其の紫色の毛が皮に突き刺さるのだが、この時は痛くも何んともない。けれ共四、五時間立つと其處に砂粒位のプツ〳〵したものが出來ると少し搔ゆくなつて來る、それから七、八時間も過ぎると此のプツ〳〵がだん〳〵大きくなつて丁度萩の葉位大きくなつてぽつと腫れて來る。斯うなると足がだん〳〵痛くなつて來るから、お前達が之れを氣にして木の葉や草にこすりつける樣になつて來ると、痛みがだん〳〵ひどくなつて來て、二日目位になるともう痛くて跛行曳くやうになる。斯うなるともう痛くて々々寢ても起きても居堪らぬやうになつて、熱が非常に高くなつて皆んな泣き出してしまうぞ。

駒達一同　成程そんな怖いものかねえ、怖いね、君、僕始めて聞いたよ。怖いね〳〵〳〵。

駒一　おちいちやんそんなに痛いのが治るかい……。

豐國　うーん。その事を少し長くなるが、普通の病氣とは違つて未だ獸醫さんでも、治療法や手當などを良く知らぬ人もあるから一通り話してやるよ。昔、軍馬補充部と云ふ陸軍の牧場で此の毛虫に刺されたのが澤山出來た。けれ共毛虫と云ふことがわからずに山や谷を駈け廻る時に繋や球節を挫くのだと云ふて、水で冷やしたり湯で溫めたりしても中々治らずに五十頭も百頭も跛行馬が出來て、ヤツと痛みがとれると其の跡が硬くなつて趾骨病だとか云ふ病名の下に廢馬になつたものが澤山あつたが、治つてしまへば跛ツこは曳かぬけれ共、非常に醜い形になつて軍隊で嫌はれるやうになるから仕方がないね。こんな事が幾年か續いて陸軍でも大いに研究したが、矢張り球節轉戻だとか冠關節轉戻だとかで通つて居つて、吾々には毛虫に刺される事が分つて居つたが、之を見付けて呉れる人がなかつたので、損をしたのは吾々の先輩であつた。所が大正九年頃だと思つたが谷口幸二さんと云ふ獸醫さんが、フトした事から之れは毛虫に刺されるのだと色々實例を擧げて發表された事があつたが、他の獸醫さん達はお前が思つた通りにあんな毛虫が刺したとてそんなことになるもんかと、谷口さんの貴重な此の發見を笑話として葬つて了つたので、谷口さんは大變殘念がつて居つたそうだが、其の後白河や七戸と云ふ所の軍馬補充部で大いに研究した所が、谷口さんの說の通り毛虫だと云ふ事に意見が一致して、これに毒劍と云ふ名前を附けて此の治療法を研究したり、毛虫を養つて其の毎日の習性を調べたりして、此の頃では彼奴の害を受けても吾々が癈馬になるやうな事がなくなつたから大に仕合せだよ。谷口さんの名聲が後世迄殘る事になつて大に御得意だらうね。

駒一　あんな小さな奴の癖に怖い奴だね、それではあんな奴が刺すと、どんな風になるんだらう。

豐國　ウーン、駒一は良い處へ氣が付いた。少し六ケしいけれど己れが知つて居るだけを話してやらう。彼奴はお前達の體中何處でも刺すのだけれ共、尻ツぺたや腹の下のやうな毛が長い所や肉の多い所などは刺されても害をせぬよ。之れはね、彼奴の頭の紫の毛が丁度麥の穗にある芒の樣になつて居るから、繋とか繋の後とか絶えず運動する所やお前達がうるさがつて擦る鼻ツ先だとかに刺さると、此の毛がだん〳〵皮を通り肉を通つて神經を突き通して、ひどいのになると骨膜迄で這入つて行く奴があるので、之れが落ち着いて此の毛の周圍に肉が卷付く迄は非常に痛むのだよ。此の痛みが止まる時分には繋が太くなつて醜い形になるから、一般には之れを趾骨病だと

云ふことにせられて居るが、之れとは全く違ふのだ。

駒一　成程、良くわかつた。それではそんなにひどくならぬ中に治すことが出來るのかねー。

豐國　ウーン、それが中々六ケしい事だが、お前達も氣を付けなきやならぬ事があるよ。此の毒劍と云ふ奴は早く治療をして貰へば早く治るが、手後れになると前に云つたやうに迚もひどくなるからね。それで刺された所がムズ〳〵して來たら木や草に擦り付けないやうにして牧夫さんが來たら刺された肢をピクピク動かして訴へるのだ。そうすると牧夫さんが之れに氣が付いて獸醫さんの所へ連れて行つて治療を受けることになるからね。

駒一　どんな事をして治療するの、怖かないの。

豐國　少しは痛いけれ共我慢すれば出來るよ。獸醫さんがね足を見て此處か何處かと探ぐるから其の時に刺された所を押へたら、其處だと云ふことを訴へるやうにするんだ、そうすると其處へ藥を塗つてから十文字に切つてうんと押して大分澤山の血を搾り出されるよ。そうすると毛虫の毛が血に交つて大抵は皆んな出てしまふから、もう後はサツパリして創の跡は五、六日も經つと治つてしまつてなんでもないやうになるんだが、若しも痛いから嫌だと云つて暴れたり蹴つたりすると毛がだんだん中へ入つて、とう〳〵取り憎くなるから損だよ。今ではこうやつて早く毛を取出すことが一番良い治療法だ、とされて居るが尙色々研究されて居るから又良い方法が見出されるやうになるだらう。やー大變毒劍の話で長くなつたが是れで終りだ。皆んな氣を付けて刺されぬ樣にして澤山草を食へ。

今日は朝から天氣晴朗、山の下から吹いて來る風が氣持ちよく毛並を逆立ててかすめて行く。皆んな愉快にブラ〳〵歩いて草を食ひながら丘の上へ登つて行く有樣は牧場を見た事がない人には想像もつかぬ圖である。折柄遠くから五、六人の話聲が聞えてだんだん近付いて來た。

馬主の喜びと憂ひ

牧一　どうです、皆さんから御預りして居る駒は皆んな發育が良いでせう、今日はゆつくりと見て下さい。

太郎吉　やー己れんとこの「奴」あそこに居る、良く太つたナ見違へる樣になつたなあ。

五作　己れんとこの奴もあんなに太つた、彼奴は、ノルマンの子に少し重い奴が掛つて居るからまだ〳〵太くなるね、砲兵輓馬だね。

彌兵　やあ〳〵己れんとこの重太はペルの血統だから、內に居つた時は大變太つて居つたから牧場

へ來たら、ウンと太るだらうと思つて居つたが、どう云ふもんだろ、毛艶も悪るいし、榮養も悪い、こりや大變だ。牧一君、一寸檢査頼むヨ。

牧一　さうだね、榮養が大分悪いね、病氣かも知れぬから體溫を測つて見よう。おかしい體溫が無い、別に下痢もして居ないが元氣が一寸ないね、一體どうしたのだらう、わからぬね。まあ暫く此處に放牧して置いて悪かつたら引上げて下さい。

豐國號が傍に來て慣れ〳〵しく人の身體に摺り寄つて來て時々大きく口を開いて、舌で齒を刮めながら人の顏を見るのである。一體豐國は何を人に訴へて居るのだらう、誰れも此の馬の謎を解く人は一人も居なかつた、一寸六ケしい樣だが何んでもないことだが……人々は一體あの重太はどうしたのだらう、病氣でもない、怪我もして居ない、何んだらうねと話し合ひながら歸つて行つた。

豐國　おーい新三、駒八、お前等は重太が一向太つて來ない譯を知つて居るか。今日牧一さんやお前達の御主人公が來たが、誰も氣がつかずに歸つてしまつたけれど重太はこれから草が硬くなつて來るとだん〳〵痩せて來るので可愛さうだが仕方がないね。人が氣付いて呉れなければ獨りで內へ返してやることも出來ぬから困つたもんだね。

駒一　ほんたうに氣の毒だね、重犬君。此の頃だん〳〵草が嚙み切れないやうになつて來て腹が空いても澤山食へぬから困つたと云つて居るぜ。

豐國　そこだよ、己れがそれを知つて居るから御主人公に今日も色々と教へてやらうと思つたけれ共、牧一さんも氣が付かぬから外の人はさつぱり譯分らずに不思議がつて歸つてしまつたからね。

駒一　重太君一體どうしたの。

豐國　重太はね、牧場に來る前から下の齒がね上の齒と半分位しか合はなかつたのがだん〳〵大きくなつて今では上下が合はぬやうになつて來たんだから、前齒で草が切れないやうになつて來たのだヨ。早く人が氣が付いて厩へ歸らせるとほんとうにプク〳〵太つて來るがね。放牧をする時には齒を良く調べて前齒の喰ひ違ひの大きいのは放牧をやめて、育成しないとこんな誤りを來たすので、人の不注意の爲に馬が痩せるからほんとうに氣の毒である。

放牧育成に目醒めた馬主

灼き付くやうな炎天に放牧せられて居る二歳駒も、今年は天候が順調で草生ひも良く、五月放牧以來大した事故がなく、虻群襲來も二、三度はあつつたが榮養は日一日と良くなつて、これでも二歳かと疑ふ程體高も胸圍も增したものが多かつた。

從來放牧をして育成した經驗がない畜生も、今年始めて共同放牧場が出來て馬を育てるには放牧をするのが馬の爲にも良く、經濟上から云つても最も利益であることがわかつて來たのは、結構なことであつた。

太郎一　五助君已らあー、はー親爺から馬は山などへやつてはいかぬ、內で甘味いものを食はして育てるに限ると敎はつて居つたから、今まで四、五頭も飼つたけれども何時も思ふ樣に育たずに、肢が細くて腹ばかり太つて碌なものが出來なかつたが、今年は思ひ切つて共同放牧地へ放して見たら同じ母馬の仔でも、新一のやうに良く出來たことは無かつたからほんとに嬉しいよ。今年は君んとこの野郎に負けないぞ、五助君どうだい。

五助　何に已れんとこは昔から山などへやらねーが、馬を育てることは已れんとこは秘訣があるからね、君がいくら威張つても已れんとこの愛馬に勝てるなら勝つて見給へ、負けたらもう馬はやめるよ。

太郎一　五助君、大きなことを云ふなよ、まあ〳〵お糶の日の勝負だ、後一と月だ、軍馬から外れて青い顏をするなよ。

廣漠たる牧場では豐國號を親の樣に又先生のやうに追ひ慕つて毎日其敎を受けながら角力を取つたり鬼ごつこをやつて居る幼駒の一群が、老馬に導かれて草を食ひ、水を呑み、廣い牧場を我物顏に彼方此方を歩いて居る。

何時しか炎熱の夏も過ぎて、秋風颯々として木の葉の雨は音を立て崖地に吹き飛ばされて行く。昨日迄、甘味そうに見えた草葉の先きが黃ばんで、萱の穗は風に吹かれて腰が折れそうに見えても中々頑張つて居る。

太郎一の女房　おとつちやん、內の新一野郎は何時山から下げて來るべーかー、もうお糶も近づいたゞからなあ、ちつとは內で可愛がつてやりたいね！

太郎一　うん、そんなこと云つたつて共同放牧だから、內の野郎だけ一匹引つ張つて來ることは出來ないから仕方がないよ。

女房　だつて、あんな可愛い良い奴は今年始めて出來たんだから內でちつと御馳走してやりたいから早く引張つといでよ。

太郎一　馬鹿云ふな、お前が何時でもあんまり食はせすぎたもんだから、毎年しくじつたぢやないか。

女房　そんなこと云つたつて、小僧を育てるのは女の仕事ぢやからのん。

雖日も一と月足らずに近づいて來た。共同放牧地の管理者から山の草がだん〳〵硬くなつて、榮養がわるくなる心配があるから、もう收牧して呉れと云つて來た。

今日は收牧だ。朝早くからぞろ〳〵と馬主が山へ集つた。百頭近かくの二歳駒が放牧地の入口にある追込馬場に集められて居る。種馬候補馬になりそうな良駒も居る。軍用乘馬に適當なのも輓馬にでも駄馬にでも、見好き撰り取り、恰かも品評會の様な感じがする。

駒には名札もなく蹄印もなにも附けてないが、馬主はちやんと自分の馬を間違へずに頭絡を掛けて柵に繫いだ。

放牧地管理人である駿助が、引取に來た馬主に放牧間の有様を説明して引渡すのである。

二才馬の相馬法

此時、豐國と大長が駒共と別れるのが如何にも名殘惜しそうに、あちらこちらと駒共の側へ行つて挨拶するやうにも見受けられた。一體此老馬二頭は何を話して居るのだろう。

豐國　オイ大長君、ね、馬主の人等は自分の馬が天下の名馬と思ふて皆んなお天狗になつて居るが、そう何れも此れも天下の名馬であつたら結構な話だがね。

大長　うん、前から內に居る奴等は大體に惡くはないが、五月始めて此處へ來たやつにはあんまり感心の出來ない奴も澤山居るからね。

豐國　そーだよその癖に持主には其良い所や良くない所が、さつぱり分からぬ人が多いから困つたものだね。どうだ、大長君、一つ僕と君とであの小僧共の將來の出世の占ひをやつて見ようではないか。

大長　うん、それは面白いが、實は僕はね、君程澤山の小僧共と一所に生活したことがないし又餘り研究したことがないから、君の名論卓說を伺ふことにしよう、相馬博士賴むよ、僕も六十の手習で大に勉强するから敎へて呉れ給へ。

豐國　大長君そうおだてるなよ、君だつて中々良く馬見の術を知つて居る癖に……

放牧場管理人駿助の周圍に集まつた馬主二、三十人、各々自分の馬の放牧間の成績を聞きながら、御互に他人の馬と自分の馬とを見較べてにこ〳〵して、放牧の成績が意外にも良かつたことを喜んで居るやうである。

太郎一　ねー駿助さん己らあ今年始めて放牧ちゆうことやつて見たが、若けい者が不足して居る今頃の様な時には手數もかゝらず、おまけに馬が大變良くなるのでこんな良いこたあねえよ、來年

も賴むぜ。

五郎作　己れも太郎一とおんなじこつたが、己らあ馬盲目だから何時でも損ばかりして居るから、一つ丁度良い時だ、駿助さん此處に居る馬で軍馬になるやうな奴はどんなものか教へて呉んないか、どうだ皆んな先生に賴もうや。

馬主一同　贊成々々。

駿助　うん、それでは僕の知つてる所をお話するが、己もあんまり深いことを聞かれたつて知らないよ。

豐國　オイ大長君、內の親方が相馬學の講義をやるぜ、僕等の話を中止して一つ謹聽しようや、親方も案外出鱈目を云ふからね……

大長　內の親方だつて大きなことを云ふけれど馬の仔ぢやないから、己れ達の心の中迄はわからぬからね。

豐國　うんそうだ、君は中々良いことを云ふね。時に親方が何んだかもぢ〳〵して居るぜ、早く話しかけりや良いがね。

駿助　今から馬の御話をしようと思ふけれど、一寸御斷りして置かにやならぬことがある。それは外でもないが、今度の支那事變が起つてから軍馬の採用方法が變つて來たが、僕等にはまだほんとのことがわかぬから、內に居る奴等も何れが軍馬になるやら一寸見當がつかないで困つて居るから、己れが云ふことも當てにならぬよ。

五郎作　へ、、、、駿助さんは馬の事なら何んで良く知つて居ると思つたが、あんたでもわからぬことがあるのかね。

駿助　そりやー君、僕等は我流で其上子供馬のことは知つて居ても、出來上がつてどうなるかを知らぬが軍馬購買官などは實際に馬を使つた經驗上から馬を見るので、僕等の全くわからぬ所に目を付けて見るから實驗相馬學とでも謂ふのかね、どうしても實際に馬を使つて深い體驗から割り出された馬の見方でなければ駄目だよ。馬と云ふ奴は器械と違つて寸法に合格したつて駄目なやつがあるからね。

こんなことを話しながらまだ駿助は本筋の相馬談には這入らなかつた。

檢定檢査の用役區分

「ヤア皆さん、此處に居らさつたかね。皆さんの內へ行つたらお留守ぢやつたから多分牧場だらう

功勞軍馬は嘶く

と思つて此處へ來て良かつたね」斯う云つて古い鞄の中から赤紙を澤山取出したのは、役場の小使の吉藏老人であつた。

駿助　吉藏さん、檢定通知書かえ、去年はあんたも大分困つた樣だつたが今年はどうかね、もう大抵分つたらうから今年は間違ひないだらうね。

吉藏　否やゝゝ今年だつて、まだ中々徹底したと云ふ程度には行つて居らねえーよ。それに今年の檢定に出る馬が去年と少し違ふし、去年の二才の合格馬は今年は定期檢査ぢやから、其區別がわからぬ人があつて、赤紙を配つて行くと隨分わからぬ質問を受けるには閉口ぢやよ。己れなんか只使ひ歩きするだけが仕事ぢやのに、まるで馬政局の事務官に尋ねる樣な事を聞く人があるのには驚くよ。

駿助　そうぢやらうね。それに今年は去年出なくてもよかつた馬も、臨時檢定とやらで出なけりやならぬことになつて、隨分複雜だからね。

吉藏　ほんとに今年は複雜だから、役場の兵事係も汗だくで轉手古舞してござるぢやよ。駿助さん、あんたんとこのを渡すから、見てお呉れ、間違ひなかんべーなあ。

駿助　えー駒一、駒六、駒八に……と、皆んなで十二頭だ、よしよし間違ひない、此奴等皆定期檢定ぢやね。

吉藏　太郎一さんとこのは新一ちゆうんだね、あゝ良い馬ぢやねえか！　今迄おめえさんとこに、こんな良い馬が出來たことはなかつたね、そら、此通知書を受取つて呉れ。

太郎一　おぢーさん、なんだか賞めるのか冷かすのかわからねえが、己れも今年始めてこんな良い馬が出來たのを喜んで居るよ。これも放牧の御蔭ぢやよ。內で飼ふ三分の一の費用もかけずに、新一は三倍も値打がある馬になつたからねえ、放牧は全く難有いもんぢやよ、時にねえ吉藏さん、五助さんとこへもう行つて來たかい、あそこの愛太と己れんとこの此奴と何つちが良いと思ふかね。

吉藏　そりや云ふ迄もない、此奴の方が一、二段上だよ。今年ばかりは五助さんも鼻が折れたねえ、永年あんたと五助さんとはお天狗同士ぢやつたが、此年は御めえさんの鼻が一尺も高くなるね、は、、、、

太郎一　難有い〳〵、五助の野郎負かしてやれるかなあ。

吉藏はそこに居る十數人の馬主に、夫れ〳〵檢定通知書を渡して急いで牧場を出て行つた。

太郎一　駿助さん、僕も實は檢定の事は良くわからぬが、赤紙に書いてあることを間違ひなくやれ

ば良いだらうね。

駿助　あーそうとも、誰れだつてそんなに詳しくわかりやしないが、お上の御命令を間違はぬ様にやつて行くのが何により大切で、だん〳〵わかつて來るよ。

太郎一　時に駿助さん、皆さんが希望ぢやから、さつき頼んだことを一つ話して下さいよ。

駿助　それでは御話するが、わしから彼此れ云ふよりも皆さんの方から問ひを出して貰つて、お答へするやうにした方がよいだらうから、そう云ふことにしようでないか。

太郎一　去年軍用保護馬の檢定の時に、軍服を着た嚴めしい委員長が「乘甲」とか「戰駄乙」とか「乘乙充當輓丙」とか云ふて檢査票に記入させて居つたが、乘甲などは僕等もわかつたが、「戰駄」とか「充當輓丙」とかは、一體どういふことかねえ、君。

六郎　僕もね、何んだかわからなかつたが近頃馬の用役區分が變つたかね。

駿助　ウン僕も最初わからなかつたから、檢定官に聞いて見てやつとわかつたよ。それは昨年から始まつた軍用保護馬の檢定には、産業用役と標準用役と云ふ二つに區別されて居つて、産業用役と云ふのは僕達が日頃乘馬として使つて居れば乘馬と云ひ荷馬車に使つて居れば輓馬と云ひ、馬の體格が太からうが細からうが、又アラブだらうがノルマンだらうが車を輓かして居れば輓馬と云ふことになつて居るから、八郎さんとこのあの鹿毛の奴は細い馬だけれ共、毎日荷馬車を曳いて居るから矢張り輓馬と云ふんだね。

太郎吉　なる程そうかね、そうすると産業用役ちゆうやつは、使ひ道で輓馬にでも駄馬にでもなるんだね。

駿助　ウンそう、そう思つて居ればよいね。

五郎作　そうすると、軍隊で云ふ乘馬、輓馬、駄馬と云ふのと、今駿助さんが云つた乘馬や輓馬とは何う違ふかね。軍隊でも乘つて居る馬は乘馬で、大砲を曳いて居るやつは輓馬だからこれも産業用役かね、己らあ何んだか譯がわからぬ樣になつちやつたよ。

駿助　なる程ね、五郎作君が云ふのも道理ぢやよ。所がね、吾々民間で馬を使ふ人は軍隊の樣に澤山の馬を持つて居つて、此れは乘馬、此れは輓馬と云ふて馬の體格に應じて使ひ道を區別すると云ふことが出來ぬから、手に入つた馬を兎に角に自分の仕事に使はにやならぬから、細つこいへナ〳〵した馬でも輓馬に使つたり駄馬に使つたりするのであるから、此れは馬の體格から見て輓馬と云ふ譯には行かぬ。そこで産業用役と云ふて使ひ道を示した用役の稱へ方が出來て居るのぢやよ。

五郎作　はは、、、、さうすると車を曳いて居るやつはどんな體の馬でも輓馬と云へばよいのだね。

駿助　まあさう考へて居れば良いね。そこでまだ君達が一寸疑問に思はれるのは、標準用役ぢやが、此の用役は馬の體格上から見て定めるのであつて、軍隊で使つて其馬の本當の能力を十分表はすことの出來る適當の所に使ふので、所謂適材適所と云ふ所だね。軍馬は二歳で買はれるものでも、壯馬で買はれるものでも、此馬は乘馬、此馬は輓馬と云ふ風に、ちやんと始めから體格や種類から觀察して使ひ道を豫定して買上げるのであるから、此時に定める用役を標準用役と云ふて居るのだよ。

太郎吉　良くわかつたが、檢定の時に充當用役といふことを聞くがこれはどう云ふことかね。

駿助　それはね、譬へて云ふと此處に居る豐國といふ功勞馬は乘馬であるが、體が割合に太くてしつかりして居るから、こんなやつは檢定の時に「乘甲充當乙」とでも用役を定めることがある。大長のやうな奴は「乘甲充當丙」だね、乘馬としては甲の資格でも輓馬にすれば體量が足らぬから、乙や丙にしかならぬからね。

豐國　オイ大長君、內の親爺僕等を馬鹿して居るぜ、御互に優秀な乘馬として永年御奉公をして表彰されたものを、何んぼ何んでも輓馬と云ふのはひどいね。

大長　ウン癪に觸るね、此處に居る小僧共の內で充當用役の付けられる奴は幾らでも居るのに、僕等を例に引つ張り出すのはおやぢ、ちとどうかと思ふね。

二頭の老馬はビン〳〵其の邊を跳ね廻つて居る。

駿助は馬主に對して一問一答しながら檢定の方法や相馬學を說明したのであつたが、痒い所へ手が屆かぬ所もあつた。こんなことは馬自身が良く知つて居る。

豐國と大長をして補足的に云はせると次のやうなことになる。

豐國　大長君、先づ內の主人公が說明した戰駄と云ふ奴は、どんなもので、どんな所へ使はれるかと云ふことや各用役の特別の點などが他の人達に良くわかつたゞらうかね。

大長　うん、僕もそう思ふたが、まだ陸軍や馬政局で定められた用役區分や其用途を、判つきり云はなかつたね。

豐國　君が言ふ通りあれでは他の人にはわからなかつた所もあるから、僕等お互に一つ研究して見ようでないか。

大長　豐國君、こんど定められた用役區分は僕も實は確實に知らないから、君一つ說明して呉れ給へ。

豐國　それぢや説明を試みるからね。今度の檢定が始まる前には乘輓駄及戰駄と四つになつて居つたが、今度は乘馬、輓馬、駄馬、と云ふ風に三つに分かれることになつたんだよ。

大長　成程ね、そういふ區別があるんだねえ。一體吾々仲間にそう云ふ風にお前は駄馬だ、お前は乘馬だと、きちんと定まつた形なり親讓りの仕事でもあつて、定まつて居るのか一體其譯がわからぬね。

豐國　そう君の樣に理屈を云ふたとて理屈通りにや行きやしないよ。日本の吾々仲間と云ふものは、昔から一定した型などがなくて改良、改良と云つて外國から良いやつを買ふて來て、之れを種馬にして昔から日本に居つた吾々の先祖にだん〳〵と交配して合の子を作つて居るのだからね。この合の子が少し型が固まりそうになると、又方針が變つてそら輕る過ぎるの、そら重過ぎるの、そら體高が大き過ぎるのと色々の意見が出て、良い所も增えて來るかと思ふと惡るい所も亦增えて來ると云ふ調子だからね。僕等が小供の時分には盛んに乘馬が足らぬから乘馬乘馬と乘馬生產熱を煽られたもので、英國とかアラビアなどから良い奴が澤山輸入せられたもんだが、あんまり乘馬を奬勵して吾々仲間を增す目的で地方競馬と云ふ競爭がはやりだしたら其結果、脚が細くて木箸に紙を卷いて長茄子に突き挿したやうな細くて弱い肢の奴が澤山出來たので、とう〳〵軍隊に這入つても御勤めが出來ない弱虫が增えて來たから、これでは困つたと云つて居るところに支那と戰爭か始まつた。肢の細い幅の狹い細つこい奴等が片つ端から倒れると云ふ調子で、兵隊さんも大分困つたやうだつた。其處で色々調べた結果、陸軍では輕種系の乘馬は一部平時用の外必要はないから、骨の太い幅の廣い地低くなやつが良いと云ふことになつて、ノルマン萬能の時代になつて來たんだよ、僕等のやうな輕種系はだん〳〵御拂箱さ。

大長　豐國君、君は新しいことを非常に良く知つて居るが、一體何處でそんなことを習つたかね。

豐國　君が不思議がるのも無理はないが、昨年僕が此方へ來る七八ヶ月前にね、軍馬資源保護法と云ふ法律が出來て始めて軍用保護馬の檢定と云ふことが行はれるやうになつたが、其檢定官達の仕事を統一する爲に、馬政局の事務官が先生になつて澤山の檢定委員長や縣廳の御役人を集めて教育をやられた時に、僕は乘馬の代表として毎日引つ張り出さて其説明を聞いて居つたから、一通り覺えたのだよ。

大長　成程ねー、それで君の博學のことがわかつた。

豐國　なーに僕は博學でもないよ。

大長　君は中々吾々の祖先の歷史も良く研究して居るね。そこで君、乘馬や輓馬や駄馬迄も皆んな

ノルマンで作つて行くと云ふのかね、一體ノルマンと云ふ奴はドタ〳〵してのろい奴だらう、あんなのろいやつが良いのかねえ、輓馬には良いかも知れぬが乘馬にはどうだらうね。

豐國　ノルマンと一口に云へば君の云ふ通りに思へるけれどもね、このノルマンにサラブレットが掛かつたアングロノルマンと云ふやつは、乘馬型と輓馬型とに大分けすることが出來て、矢張り乘馬にも適當なやつがあるよ。フランスの御自慢の馬になつて居るからね。ノルマンのフランスはトラケーネンの獨逸には勝てぬかねー馬强ければ國强しかね、これは一寸餘談ぢやが、吾々だつて體の太い細いよりもどこ迄もやる、死ぬ迄で働らくと云ふ强い意志がなくては駄目だね、お互ひ年を取つて隱居の身でもまだ若い奴等には負けぬからね。

大長　中々ウマいことを云ふよ、時に君、先刻役場の小使さんが新一を大變褒めて行つたが、新一と內の駒一とは一體どちらが良いだらうね。

豐國　そりや君、馬の資格から言つても何處から見ても問題ぢやないよ、駒一は種馬級の逸物だよ、新一は上級の軍馬級のやつだよ。

大長　ふんそうかね、僕が日頃見て居つて、あれ等二つは兎に角此牧場に育つた奴等では他の奴等よりずつと上位で、其內でも新一は駒一にも劣らぬ悧巧なやつだと思ふて居つたが、そんなに格が違ふかね。

豐國　一寸見るとそう思へるかも知れぬが、良く細かい所に氣を付けて見給へ、駒一の先づ全般の諧調（つゝをひ）は實に立派なものだ、つツと見た所、一點の非難の打ち所がないね、それから頭は輕るくて頸は高くなし低くなし而も丈夫で、あの眼付きと來たらはつきりして居つて底光りのあることは、まるでダイヤモンドが光つて居るやうぢやないか。眼丈けでも新一なんかの迚も及ばぬ所だよ。

大長　成程、そう聞けば駒一の眼は如何にもそうだね、目は心の鏡ぢやからね、あやつの耳も大したもんだね、大坪本流とやらに、耳は青竹を斜に切つて天に冲したる如しとあるそうだが、ほんとにあれが吾々の耳の標本的のものだらうね。

豐國　君も夫れに氣がついたね、ほんとにあ奴の耳は恰好が好いばかりでなくて、物を聞きわけることの鋭いのや、どんな小さい音でも良く聞き取ることは全く一寸比類がないね、つまり眼が良くて耳が鋭敏だから頭腦が明晰で賢いことを表はして居るんだね。

大長　僕は新一も此點は駒一に負けず劣らずだと思ふがどうだうう、あ奴も中々賢いぜ。それに新一は走ることの早いのは駒一以上だね、體高も大きいからね。

豐國　新一も良い所は澤山あるが駒一に及ばぬ所も澤山あるよ。駒一の頸や肩を見給へ、頸は長過ぎず細からず、太過ぎずしつかりした力があつて、斜めで長い肩の上にどつしりと恰好良く着いて、鬐甲の高さ厚さ長さは又理想的で、頸、肩、鬐甲の關係は滿點だね。此點は迚も新一や駒六などの及ぶ所ぢやないね。新一の肩は少し起つて居つて競馬式の所が見えて居るね、血筋は爭へぬものだよ。

大長　成程そう聞けば駒一の方がよいかね。然し駒一のやつの前肢は何んだか新一の前肢よりも負けて居るやうに見えるが、どうだらうね。

豐國　君も中々目が利くね。駒一の缺點は夫れが一つだ、駒一の繋だよ。慾を言へば少し短くて少し起つて居るね、それで蹄も少し起つて居るから、人が使ふ時や蹄を削る時に餘程注意せぬと、だん〳〵繋と蹄が起つて躓く樣になつたり、球節が突つ張つたりして來る心配があるが、六七歳になれば大丈夫だね此點丈が惜しいものだが、血筋から見れば新一より繋の短かいのは當前だらうね。又多少起ち氣味に見へるのも血筋の關係さね。又、君、駒一の前肢を前と側面から見でみ給へ、垂直の正しいことは又標本的だが、新一の肢は前から見た所は申分ないが、側面から見ると膝が少し曲つて輕度の彎膝だよ。此の彎膝は蹄の削方がわるいとだん〳〵深くなつて來るよ。

新一の父親や先祖には隨分深い彎膝でも、競馬には迚も素晴らしい速度を出して居るやつが澤山あるから一概にわるいとは云はぬけれ共、新一は肩が起ち氣味で彎膝を伴つて居るから一寸考へなければならぬ點があるからね。

大長　へゝゝ、それでは彎膝のやつはどういふ風になつて居ればよいかのね。

豐國　彎膝のやつは肩が長くて正しい角度を持つて寧ろ少し臥て居つて繋が長が目であつて起つよりも臥た氣味になつて居れば缺點の補償がつくことになるよ。

大長　成程そう聞けば矢張り新一の缺點の方が大きいかね。

豐國　それでは駒一と新一とを今少し比較して見ようぢやないかね。此の二匹は實際僕等が心から可愛がつてやつた奴等だからね。

大長　ほんとうに僕等の仲間でも此奴位出來の良いやつは減多に見付からね。それに父親や母親の血統ばかり八釜しく云ふて、實際の天性持つて生れた美點を次にするやうな、競爭向の點に重きを置かれようとする世の中であるが、僕等御互は之れでも軍馬だから、軍馬には血統も無論排斥する必要はないが、軍馬としての實際主義から見て大に批評することが適當だと思ふね。

豐國　ほんとうに君の云ふ通りだよ、そりや血統が能力を發揮する點や生產方面では全く爭ふこと

の出來ない遺傳力を持つて居ることは勿論であるが、之は種馬屋さんの議論に委せて、僕等は實用的能力を目的として考へることにしよう。

大長　それでは君、駒一で、軍馬としての美點を今少し詳しく教へて呉れ給へ。

豐國　先刻も一寸云つたが駒一の肩、鬐甲、頸の關係を見給へ。斜めになつた肩で肩胛骨は長さと云ひ斜の度合と云ひ誠に理想的であつて、其肩胛骨の上端と鬐甲の關係は申分なく、又鬐甲は高さもあり幅もあり長さもあり何んとも云へぬ良い恰好をして、おまけにその前にずつと如何にも力のありそうなしつかりした頸が泰然と落ち着いて附いて居る樣子は、どんな忙がしい時に兵隊さんが鞍を置いても、鞍はぴつたりと位置がきまつて動搖することがなく、鞍傷などにかゝることがないやうに出來て居るね。

大長　へえ、鬐甲に鞍傷が出來るのは兵隊さんの不注意や鞍がわるい時に起るものであつて、馬の骨格には大した關係がないやうに思ふて居つたが、そういふものかね。

豐國　そりや君に似合はぬことを思ふて居つたね、あの濠太を見給へ、あれの鬐甲は高過ぎて幅が薄くて長さは相當長いが鬐甲の前がべつこり凹んで、變な恰好をして居るだらう、おまけに鬐甲の後端の兩側は人間の拳が埋まる位凹こんで居るだらう。あれは日露戰爭の時に、濠洲と云ふ所から一萬頭買はれて來た連中にはこんな缺點が非常に多くて、兵遂さんが隨分苦心したが、行軍をすると鬐甲を眞赤に剝いて痛がつた連中が澤山あつたさうだ。其時の牡馬や牝馬が種馬や繁殖馬に使はれて、日本の馬產改良を急速に進步させたのだけれども、又斯ふ云ふ缺點も相當蔓延したわけさ、あの濠太などは此缺點を一番多く遺傳せられたものだらう。あんなやつは軍馬としては何處へ行つても不合格になることはきまつて居るね。

大長　うん、そうか、よくわかつた。

豐國　それで濠太を例に出したからもう少し說明をして置かうかね。あの鬐甲の前のへつこんだのを斧痕と云つて恰好がわるいばかりでなく、之が爲に頸が低く附いて居るやうに見えるだらう、あれで頸を上げると變てこな形になるよ。これを人間が鹿の頭だと名付けて居るが、隨分馬鹿にした名前だね。それから濠太の頸は側方から見ると太いやうに見えるが前から見給へ、頸が薄くて頸の附根も細いだらう、こんなやつは人間が乘つて仕込んだ所で、何時迄でも頸がグラグラして居つて、おまけに頭が大きいから頸を起すことが六ケしいので乘る人はほんとうに困るぜ。

大長　そうかね、それに濠太のやつ、中々あれで意地張りだからね。

豐國　うんそうだ、あ奴は一番云ふことを聞かぬ我儘ものだからあれで乘る人が少しへまなことを

やつて無理なことを要求して見給へ、怒つて頸を曲げ頭を下げて狂奔したり、尻を擧げて人間を振り落して自分で樂をしやうと云ふやつだよ。

大長　だから軍馬には駄目だね、何處へ行つても嫌はれものだね……

豐國　ありや僕等仲間の後輩として、餘程精神教育をしてやらぬと身體の出來がわるい上に精神上もわるいから全く不良になつてしまふね。駿助さんにはこんなことがわからぬもんで、濠太の主人公に「濠太は血統は良いし身體が大きいから軍馬になるからも知れん」など〻良い加減なことを云つて、主人公を喜ばして居つたからおかしいやね。

大長　濠太はあれでも主人公が競馬に出すんだからと云つて大威張りだそうだよ。

豐國　へ〻〻僕はそんなことを聞いて居ないが、そんなえらいことを云つて居るんだね、おかしいや。あんな濠太のやうなやつがいくら威張つたつて公認競馬は勿論のこと、鍛錬馬競走にも不合格だよ。地方競馬が盛にやられた時代には、あー云ふやつが一哩位の短距離で良く勝つたことがあつたので、畜産家の連中であんな馬を澤山作るやうになつて、競馬本來の目的である馬產改良を誤つて改惡して、あー云ふ胸幅も尻幅も狹くて肢が細くて長いひよろ〳〵馬が方々に生れるやうになつて來て、僕等御互が見てもこんなことでは吾々の後輩が軍馬として御役に立てるかと心配するやうになつたんだね。

大長　僕が居つた輜重隊でも時々あ〻いふ風の奴が入隊したことがあつたが、ひよろ〳〵して居つて車も輓けず荷物も背負へず三里か四里も歩くと肢が痛いとか背中が剝けたとか呼吸が苦しいとか、得手勝手な弱音を吐いて兵隊さんを手古摺らしたやつが居つたよ。こんなやつを纖細菲薄軍馬の資格なしとでも云ふだらうね。

豐國　君は中々偉い言葉を知つて居るね。君が云ふ通り軍隊に入つて、そういふ弱音を吐くやつが段々殖えて來たので、こんどの支那事變で日本の馬は弱いと云ふ惡口を云はれて僕等は憤慨して居つたよ。所が今度制定せられた軍馬資源保護法と種馬統制法と云ふ法律で、こんな細つこいやつは斷然軍用保護馬としないから、鍛錬馬競走にも出ることが出來ないやうになつて、地方競馬の爲に細い馬が生れた弊害を一掃することが出來るやうになつて、吾々の子孫の爲全く慶賀の至りだね。種馬も色々と八釜しい檢定法が定められて、丈夫な子供が出來るやうになつたから、僕等も大に安心が出來ることになつた譯だよ。

大長　色々と君の説明を聞いて賢くなつたよ、時にあの駒一は乘馬か輓馬か駄馬か何になるだらうね。

豐國　そりやー君、駒一は乘馬の模範的のものだよ。乘馬生産が盛んであつた時代なら、國有種馬の候補馬で高く評價されるだらうが、今ではアングロノルマン、アングロノルマンと云ふて、僕等から見ればあんまり感心しないやうなやつでも、種馬候補馬や種馬になつて得意がつて居る時だから駒一は案外不幸を見るかも知れぬが、然し彼奴は父も母も名馬であるし身體も立派なものだから、僕の見る所では大丈夫乘馬產地へやられる種馬候補になるだらうよ。

大長　ふんそうかね、何んだか駒一は小供の癖にあんまり身體が出來過ぎて居るやうに思はれるが、あれで大きくなるかね。

豐國　そりやー君、あの駒六のやうに伸びないのは勿論であるが、それでも一米五十二、三迄は大丈夫伸びるよ。駒六は君、あれで大人になつたら一米六十二、三か、もつと伸びるかも知れんよ。駒一が一米五十二、三迄伸びて見給へ、ほんとうに理想の乘馬であつて種馬としても大丈夫だよ。

大長　なる程ね、そう聞けばまだ小供臭い所もあるし此の春から今迄にも隨分伸びたからね。時に駒一の胴體は何んだか長いやうで短かいやうで、駒六やなんかと比べると僕にはどうも判斷がつかぬ恰好をして居るね。

豐國　へへー、あれが君、乘馬には一番必要な所謂短背長軀と云ふんだよ。

大長　僕は短背と云ふことはわかつて居るが、長軀と云ふことがどうもわからぬね。駒一よりも駒六の方が長軀と云つてよいように思ふが、一體どんな違ひがあるかね。

豐國　あはは……大長君、君もまだ素人だね、昨年僕が檢定委員長の協議會に引つ張り出されて行つた時にも、若い委員長がそういふ質問をして先生から笑はれて居つたよ、君も其例に洩れずだね。

大長　やー素人にされてしまつた、年甲斐もないね。

豐國　これは失言だつた、失敬々々。駒一は長軀で駒六は長胴とでも云ふんだね駒一は肩が斜になつて肩胛骨も長く、肩端がずつと前へ出張つたやうに見え又尻の骨も適當な角度で長いだらう、然し腰から髫甲迄の所謂背は短いだろ之れだから短背であつて肩端から臀端迄を計つて見ると長いから之れが長軀だね。之れが背が強くつて負擔力があり背と腰が太く短かいから腰が強いと云ふことになるだらう、これが乘馬や駄馬には一番大切な所だね。

大長　それでは駒六の身體は何んと云へば良いかね。

豐國　あれは良く見給へ、肩胛骨は體の大きい割合に短くて、駒一に比べるとずつと起つて居るだらう。

大長　うん、そうだ。

豐國　それから尻を見給へ、兩方の腰角を假りに繋いで見ると、其の線と背骨が交はるところが一番高いだらう、此處から尾の付根迄の部分が斜めになつて居るだらう、それであるから馨甲から腰迄は長いけれ共、肩端から臀端迄は胴の長い割合に長くないだらう、こういふのは長胴とか腰長とか云へば良いだらうね。然し此形であんまり、腰が長過ぎずに太くて強いのは輓馬には必要なことだが、長軀と云ふことと長腰長胴と云ふことと誤つてはならないことだね。

大長　良くわかつたよ、もう僕も間違へないよ。

追込馬場の周圍に繋がれて居つた新一や濠太や其の外の四五十頭の駒は、皆馬主に牽かれて山を下りて歸つて行く。馬主共の話聲は谷間に響きながら、だんだんと遠ざかつて行つた。

後には駿助さんの牧場の馬丈けになつたから、又放されて喜んで駈け廻はつたり、草を食つたりして、老馬の周圍に集まつて來る。

豐國　大長君そら駒一があつちから來るが、あの歩き振を見給へ。前肢はほんとうに眞直ぐに前方へ遠慮なく投げ出す樣で、蹄の地に着く時の有樣は大磐石と云ふ形だね。後肢だつてあの飛節に彈力があつて、深く前方へ踏み込んで體を支へる有樣は、何んとも形容が出來ぬ、しつかりしたもんだね。あの歩き振りは全く子供と思へない。あの泰然たる姿は誰れが見ても惚れ々々するね。

大長　僕は今迄あんな所へ氣が付かなんだが、ほんとうにしつかりした歩き振りだね。僕等でも若い時にあんな風であつただらうかねえ。

豐國　さあ、僕は君より若いから、君の若かつた時のことなんか知らないよは、、、、、

大長　一體駒一はどうしてあんな立派な歩き樣が出來るだらうね。

駒一は何を見付けたのか、豐國や大長の居る五六米前を眞直ぐに傍目も振らず、眼を光らせ耳を聳たて大きな鼻の孔を開いて、充血したやうな赤い粘膜をピコつかせながら颯爽と歩いて行くのである。其風貌は全く天馬空を行くとでも云ひたい有樣である。

豐國　あれ見給へあれ見給へ、大長君。

大長　あれつて何んだね、駒一かい。

豐國　そうさ、駒一にきまつてゐるよ、あー、あの肩や前膊の動き方、頸の動き方、頸の恰好、腰の力量、後肢の彈撥力尾つぽの振り方だよ。あー、名馬だ、名馬だ、今迄に始めて見た名馬だ。マホメツトの愛馬もこんなもんだつたらか、あー良い仔だ、良い仔だ。

大長　君、何んだね、一人で感心して賞めて居るが、僕は何んだか分らぬよ、君、氣でも狂つたん

ちやないかい。

二頭の老馬がこんなことを言ひながらヒン〳〵と聲を立てゝ居るので、駒一はヒョツと止まつて、後肢を軸にしてクルツと後を向いた。と思つたら老馬共の方へ駈け着けて來て「おぢーちやん達何話して居るの」と側へぴツたりと停つた。その駒一の旋回と云ひ、駈歩の發達と云ひ駈歩からの停止と云ひ、其體重轉移と運動の變換などの全く巧妙なことはフイリスか、ボーシエーかドールの高等馬術も斯くやと思はれる程だつた。

豐國　大長君どうだ、今の駒一のやつたことは、ほんとうに他の奴等には迚も眞似の出來ない技だね。

大長　駒一のやつ何處が良くつてあんな輕いことが出來るのかね。

豐國　駒一は全體から云へば、肢と云ひ上體と云ひ總ての點で釣合が良く取れて居つて、身體が自由自在に思ふ通りに動いて體重轉移が巧みに出來るからだね。

大長　それは僕にだつて分つて居るよ。其體重を巧みに轉移することが出來ると云ふことは、彼の體を見て知ることが出來るかどうかと云ふことが聞きたいのだよ。

豐國　うんさうか、それは中々六ケしい問題だね。だが、僕が知つて居るだけのことを話して見ようか。

大長　あんまり六ケしくないやうに話して呉れ給へ。

豐國　先づ君、吾々老體で考へて見給へ。年を取ると運動神經が鈍つて來るから躓いた時にハツと思ふた途端に躓かない方の肢が早く出て、其の肢へ體重が移れば倒れるのを防ぐことが出來るが若い時は之が出來ても今になつては御互に中々其動作が機敏でないからね。

大長　ウン、その通りだ。

豐國　そうだらう、吾々のやうに年を取ると面の皮は厚くなる血管は硬くなる。若い時には皮の下にビカ〳〵と見えて居つた血管も、今では太いやつの外は見えないやうになつて來る虻や蚊に一寸位刺されても急に感じないやうになつて來る。こういふことは神經が鈍つて來た爲だと云ふんだらうね。外面から見てもこんな風に良く分る通りに、內面では餘程變化して神經の感じが鈍つて居るんだね。體重轉移の上手下手は此神經の働きに因るものだから眼がはつきりとして頭が大きくなく、顏でも下腹でも四肢でも皮膚が薄くて其の下の血管が張り切れさうに、はつきりと見えるやうな奴は、頭腦も明晰で運動神經も最も機敏であることが窺はれる。然し幾らこんな風をして居つても、體全體の釣合が惡くて、胴長だとか、腰長だとか、大頭とか云ふ奴には運動神經

は鋭敏でも、體重轉移が上手だとは思はれないね。

大長　ウン、ダン〳〵分つて來たが、まだ外に見る所があるかね。

豐國　マダ〳〵話は之れからだよ。體重轉移に大きな關係を持つものは頭の大きさだね。頭と云ふ所は人間でも馬でも身體中で同じ容積を取つて秤つて見ると、一番重いそうであつて、其中には身體全體を支配して居る腦を持つて居るから、此の重い頭で體中の調子を取つて居つて、而も斯うしよう、あーしようと云ふ命令を全般へ傳へる本家本元だから、此の頭の大きさや形で大體に吾々の動作が機敏であるかどうかと云ふことがわかるんだね。吾々が山を登る時を考へて見給へ、頭を前へ突き出し頸を伸ばして行くし、坂を下る時は頸を縮めて飛節を曲げて歩くだらう、これが頭が體重轉移に一番大きな關係を持つて居る良い例だね。平地を歩く時でも常に頭を上げ下げして調子を取つて行くだらう。

それだから頭が大きくて重過ぎるやつは運動が鈍くて運動神經も働きが鈍いのだけれ共あんまり小さな頭で調子が取れ過ぎるやうなやつもフラ〳〵して落ち着きがわるいことになるんだね。丁度駒一のやうな釣合の良く取れた大きさの頭が理想的ぢやね。

大長　ウン頭の大きさのことはよくわかつた。僕の頭も丁度理想的ぢやないかね……頭の形にも色々あるがどういふのがよいかね。

豐國　大長君、君の頭は少し大頭の方で理想的ぢやないよは、、、、、

大長　ひどいことを云ふねへへ、、、

豐國　頭の形でも色々あるが、耳と耳との間と其後の部分が廣くて上が大きくてだん〳〵細長く鼻筋が眞直ぐに透つて顴骨が出つ張つて、ゴツ〳〵して鼻の孔が大きくて口が大きくなくて唇の締りの良いやつがよいね。下膨れのしたおかめの面のやうなやつは馬鹿馬の御手本だね。

大長　何んだか上の方が大きくて下が小さいへんてこな形ぢやないかね、人間なら美人ぢやないねは、、、、、

豐國　そうぢやないよ、つまり耳と耳との間から其後の所は項と云ふて、腦が入つて居る所だからこの處が大きいのは腦がよく發達して居ることと、腦から出て居る神經が太く發育が良いことを表はして居るからだよ。それからあの耳の後と頸の先きとの間が窮屈に出來たやつは、頭を動かす餘地が少ないから、頭で調子を取つて體重を巧みに轉移させることが拙だね。そら、あそこに居る丸太を見給へ、まん丸つこいやつで頭の形は大してわるくはないが、兩方の顎骨の後が開いて居らずに頸の先きとくつついて居るだらう。あれだから丸太のやつ頭丈け右や左へ曲げることが

苦しいもんだから下を向ひたり少し大きく横を見ようと思ふと、頸から動かさにやならぬことになる。つまり體重轉移が極く下手な形だね、あんなズングラ坊は乘馬には絶對に駄目で、ほんとうの駄馬だね、あー云ふ頭であー云ふ風に頸に着いたやつは金槌頭とでも云んだねはゝゝ、

大長　中々うまい云ひ方だね、丸太のやうなやつは何になるだらうね。

豐國　ありや君、駄馬だが、あれで一米四十八、九から五十位迄は伸びるからまあ、戰列駄馬になれば相當活動が出來るね。駒一と比べて見ると、體の大きさは大して違はぬけれども、出來工合は全然異つて居るからね。

大長　實際こうやつて比べて見ると大變の違ひがあるね、所で、あの丸太は僕も乘馬にはならぬと思ふて居るがあれで輓馬に使へるやうにならぬもんかね！

豐國　あれで一米五十四、五迄伸びれば輓馬にも使へるけれ共、そう大きく伸びないし身體の出來工合が全く駄馬型だよ。

大長　一體、丸太は何れ位迄伸びるだらうね。あ奴が今から先きどれ位伸びるかと云ふことがわかるかね。

豐國　あれは君、現在よりも七、八糎は伸びるよ。

大長　さあ、その七、八糎伸びると云ふ豫想はどうして知ることが出來るのだね。

豐國　吾々の身體の内で小供の時に一番早く發育を終るのは四肢で、殊に前肢だからね。二歳の秋もう丁度今頃からもう少し先きになると、此處に居る小供達も前膊から下は殆んど發育が終るから、それを基準にして豫想するのさ。

大長　ふん、さういふもんかね。僕や君でもそんなんだつたらうかねえ、それで、それをどうやつて知るのだ。

豐國　そりや吾々仲間は皆んな同じ率だよ、それで僕等や君のやうな老馬でも七、八歳の元氣なものでも、そ

ら此處を前膊の外結節上端と云ふんだが此れとそら此の球節の中央との長さ（上圖のイ）は此處

功勞軍馬は嘶く

外結節上端と此處（鞍甲の上緣）との長さ（ロ）に殆んど同じものだよ、それだから吾々の背の高さはイとロとを加へたものに、球節の中央から地面迄の長さを加へればよいね。

大長　へへ、、、、そういふことがあるんだね、所がそれでは小供が之から先き何れ程伸びるかと云ふことはどうしてわかるね。

豐國　おい〳〵大長君、一寸ぼけたね、つまりさ、前にも云つたイとロとを比べて、イがロより長いだけ將來まだ伸びることになるよ。

大長　成程ね良く分かつた。時に君は丸太を駄馬駄馬と云つて居るが、丸太はどういふ所が駄馬に良いのかねえ。

豐國　駄馬と云ふものは大體に於て背の低い兵隊さんが取扱ふて呉れるから、戰列駄馬でもまず一米五十二迄位で、小さいのなら一米四十迄は許されて居るよ。それに君ね、乘馬と違つて生きて居らぬ荷物を背負はされるのだから、身體の出來工合が餘程良くないと兵隊さんも苦しむし自分も苦しんで、鞍傷に罹つたり跛つこになつたりするからね。

大長　さうだね。それでは一つ駄馬に必要な身體の出來工合を敎へて貰ひたいね。

豐國　それでは極く肝要な所だけを簡單に御話しようかね。頭は小さいよりも少し大きい方がよいけれ共、あんまり大き過ぎてはよくないし、又小さ過ぎるのは頭を上げ過ぎるから使ふ人が困る。頸は太くて上緣が櫛の背のやうに曲つて居つて、頸の着根が高くないのがよい、頸が反對に上の方へ曲つたやつは鹿頸と云つて、何れの用役にも駄目だが駄馬には殊に不適當で、こんなやつは背に荷物を積まれると頸や頭を高く擧げて歩くから、使ふ人が困るし上を見て歩くから躓き易いのが多い。肩は乘馬のやうに斜めになつて居るよりも却つて立つた方が良い。然し之も程度問題である。

鞍甲は高過ぎるのは良くないが、低過ぎるやつは鞍がぐら〳〵して落ち着かぬから一番わるい。背は鞍甲の後から腰迄の間が眞直ぐで短かく幅が廣いのがよい。幅の狹い腰の長いやつは駄馬には絶對に駄目だね。幅の狹いやつは荷物がぐらつく、腰が長いのは腰が弱くて少し重い荷物を積まれると之れに堪へ切れぬから、駄馬には此の背の恰好を良く見なけりやならぬ。

尻は幅が廣ければ、水平に近からうが斜めになつて居ようが何方でも良い。前肢でも後肢でも餘り廣く踏付けるのは適當でないが、肢を右左交叉して一直線に歩くやうなやつもよくないね。こんなやつは積んだ荷物が横振れをするから自分の體に鞍傷が起き易いし、荷物も破損し易いばかりでなく、山道で球節が打ツつかり易いからいけないよ。

歩様は成るべく低く歩くやつがよいね肢を高く擧げて歩くと、反撞が大きくなつて背が痛むし荷物が破損し易い、馬裝が崩れ易い損がある。

肢の太さは上體の重さと荷物の重さとを十分負擔する丈けの太さを持つて居るのが必要なのは勿論であるが、竹筒つぽのやうな丸いやつは腱が細いから激動に堪へられないで、腱炎に罹り易いから、腱が太いやつでないと何んな用役でも駄目だが、駄馬は荷物から堅い強い激動を受けるから、乘馬よりも腱が強いことが必要條件だよ。乘馬は生きた人間が調子を取つて呉れるから駄馬よりも餘程樂だよ。

性質は何んな用役でも溫順であることが最も必要なのは云ふ迄もないことで御互に一所に暮して居つても根性の惡いやつ心から意地のわるいやつは厭だが、殊に吾々は人間に使はれるのが天職だから、人間の云ふことを正直に聞き入れて御役に立つことに心掛けて居らなければならぬね。殊に駄馬は吾々の取扱に不慣れな兵隊さんが使ふことがあるから、一段と溫順でなければならぬのは御互ひに承知のことであるけれ共、此處に一寸人間にも考へて貰ひたいことがあるね。どういふ所かと云へばだね、元氣がよくて心立の良いやつが、往々此奴は癖馬だ御し惡くいと云はれたり、元氣なく意氣地がなく叩かれてもヒンとも云はぬやうなグウタラが、此れは性質溫順と賞められたりすることが時々あるが、人間ももう少し吾々の心の中迄見るやうに練習して貰ひたいと思ふ事が多いね。一體に元氣があること、空威張をすること、默つて働いて死ぬ迄忠實に活動すること、心立てのわるいこと等を混同して區別がつかぬ人間の多いのには閉口だ。吾々は悍で仕事をし、悍で生きて、悍で人に愛せられると云ふ、他の動物には眞似の出來ぬ所の有ることを十分理解して貰ひたいのである。

どうだ大長君、駄馬の本性がちつとは分つたかね。あんまり僕獨りが喋つても君が居眠りでも始めるとつまらぬから此れ位でやめにしよう。

大長　やー大きく出たね、君、馬學博士は違つたもんだね。

豐國　大長君、今僕が云ふたことを丸太の身體に就て考へて見給へ、僕が丸太を駄馬、駄馬と云ふた譯が良くわかると思ふがね。

大長　ふーん、丸太の頭！　背！　腰！　肢！　それから歩き方、成程、君が云ふ通りだね。

豐國　兎に角丸太は良い駄馬だネ。

大長　やー隨分澤山良いことを承はつて僕も年寄ながら何んだか新しい學問をしたやうな氣がして嬉しくなつたよ。然しね、君、駒一の良い所ばかり聞いたが、他の小僧共の中には隨分わるいや

つがあるだらうね。あんな小供の時に見て此奴は將來迚も物にならぬと、諦めを付けるやうな缺點は一體どうしたらわかるかね。さういふ惡い所を敎へて貰つて置かぬと、良い惡るいの判斷に困るから、もう少し敎へて呉れ給へ。

豐國　それや君、駒一について良いと云ふ所がさういふ風でなければ結局わるいのさ。

大長　さういつたつて君が見りや、さういふ風にすぐ眼につくけれ共、吾々素人が見たんではそんなにわかりやしないからね。それに君、駒一は殆んど理想的のやつだらう。さうすればあれよりも一段、二段と下つても、それで十分役に立つのもあるし、一部分が駒一のやうでも何處かわるくて數段下つたり、又は役に立たぬやうになるやつもあるだらうと思はれるから、そこらの點を一つ僕の納得が行くまで敎へて呉れぬか。

豐國　は、、、、大長君も御年寄だけに中々旨い理窟を云ふね。それではお話するが今君が云つた通り、駒一のやうなやつは滅多にないから一部分がわるくても他の部分が良くて役に立つのは澤山あるよ。さういふのを良い部分が惡い部分を補償すると云ふんだね。それだから良い所と惡い所と又補償と云ふことについて少しお話をしようかね。

此の牧場に依託せられて居つた駒が引き下げられた後は大變寂しくなつたが、俊助さんの持ち馬二十餘頭はまだ放牧を續けられて居る。今、清冽な小川の水を腹一杯飲んだ彼等は、喧嘩相手や相撲相手を失つて何んだか物足らない顏付をして、ぞろ〳〵と谷合の小徑を登つて來る。相變らず駒一が先頭になつて大將振を示して居る。谷川を掠めて吹いて來る風は、昨日と思つた夏の暑さも忘れたかのやうに、ぞつと毛穴に滲みるやうな氣がして、落葉は遠慮なく顏と云はず目と云はず所かまはずぶつかつて來る。栗拾ひか茸狩か、村の連中が二、三人宛、頰冠りをして籠をかついで、草叢を分けて、探し歩いてゐる。

豐國　大分涼しくなつたね、もうそろそろお里住ひかね。また狹い家で小便や糞臭い所は厭やだね。それにこんなに可愛がつてやつた小供連が皆んな方々へ賣られて行くんだから、つまらないね、君。

大長　ほんとうだね、せめて駒一だけでも僕等の側に居るとよいがね。

豐國　さうはいかぬよ、二歳では必ず糶に出す組合の規定だから仕方がないさ、これから又當歳の赤ん坊を可愛がつてやらうよ。

大長　何んだか話が變な所へ行つてしまつたね。

豐國　ウンさうだつたね、さうだ〳〵、あの重八を見給へ、彼奴を材料にして少し君に話をしよう。

功勞軍馬は嘶く

先づあの顏を見給へ、大きいだらう、駒一の二倍もあるやうだし、おまけに長さは大したことはないが幅の廣いこと、厚さの厚いことはどうだい。どう見ても重さうだね、あんな大きい重い頭で歩くのにも困るだらうと思はれる位圖抜けて大きい缺點を持つて居るが、あれでも、將來相當お役に立つやうになるよ。

大長　だつてあんな大頭では前が重くて一寸躓いたが最後、ころがつてしまひさうだね。まるで人間の福助のやうではないか、あれでもよいのかね。

豐國　よいとは云へないよ、缺點は矢張り缺點だが、あれの頸を見給へ、太くて短いだらう。あれで頸が細くて長かつたら、それこそ君が云ふ通りだけれども、あの力のある頸が大頭の缺點を助けて居るのだよ、之を頸が頭の缺點を補償して居ると云ふんだね。

大長　成程。

豐國　それからあの肩はどうだ、割合に傾斜して居るだらう。此肩に直角に頸が着いてをるのだから頸は十分上げることが出來る、さうなればあの太い力の强い頸の先に着いた頭は大きて重くても良いことになるだらう。この肩が傾斜して居ることは頭の大きい缺點の補償にもなるのだよ。

大長　へ、、、始めて聞いた。

豐國　それから君、あの前肢は强いと思ふか弱いと思ふか。

大長　あの前肢は關節も大きいし管も太いから非常に强い肢だと思ふね。

豐國　僕は全然反對の意見だよ、成程君が云ふ通り關節は大きい、管も太いことは同感であるが、管を良く見給へ、皮膚が厚くてボカンとした所があつて、尙管の眞中の所を直角に切つたものとして考へて見給へ、其切口は丸で竹の筒つぽを切つたやうに圓いだらう、管骨は太いけれ共腱が非常に細くて管の陰に隱れて居るやうに思へるからね、こんな貧弱な腱では迚もあの太い體を支へて激動に服することは出來ないのだよ。それだから、あれが年を取つて上體が大きくなればなる程、肢の負擔が增加せられて行つて、激動に服するやうになると尙更腱が疲勞するやうになつて腱炎になり易いから、僕は重八の前肢は弱いと判斷するね。

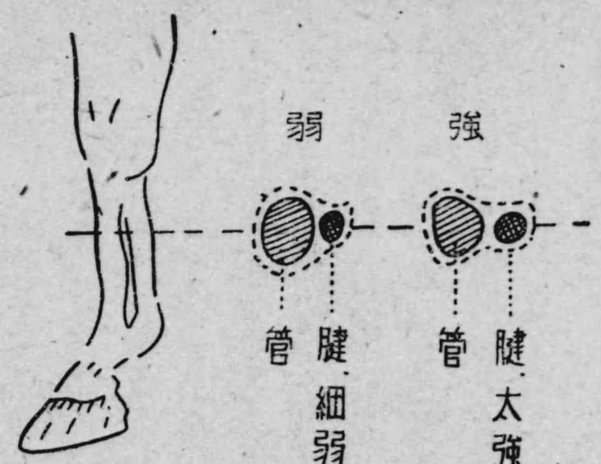
大長　へ、、僕は太ければ良いと思ふたが、腱のことは一向考へなかつたよ。

豐國　それからまだ君、重八の膝の直ぐ後の所で管と腱と分れる所を見ると、一段くびれて居つてあの細く弱々しいのを見ても決して決して强いものとは云へないね。

大長　それでは管はどんな形がよいかね。

豐國　それは腱が太くて管と十分離れて居るのがよいのだよ。それで前に云つたやうに、切つたと

すると輪を二つ並べたやうな形であつて、さうして管骨がうんと堅くて鋼鐵の棒に濕紙をはりつけたやうなのがよいね。



大長　それでよくわかつたが、一たいその太さはどれ位あればよいのだらうね。

豐國　それは吾々の先祖の血筋によつても、多少は差があるけれども、軍馬になるには五歳以上では管の中央で測つて周圍が一七サンチ以上なければ大抵は不合格と云ふことになつて居るから、小供の時に肢の細いやつは十分運動をして肢を太くせぬと、軍用保護馬にも軍馬にも不合格になつて泣き面をせにやならぬよ。

大長　ふん、さういふきまりがあるものかね、何んだか寸法で吾々の強い弱いを判斷せられてはたまらぬね、つい今君は管が太くても骨が軟かくては駄目だと云ふたぢらう、細くても堅ければよいではないかね。

豐國　そりや君の言ふ通りだが、細いにも限度があるよ。十七サンチ以下と云ふと殆んど小供の管の太さだね、それで十七サンチ以上であれば先づ軍役に從つても何んとかお役に立つことが出來るから、十八サンチあつて軟かいよりも、十七サンチ半位で堅い方が強いと云ふやうに考へなけりや駄目だよ。

大長　さうだつたね、僕は其の標準を忘れて居つたから、つい間違つたことを云つちやつたんだよ。

豐國　それから君、重八の後肢に氣がつかぬかい。

大長　何んだか變に前の方へ踏んで居るね。一體あれはどういふんだね。

變國　まあ見給へ、あの後肢は飛節から下が莫迦に前の方へ曲がつて居るだらう。あれを曲飛節と云つて惡い形だね。あれで體が太つて來るとだん〳〵飛節がひどく曲つて來て、骨に瘤が出來て痛がるやうになつて來るよ。おまけに飛節があまり大きくないから弱い飛節だね。あれでも飛節がもつと大きいと多少補償せられるけれども、あれでは七、八歳になると後肢がすくんでフラフラして蹄を引摺つて歩くやうなやつになるよ。

大長　うんそれでわかつた、此の間ね、僕が一寸厩の方へ歸つて行く途中で、おぢーさんと若い人が二人で一頭の馬を牽いて行くのを見たが、其馬がね、別に痛いとも云つて居なかつたが、何んだか、べつたり〳〵後肢を引き摺つて坂を下る時なんか、まるで飛節が土につく迄曲つて、よろ

〳〵して行つたから、僕は變な病氣のやつだなと思ふて居つたが、今考へると此曲飛節のひどいやつだつたんだね、ひどいものになつたんだね。

豐國　それから君は覺えて居るかどうか知らぬが、今日引き下げて行つた小僧の內で新五と云ふやつが居つたらう、あれは君。

大長　フ、、、、覺えて居る、あれがどういふんだね。

豐國　あの君、腰細蜂見たやうな西洋婦人が四つん這ひになつたやうなやつさ、腰を繩で縛つて强く引つ張つたら腰が切れさうなやつね。

大長　中々君は譬へがうまいね、あれがどうしたね。

豐國　あれがどうしたぢやないよ、あれでも馬だから面白いと云ふんだよ。

大長　そんなに君けなすなよ、あれでも持主は此の新五は品の良い、すらりとして溫順しいやつだから、何處か金持の家の令嬢の愛馬にでもなると云つて喜んで居つたぜ。

豐國　へへ、、、さうかね、僕はそんなこと聞かなかつたが、矢張り人間と云ふものは己惚れが强いもんだね。

大長　あの新五のやつ何處がわるいかね。

豐國　ありや君、腰が長くて細くて弱い標本の馬だよ。あれに限つて何處も此缺點を補償する點がないね。おまけに頸は細くて長い、胸幅は狹い、肋骨は少しも張つて居らぬ、前肢は彎膝、後肢はO字形で、歩く度に飛節が捻轉する、物を喰ふのに好き嫌ひがある、人間で云つたら日蔭育ちの我儘息子だね。放牧に來て居つても病氣ばかりして殆んど自分の家へばかり歸つて居つたではないかね。

大長　成る程君が一々さう云ふて呉れるとその通りだと思へるけれども、歩いて居る所など見ると、中々品があるやうに見えてスマートな所があつたよ。

豐國　ふふん同僚でも君のやうに見るのもあるから、人間が見たらあれでも名馬と思ふて買つて行くかも知れぬよ。こんなことがわれ〳〵の仲間が景氣良く日本全國中へ賣り廣められる得意な所だね。そこで君ね、もう一度駒一を見給へ、まだ〳〵駒一で君に話して置かにやならぬ所があるからね。

大長　君は駒一々々と云ふて駒一を神樣の樣に崇めて居るが、美點のありつたけを敎へて呉れ給へ。

豐國　默つて聞くから賴むよ。

豐國　うんよし、それでは駒一の正面から先づ兩方の肩端、それから腋間を見ると其幅が廣いけれ

共、それかと云つて廣過ぎず誠に餘裕があつてゆつたりと出來て居つて、內臟の發育が良いことを表はして居る。肩胛骨の下端や上膊骨から前膊骨を連ねて居る筋肉の豐滿なこと、前膊骨を包む筋肉の太く逞しく、如何にも力があり年を取つて鍛錬が積んだら無限の力を發揮することが出來て、どんな激動にでも疲勞せず活潑に歩けることを思はせるね。千里の駒とはほんとうにこれだよ。

それから、側面から見ると前にも云つたが、鬐甲から肩頸の關係は全く申分がなく、それに肘が良く脇腹から離れて居つて、所謂肘離れが何んとも云へない恰好で、鬐甲からずづと肚帶徑の下腹に至る迄が長くて、しつかり丸味をもつて所謂深い胴だから、前から見ても側面から見ても、肺も心臟も天下無比の强さを想像させるね。

大長　へ、ハ、僕は唯駒一は丸つこい丈夫な小僧だと位にしか見て居らなかつたが、君の說明を聞いて合點が行つたよ。

豐國　それから君、駒一の鬐甲から尻迄の背骨を見給へ、眞直ぐで良く見て居ると如何にも短かいやうにも見えるが、又見様によつては長いやうにも見える、之が短背長軀の標本的のものだね。

大長　成る程、見様によつては短くも見え長くも見えるお化けのやうだねは、、、

豐國　あの背骨の兩側にある筋肉の張り工合を見ると、骨が埋まりさうに隆々と太い肉が肩胛骨の上端から尻の方に走つて居るだらう、此肉が太く逞ましいのが負擔力が强く運動に力がある表徵だね、君の背のやうに貧弱な肉ではいくら威張つても駄目だね。

大長　そんなに僕を冷かさなくてもよいだらう。僕は駒一より二十三年も先きに生れた老骨であることを考へて、ちつとは同情して呉れ給へ。君はまだ十九の青年盛のやうな顏をして居るが、君だつて背が隨分痩せて來たぜ。自分の背は見えぬから自惚れが出るよ。

豐國　エヘ、、、、これは失敬々々。それから駒一の腰を見給へ、ほんとうに腰が何處にあるか背か腰か區別がつかぬ位短かいだらう、實に腰が强いね。尻尾の恰好はどうだね、尻は水平に近かくてあれで歩くとピンと擧げて一歩々々に輕く動く有樣は惚れ〴〵するね。あの股、あの飛節、實に筋肉の張りが申分なく角度も亦標本的だね。

二頭の老馬が話し合つて居る間に、駒一は草を食ひながらだん〳〵に後を向けて歩いて行く。

豐國　アレ見給へ、アレ見給へ、駒一の肢の肉張りをさ、後肢を眞直ぐに踏出して一歩々々踏み締めるやうに歩く様をさア。あ奴の股の肉の張り方は昔は之を琵琶股と云つて、一番强い後肢の代名詞になつて居つたのだよ。兩方の臀端の筋肉が良く發達して居るから、肛門の下から睾丸迄の

間が全く隙間がなく、股の幅の廣いことはどうだね。人間だつたら汗が出て股擦を起したり、汗疣が出來て困るだらうねは、、、人間のことは知らぬよ。

駒一は何時の間にか友達と一緒に谷の下の方へ行つて、小川の水を前股で叩いて喜んで居る。豐國、大長も餘り話に身が入つたので、少し腹が空いて來たものと見えて、ぞろ〳〵と歩きながら、草を喰ひ始めた。

丁度九月の末で、山の高い所や深い谷では、紅葉將に春の花よりも紅なりと云ふ、茶人が喜びさうな景色は却つて馬の爲には樂しくない時ではあるが、夏中食つて運動したお蔭で、何れも此れも丸々と肥滿して、元氣潑剌たる所に若馬の意氣を表はして居る。

山の烏が柿の木の上で喜んで人間よりも先きに甘い柿を失敬して居る。稻田の雀は空砲の音に脅かされて竹藪の中へ群をなして逃げ込んで大騒ぎをして居る。秋の氣色もだん〳〵と更けて來て、高い山には白い衣が見え始めて來た。馬を持つ村々では明日は產馬組合の馬市である。家並屋並若駒の嘶きが明日の優劣を競ふやうに聞えて來るのも馬產地風景の一つであらう。

馬市の前

二年育てた我子のやうな二歲駒が我家に在るのも今夜一晩、明日からは九州に行くやら、四國に行くやら、將た又朝鮮滿洲に行くやら一度糶場で手を打たれたら、何處とも分らぬ處へ愛馬をやらねばならぬと思ふと、家中のものが皆んなで思はず馬に御馳走をしてやりたくなる。家の女房はましてや長い間手鹽にかけた愛馬と別れるのは、一番厭やであるらしい。

馬の幸先良かれと、今日は家中で祝膳を備へて明日の出陣を祝ふて居る一家がある。之れは名馬と自惚れて居る愛太を育てた五助の家であつた。

茶目次　かーちやん、あちた、おちえりゆくよ、愛太といつちよにね。

母　オマへのやうなやつは邪魔になるからパッパと留守番だよ。

茶目次　いやだい、いやだい、いくんだ、いくんだ。

茶目一　ぼくは大きいし、おとなしくするから、つれてつてくれね、さうして愛太のやうなよい馬のおもちや買つてね、かーちやん。

茶目次　いやだい、兄ちやん行んなら、おれもゆくんだ。おもちや買んだよう！。

茶目一　ヤーイ、僕行くだよ。かーちやん默つて居るからね、お前は行けないよ、お馬のおもちやうれしいなあ。

茶目次　いやだーいやだー兄ちやん、馬鹿。

五助の前祝の酒も、子供達の騒ぎでうまくもない筈だが、却つて馬の爲の騒ぎだから、うまさうに見える。

こんな前祝は馬を持つ家は殘らず同じことで、年に一度の鎭守様の御祭禮よりも眞劍な喜びに溢れ、明日の市況が案ぜられるのは當然のことであらう。

澄み渡つた秋の空は、雀や烏の鳴聲で明け放れて、東の空はだん〳〵と紅く染まつて、丸い赤風船のやうな太陽が地平線を放れて今日は特別に早く昇るやうに思はれた。

鎭守様や觀音様の前の廣場には、薄暗い內からヒン〳〵と云ふ勇ましい嘶き聲が聞えて來る。今日晴れの出陣とばかり、女房や子供に手綱を取られて勇みに勇んだ二歳駒の數十頭。頸には美くしい飾を付けたり、背に日の丸の旗や「何々郡產馬品評會の賞」と染め拔いた旗を交叉して其威容を誇るものもある。馬市場に行かぬ前に朝から此處にも小市場が開かれたやうな姿である。

朝八時になるともう市場の中は亦大變な騒ぎである。あちらの厩にも此方らの杭にも、可なり廣い構への中はまるで馬と人とで埋まつて居るが、軍馬購買官や種馬購買官の馬檢査に充てられてある馬檢場は綺麗に掃き清められて、人の足跡一つ付いて居らぬのは、如何にも兩購買が馬產に對して大權威であり、馬生產者間に敬意を表せられて居ることがわかる。

馬檢査

チリンチリンと振鈴の音に續いて、產馬組合の世話役が彼方此方に駈け廻はる。

世話人　皆さん、今から軍馬の大體檢査が始まるから、名簿の番號順序に馬檢場に牽き入れを準備をして下さい。

太郎平　おーい、おれんとこのやつ何番ケー、おらあ、名簿がないからわかんねえよ。

三平　おらもさつぱり番號がわかんねえ。

世話人　そんな筈はないよ、ちやんと今朝番號札を渡したぢやないか、ボンヤリして居つちやいかぬよ。

太郎平三平　あゝさうだ〳〵、無くしめいと思ふて、ちやんと懷へ入れて持つてだつけ。わかつた〳〵。

世話人　皆さん、番號札をちやんと馬の左耳の下で頭絡に結び付けて、檢査官殿に良く見えるようにして下さい。

功勞軍馬は嘶く

今頃になつてこんな騒ぎをして居るところは、餘つ程どうかして居る組合と見える。

軍馬購買官は第一馬檢場に机や椅子を整然と並べて、體高計、卷尺、鼻撚ぢから聽心器、さては手洗水と用意萬端整つて馬の來るのを待つて居る。馬檢場の入口にはだん〳〵と馬が集まつて、威勢の良い嘶き聲をあげて居る。軍馬購買官首座は檢査開始を命令する。附屬牧手は入場する馬の番號を大きな聲で讀み上げる。

「一號初駒」

首座　よし、退場。

二、三、四號と逐次に入場。

首座　よし退場、よし退場。

五號駒六

首座　うん、これは相當見込がある、假合格札を渡せ。

甲附屬　假合格一號、此馬はもう一度檢査を受けるんだから、此札を失つちや駄目だぞ。

六號、七號。

首座　六號よし退場、七號も同じだ。

八號、駒一

首座　やゝ見事な馬だなあゝ、えゝと、八號駒一、內國產アラブ、父アラブ、ヂンギスカン母內アラ春駒號。ふふんゝ名馬だ、名馬だ。これは軍馬にして去勢するのは勿體ないやつだ。種馬購買官の檢査場へ連れて行け。名馬だ、素晴らしいもんだな。輕種だけれども種馬候補馬になるだらう。

甲附屬　假合格札やりますか。

首座　うん……やつて置け、種馬候補になつてもならなくても、こんな良い馬はもう一度寬くり檢査して見たいからなあ。

甲附屬　さうですね、こんな馬は滅多にないから將來の參考の爲に、細密檢査をやつて測尺して置きませう。そら駒一、假合格二號だ。

首座、兎に角、あの馬は軍馬としても理想的だね、あんな馬を思ふ存分仕込んで見たいなあ。

甲乙附屬　首座殿、駒一が種馬候補に外れたら優秀馬として買ひませうや、ほしいですね。

首座　さうなるとよいけれども、いくら輕種系を淘汰された今日でも、あれだけの馬を種馬候補にせぬ人はちつとどうかして居るよ。僕はきつと種馬候補になると思ふて居るよ。

甲附屬　でも首座殿、どうですか、先月買つた純一を御覽なさい。あんな立派な内サラを種馬に取らなかつたぢやありませぬか。

首座　そりや君、あの内サラは良いには良いが、あれ位のものなら所々で見付けることが出來るし、それに新馬政計畫ではサラの純粹のものを種馬にするには、餘つ程圖抜けて居つて「トルヌソール」か「ダイオライト」か昔の「シヤムモア」とか「イボワ」のやうなやつに匹敵する位でなければ、今は澤山ある輕種の内で殊に「サラ」「アア」等の種馬が餘つて癈役拂下になつて居る時代だからね。そこへ來ると「アラブ」はどんな用役の馬を作るにも重寶なもんだからね。

甲乙其他の者が成る程と聽き耳を聳てた。こんなことで次の馬が澤山溜つて來たから喧ましい。

甲附屬　おい、次ぎ。

首座　九號十號か、どれもよし。

三十號、新一。

首座　やあこれもなか〳〵良馬だ、エー三十號新一、内國産洋種父内サラ澤花母内洋新花、ふふん、これも相當なやつだ。おい札をやれ。

甲附屬　新一、假合格第三號、もう一度細密檢査があるぞ。

四十號、愛太。

首座　おい、ちよつと常歩で眞直に行つてあの線を廻はつて、速歩で歸つて來い。

愛太の馬主の五助、得意になつて已れんとこの新一は名馬だから。特別に歩かして見るんだなと云はんばかりに、ハイハイの聲も勇ましく常歩と速歩をやつて元の所へ歸つて來て、停まつた。

首座　甲君どうだ、乙君も見て居つたらうが、あの飛節はもうちよつと飛内が來て居るぜ、今の速歩でもちよつと怪しいもんだね。

甲　左後股は前の方に、ポーツと現はれて居るようですね。

乙　おやめになつたが宜いでしよう。

こんなやうな購買官の内證話が暫く續く。さあ斯うなると、太郎一の新一以上の名馬だと自負して威張つて居つた五助君、なんだか中々假合格札を呉れぬから、どうしたことだらう、コリヤ不合格かなと疑心暗鬼、顏の色さへも變つて胸の動氣が顳顬にまで表はれる位高まつて來た。暫くたつて首座から、マア札をやつて置けと云はれて、假合格札を貰ふことになつた。こんどは嬉しくて又胸騷ぎで顏色も變つて、まるで七面鳥のやうに變化して居る。馬繫場に牽いて歸つた五助君、心配で心配でたまらない。牧手が愛太の體溫を測りに來た。

五助　牧手さん、此の馬はどこかわるい所があるかねえ。

牧手　僕等にはわからぬが、五助さん、あの馬をあんまり駈けさせたんぢやないかね。

五助は胸にドキンと釘を打たれたやうにびつくりした。

五助　牧手さん、實はね、今年は村の人達が馬を育てるには放牧が良いと云ふて、太郎一ところの新一や近所の馬が澤山に共同放牧地へ行つたが、己れんとこは山へやつては良くならないと思つてやらなんだがね。其後、村の人達の話では放牧に行つたやつはみんな立派に出來たと云ふ評判だから、己れはなーに舍飼して居つても、ア奴等に負けるものかと頑張つて居つたが、肢が少し細いから丈夫に太らしてやらうと思ふて、一ヶ月位前から裏の耕地整理の道へ連れて行つて、厩へ駈け込ませる運動を盛んにやつたら、それはそれは迚も良く走るやうになつて、肢も強くなつたやうな氣がして喜んで居るんだがね。

大體檢査は終つて、出場馬八十餘頭の內で三十頭だけ假合格馬になつたものが細密檢査を受けることになつた。

種馬購買官は第二馬見所で檢査をして居つたが、八號の駒一が出場した時には一同其形貌を見て異議なく種馬候補として採用せられることになつた。

駒一が種馬候補に合格したことが知れると、市場に集まつて居る老人も、青年も、女も、子供もサア大變な評判だ。何にしても中間種々々々と云ふ聲が八釜しい世の中に「アラブ」が種馬候補に上げられたのだから市場が騷ぎ立つたのも無理はない。種馬候補になるやうな輕種は、もう今後は舶來のものでなければ迚も駄目だらうと云ふやうに、輕種に對する民間產馬家の頭が輕種から遠ざかりかけて居る時であるから、こんな田舍の市場などでは斷然其望みがないと思ふて居つた矢先でもあり、それに毎年此市場では中間種の一頭か二頭の種馬候補馬が購買される例になつて居るから、此年も無論中間種に限られること丶誰れしも想像して居つた所へ「アラブ」が合格したことが知れたのだから、市場の人氣が立つたのも道理であらう。

軍馬購買班の甲附屬員が「首座殿、當りましたね、御目鏡通り何んの文句なく駒一が種馬候補になつたさうですよ」と告げると、首座は默つて微笑を湛えて軍馬に取れないのが殘念と云はぬばかりにもう一度名簿を繰り返へして讀んで居つた。

駒一の馬主俊助君、喜ぶまいことか、一族郎黨寄つてたかつて御祝ひに來る。忽ち駒一の馬房の前で昨夜の前祝の延長が、此處に繰り展べられた形になつた。

一方軍馬購買官の方では細密檢査が始まつた。

丙牧手　假合格一號、駒六。

丁牧手　第一號駒六體高一、四六體溫三七度五

首座　うん中々しつかりしたやつだな、一米五十八、九迄は伸びるね。おいちよつと管圍胸圍を測つて見よ。

甲附屬　管圍一七、五胸圍一、五五

首座　管圍も中々あるね、骨も相當堅いね、良い輓馬だ。おいつ歩かせ。……歩樣もしつかりして居る、良く歩く、よしよし。

首座はこんなことを獨り小聲で云ひながら、馬檢査簿に色々と書き込んで居る。

甲附屬　首座殿、第二號の駒一は出させますか。

首座。さうだねェ、奴は種馬候補に合格したんだから檢査しても此方のものにならぬから、今見ないで皆んな濟んでから寛つくり見ることにしましようね。

甲　オイ丙牧手、二號はやめて次を入れよ。

丙牧手　第三號新一、體高一、四七。體溫三七度八

首座　やーこれも中々良い馬だ。今の發育振りでは一米五十五、六で止まるだらうな、將校乘馬見込だな。甲君、目や齒は大丈夫か、異狀ないか。

甲　異狀ありませぬ。

首座は檢査簿を机の上に置いて、自ら目や口腔や肢など要點に向つて觸接檢査を行つて、歩樣檢査を濟ませてから檢査簿に所要の記入をして合格に決定した後、次の馬の入場を命ずる。

牧手丙　第三號愛太、體高一、四九。體溫三八、二

首座　オイ甲君、どうだ此馬は、何んだか左後肢が怪しいがね、それに此出來榮は舍飼馬の特徴とでも云ふか、上體は非常に立派に見えるが、肉締りは不十分で、肢は稍細過ぎる。血統から云へば肢は先づ許し得る範圍の太さは持つて居るけれども、どことなく上體と肢が釣合はないね、どうも今迄の放牧馬とは餘つ程違ふね、一寸見には良いがね。まづ一つ飛內檢査をやつて見よう。

甲　馬を正しく立たせよ。僕が「前へ」と云つたら、すぐ速歩で牽くんだよ。曲げよいやうに眞直ぐに引けよ。

こうやつて停止中から急に速歩で歩かして見ると、矢張り左後の最初二、三歩の運びがわるい。續いて停止間に左後肢を擧げて飛節を十分曲げて置いて、暫く此儘にした後に之を地に下ろすと同時に急に速歩で引かして見ると、今度は前よりも左後肢の踏付けがわるくて、跛行するのがは

つきりと誰れの目にも見えた。

首座　ヨシ涙を呑んで名馬愛太を捨てるとでも云ふかな。君、五助さん、君は今迄どういふ風に此馬を育てたかね、僕の參考の爲に話して呉れないか。

五助　へへ……實は私は親の時代から馬が好きで可愛がつて飼つて居りますので、野郎が生れると大抵軍馬に御買ひ上げになつて居りまして、此愛太は今まで育てた中でも一番望みがあると思つて、今日が今日まで此奴は大丈夫軍馬に合格して、而かも最高で御買上げになるだらうと思つて居りますが、何處がわるいでしようか。

首座　そりや知つて居る、君が今まで軍馬に賣り上げた馬は相當立派なもので、今でも四歳で支部に居るから今年も君が大に自信力を以て居るだらうと云ふことも御察しして居るよ。

五助　どうも難有う御座います。

首座　イヤ〳〵今年はさうはいかぬぜ。一體君はあの馬を何んであんな疵物にしてしまつたんだ、惜しいものだね。

五助　えッえッ、何處に疵がありますか、疵なんかありやしませぬよ、よく見て下さい。

首座　疵物だから僕が云ふんだよ。君は毎日見て居るから氣付かずに居るであらうけれども、軍馬としては將來物にならぬから困つたもんだね。

五助　そりや一體何處がわるいのですか。

首座　君は今年は從來と肯成の方法を少し變へたね。

五助　へ……恐れ入りました。實はあの新一に負けないやうにと力瘤を入れてドシ〳〵と鍛錬してやりました。新一は生れてから今年の春迄は誰れが見ても愛太より劣つて居ると云ふ評判でしかから、安心して昔からやつて居る通りの育て方をして居りましたが、太郎吉一が今年の春放牧にやらぬかと云ふて來ましたが、私は放牧に山へやつたつて良くなるもんでない、やはり内で可愛がつて育てるに限ると斷然刎ね付けてしまひましたが、其後村の人達の話で山に行つた馬は皆んな立派になつて殊に新一は迚も立派なものだ、愛太は負けると云ふやうな話を聞かされて癪にさはつて仕方がないので、一と月程前からうんと運動させてやらうと思つて、朝夕厩から出して裏の田圃道を十丁許り先きまで連れて行つて放してやると厩へ飛んで歸るのです。それがだん〳〵に出來て來たせいか、此頃は迚も良く走るし飼料も良く喰つて、よく太つて來るから毎日斯うやつて鍛錬しました。

首座　分つた〳〵、それだ〳〵、君んとこの愛太を見給へ、上體は君が云ふ通り良く出來て居るが、

肉附は急に着いたのでぶく〳〵して居る。それに肢は細くて上と下との釣合が取れて居ないだらう、自分の馬と思はず他人の馬を批評する積りで良く見給へ、どうだ、おまけに左後肢の内側で前の所を見ると、右に比べてぽーつと腫れて居るだらう、あれが玉に疵だよ、どうだ分かつたか。

五助　わかりました〳〵、あ、あ、がつかりしました。

首座　折角の名馬を惜しいことをしたね。來年からは舊套を脱して放牧し給へ、馬を良くするにも經濟上から云つても放牧するのが一番利益だよ。

五助　アア殘念だ、毎年負かして居つた太郎一に今年はやられてしまつた、來年は放牧して負かしてやるぞ。

こんな風で五助は遂に太郎一に負けたのではあるが、馬産地で育成法を誤つて五助のやうに殘念がつて後悔する人もあれば、太郎一のやうに放牧育成で手數もかゝらず經費もかゝらず、立派な馬が出來て天のたまものと喜んで居る人が澤山あるのは何時の時代でも馬産地の常である。

午前中に馬檢査は終つて、馬主連中は自分の馬の繋いである前で、家族打揃つて辨當の展開だ。馬も欲しさうに口をあいて「お前達の喜んで居るのも已れの御蔭だぞ」と云ふやうな顏をして、前搔きしたり草を食つたりして居る。先づ一祝ひと賣りもしない前から最高値に賣れたように喜んで、然るべくメートルを擧げて居る連中もある。チリン、チリンと糶開始の合圖が場内に響き渡る、組合の役員は準備が終つて各々席に着いた。

糶開始

愈々糶が始まつた。一號二號三號と順次に夫れ相當の値段で糶り取られて、鑑定人の手打ちの音は衆人の歡呼を浴びて市場の景氣は上々吉で、前年に比べて五、六割の高値を示して居るから、各村の村長さんや馬主はホクホクものである。別けても、駒一の「二千五百圓農林省御買上げ」新一の「千二百圓」駒六の「五百圓軍馬御買上げ」等の鑑定人の聲をからした手打の時は、一度に拍手が起り歡呼の聲、萬歳の叫びは、馬産日本の底力こゝに現はる！　を思はせるに十分であつた。

今日は馬市である。毎日樂しく遊ばしてやつた子供達が皆んな牧夫達に牽かれて出て行つた後は、豐國と大長の二頭だけが寂しさうに彼方此方をブラ〳〵して横になつたり立つた儘で居眠をしたりして、厩の留守役を勤めて子供達はどんな成績であらうかと噂をして居る。

百米程隔つた一棟の厩には、まだ離乳しない當歳がうまさうに母馬の乳をしやぶつて居るかと思ふと、片つ方の厩では母馬と並んで母馬の腕枕で白河夜船の高いびきのやつもあるが、どれも丸々

と太つて元氣の良い赤ん坊だ。

豐國　大長君寂しいね、これからどうして暮すかね。だん〳〵寒くなつて來るから山へ出かけて行くことも出來ないし、それかと云つて毎日家の中ばかりに居つては飯もうまくないし、困つたね。

大長　ウン御互に用がなくなつて困るね。一つあの赤ん坊達を外へ引つ張りだし、駈けつくらか相撲でも取らしてやらうではないか。隨分元氣がよい茶目公も居るぜ。

豐國　駄目々々、そんなことしやうもんなら、それこそ君、あのおつかあ達から血眼になつて叱り飛ばされるよ。もう少し經つて乳を呑まぬやうになれば僕等のもんだがね。

こんな事を話しながら二頭の老馬は陽が西に傾いた頃、そろ〳〵と自分達の厩の中へ入つて、棚の上の干草を嚙つてゐる。

『ヤア良かつたね、今年は從來にない成績だつたよ、よもや駒一が農林省の種馬候補にならうとは思はなかつた。それにしても駒一はほんとうに自慢ぢやないが、今まで此所で出來た馬では見たことのない名馬だからね。引渡すまでに怪我をさせぬやうに大切に御預かりして置かうよ、外の奴等も去年よりも良く出來て居つたが値段も大變良かつた、萬歳だね』と云ふ話聲がしたと思ふと、ポッカリと駒一が先頭になつて厩へ入つて來て、俄かに騒がしくなつた。

駒一　おぢいちやん、僕農林省だ、何處へ連れられて行くんだらうね、獨りで寂しいなあ。

駒六　僕軍馬で輓馬ださうだよ。

駒八　僕も軍馬で乘馬ださうだよ。

豐國　ヨカッタ〳〵、駒八、お前が軍馬に合格か萬歳々々。實は己れが心配して居つたのはお前と篠三だつた。お前は贅澤ものだからね。篠三、お前はどうだつた。

篠三　僕ね、あの竹が蹄に突き刺つてからどうも時々痛んだから我慢して跛行曳かぬやうにして居つたら合格したよ。

豐國　購買官は何んとも云はなかつたか。

篠三　イヤ大變な檢査で、僕はもうブル〳〵震へて居つたよ。內の大將が、購買官に竹が刺さつたことを詳しく話をして呉れたら、購買官が何回も何回も歩かして見たり、蹄を叩いて見たり、蹄の裏を掘つて見たり、鐵の輪のやうなもので强く挾んで見たりしたが、おしまひにあの軍人さんが、よし之れ位なら直ぐなほるから取つて置け、と云はれた時は僕は嬉しくつて涙がこぼれたよ。

豐國　そうか、それはよかつた。豪い購買官だ。跛行曳いて居るやつを直ると見込をつけて合格さ

せるのは餘程經驗もあり、自信力もある相馬眼識の達者な人だね。一寸跛行曳くと直ぐ不合格を宣告する人があるが、そんな人は良馬を買ふことが出來ない人だね。お前は跛行さへなければあの村から來て居つた新一と匹敵する資格があるからな、お前は一體幾らだつた。

篠三　僕が檢査を受けて居る時澤山の馬商連中が見て居つて、よいやつだとか、何んだ跛行だとか、色々の話が出て居つたが、糶場に出たら百五十圓ナリ、二百圓ナリとだん〳〵上つて行つたが、三百五十圓でもう誰も聲を掛けないのさ。僕はア　これで手を打たれたら軍馬になれずに何處かの馬喰さんに引つ張られて行くんだなと、涙が出て來て仕方がなかつたよ。所が暫くして六百圓と云ふ迚も大きな聲がしたら「六百圓軍馬御買上げ」とポン、ポンと手を打つた。僕は嬉しくつてたまらなかつたから知らず〳〵に二つ三つ跳ねてやつたよ。

豐國　フン、やつぱり馬商連中にも目の利く人も澤山居るから、お前が癒ることを知つて居つても傷物扱ひにして安く買つて、金儲けをしてやらうと思ふて三百五十圓より上は糶らなかつたんだなあ。

篠三　うんそうだよ。三百五十圓と云つた時後の方でね、びつこ、びつこと云つて居る奴があつたよ。それからね、僕が外へ出たら、五、六人の馬商さんが僕の周圍に來て色々なことを云つて居つたよ。

豐國、大長　どんなことを居つて云つたかい。

篠三、頭の眞白いおぢいさんがね「此馬はびつこだけれど癒るから軍馬に買上げられることは分かつて居るのに、軍馬に負けぬやうに聲をかけるのは目がない人だよ」と云つたよ。

豐國　フン、そりやあの人は昔から有名な相馬家だからね。ちやんと軍馬購買官の檢査の時の顏色で知つて居るのだよ。

篠三　それからね、あの僕等のやうに非常に顏の長い青白い色をして、背の高い馬喰さんはね「こんな跛行馬は軍馬に取るもんか、三百五十兩で己れのものにすりや、來年は千兩だと思つたから欲しかつたが、六百兩では迚も相手になれないよ」と云つて他の人を笑はして居つたよ。

豐國　まあ〳〵良かつた、俊助大將大得意だね。それで內の連中では農林省一頭、軍馬十頭か。これや大したもんだ。それから駒一は四日間、軍馬のやつ等は五日間お預けか。

駒一　おぢいちやん、僕獨りだから寂しいな、何處迄連れられて行くのかい。

豐國　お前は種馬育成所と云つて岩手縣の盛岡と云ふ所の北の方だから遠い所だよ。

駒一　僕そんな遠い所へ歩いて行けるだらうか。草臥れることだらうなあ。

豐國　いやいや、そんな遠い所迄歩いて行くんではないよ、汽車に乘つて樂々と行くんだから安心しておいで。

駒一　汽車つてどんなもんだらう、怖かない？

豐國　ちつとも怖かないよ、溫順しくして居れば知らぬ内に行つてしまふよ。お前達のやうな山育ちの子供達はまだ汽車と云ふものを見たことがないから心配するのも無理はないことだね。

篠三　おぢいちやん、僕等友達があるから嬉しいよ。僕等は何處へ行くの、僕遠い所迄歩くと又蹄が痛んでもう軍馬には駄目だと云はれやしないだらうかなあ。

豐國　大丈夫だよ。お前達は此處から十五、六里の福島縣の白河と云ふ町の南の方にある軍馬補充部だから、矢張り汽車に乘つて行くんだから安心して居れよ。

篠三外數頭　汽車に乘れる、嬉しいなあ。軍馬補充部と云つてどんなことをするの、八釜しい事云つて叱られるだらうかなあ。

豐國　お前達は皆んな今まで軍馬補充部で教はるやうなことをやつて育つて來て居るから、ちつとも心配はいらないよ。

豐國や子供達のこんな話をして居る内に日は暮れて眞暗な夜になり、蠟燭に行つて草臥れたのであらう、眠むさうな顏をして頭を下げて居眠を始めたものもある。

子供の躾

夜は明け放れて、今日のお天道樣は朝から特別に此の牧場を明るく照らしてゐるやうな氣持ちがして、人も馬も一段と朗かであつたが、昨日馬商連中に買ひ取られた八頭の友達のことを思ひ出して何んだか心配さうにしてゐるやつもある。

朝食が濟むと小僧共は早く外へ出て遊びたくつて厩の中を駈け廻はつてゐる。「ぷぷーぷー」と云ふ喇叭の聲がした。牧夫二人が如何にも愉快さうな顏をしてユコ〳〵と話をしてゐる。

牧一　ほんとうによかつたね、今年の成績はどうだい。あの市場で君、種馬と軍馬との總數の三分の二は内の牧場だからね。それだから内の大將大滿悅でね、僕等にも特別の御手當が出るさうだよ。

牧二　さうかね、そいつは嬉しいことだが、今年の成績が良かつたのは僕等も時局柄一匹の馬でも多く軍馬にしたいと云ふ始めからの決心を堅く守つて、一生懸命になつて働いた故もあるが、あの功勞馬二頭がよく小僧共を導いて呉れたことも大に功があるから、彼等に感謝するよ。

牧一　ほんとうに功勞馬は現役の時ばかりでなく、軍馬愛護協會の馬になつてこんな處へ來てもお國の爲めに盡して呉れたから牧場の寶、國の寶だね。

牧二　どうだあの小僧どもを四五日預かつてある間にも大に教へてやらうでないかね。

豐國と大長は駒一や其他の十頭の子供達と一緒になつて牧夫達の話を聞いて居つたが、

豐國　オイ大長君、今の牧夫さん達の話を聞いたかい、僕等を大に賞めてをつたね。

大長　あんまり賞められると恥かしいやうだが、實際君が彼等に牧場で教へてやつたことは、迚も人間では出來ない實地の體驗から來たことだから、子供達の成績が良かつたのは當然のことだらうね。

豐國　まだ〳〵あれ等には澤山教へてやりたいことがあるんだがね、これから二、三日中に出來るだけ教へてやらうぢやないか。

大長　それがよい。吾々が知つてゐることは隨分古いやうだけれども今教はることと趣旨はちつとも違はないんだからね。それにしても馬喰さん達に買はれて行つたやつらは隨分苦勞が多いが、種馬や軍馬に御買上げになつたのは非常に仕合せものだね。

豐國　ほんとうにそうだよ。それだのに隨分やんちやん坊主がをつて、我儘ばかり云ふて人間を困らせるやつがあるからね。こんなやつが大馬（おとな）になつてから人に怪我をさせたり、人から嫌はれるやうになるんだから困つたもんだね。

大長　そりや君ね、君は子供の時から軍隊教育を受けて育つたのだからあんまり知らぬだらうが、僕等のやうに青年時代まで民間で勝手なことをやつて育つたものには、隨分君達が知らぬことで面白いこともあるし、又悲しいこともあり、また腹が立つて癪にさはることもあるもんだぜ。君等は軍人で云へば幼年學校生徒から出た人だから眞正直で、世の中のことを餘りよく知らぬだらうが、僕等は酸いも甘まいも何にも彼も知り拔いて居るよ。

豐國　さういふな、僕だつて軍隊に入つてから隨分色々な苦勞をしたよ。君等ばかりでないよ。

大長　君は子供の時から色々のことを習つて身體を鍛錬されて居つたから一生涯安樂に暮らして、おまけに金鵄勳章を戴いたんだから、あの子供等にも君の子供の時からの經驗談をしてやつて呉れないかね。

豐國　ウン、それでは先づ小供達に差當り必要なことでも話してやらうかね。

大長　オーイ、子供達、集まつて來い。今から豐國のおぢいさんがお前達に色々の話をして呉れるから、早く集まつて來い。

駒一　おぢいちやん、どんな話して呉れるの。戰爭の話かい、僕戰爭に行つておぢいちやんのやうな金鵄章が貰ひたいなあ、皆んなどうだ、戰爭の話をして貰はうや。

豐國　こらこら駒一、お前は戰爭には行けないよ。お前は立派な種馬になつて、良い子供を澤山產ましてお國に盡すんだよ。

駒六　やーい駒一、威張つて居つても戰爭に行けないよ、やーい、僕等軍馬だ、戰爭に行つてウンと手柄を樹てるんだ。嬉しいな、駒八でも戰爭に行くんだよ、ね、駒八君。

駒八　僕はね、昨年の春迄は自分でも弱くつて、君等が走るのに跟いて行けなくてほんとうに悲しかつたが、豐國おぢいちやんから敎へられてから贅澤を云はぬやうになつたら、だん〳〵太つて來て、とう〳〵軍馬になれたので、こんな嬉しいことはないね。

豐國　さあそこだよ、お前達のやうな小供の時には隨分我儘なやつで食物の好き嫌ひがあつて身體が太らず、腹がすつこけて狼のやうな風になつて、とう〳〵一馬前になれぬやつがあるよ。自分勝手な我儘を云ふやつは國家に對して不忠ものだよ。駒八は良く言ふことを聞いたからお國の爲にお役に立つやうになつて結構だつたね。

大長　お前達は今豐國おぢいさんが言つたやうに決して我儘を云つてはならぬよ。先づ第一に必要なことは、食物の好き嫌ひがないように食物に慣れること。どんな物を食べても克く消化して良く太れるやうに、胃袋の鍛錬をして置かにやいかぬよ。お前達は軍馬や種馬になるんだから、どんなものでも澤山食ふやうになつて御奉公するんだ。

篠三　僕はもう少こしで馬喰さんに買はれる所だつたが、軍馬に採用せられてよかつたな。大長おぢいちやん、馬喰さんとこへ行くとどんなことするのかい。

大長　そりや馬喰さんでもね、大切にして軍馬と同じやうに可愛がつて呉れる人もあるが、大抵はさうはいかぬよ。汽軍で送られる時でも軍馬だと大きな車に六頭か多くも八頭しか積まぬけれども、馬喰さん達は十頭も十二頭も押し込んで身動が出來ぬ位詰め込んで頭を高い所へ吊し上げて行かれるから苦しいもんだよ。僕等もさういふ目に逢つたもんだね。

駒六　僕汽車つて見たことがないが、乘る時怖いだらうねー、どうすればよいの。

豐國　汽車なんかちつとも怖かないよ。黑い箱で大きな窓があつて道の上から短い橋が掛けてあるから、靜かに橋を上がつて行けば良いんだよ。或時にね臆病な奴で此黑い大きな箱に驚いて側へ寄附かずに中へ入ることを厭がるやつがあつて、人夫さん達を困らせたことがあつた。さうするとね、人夫さん達が時間が遲れるもんだから焦つて無理に引張り込まうとするが、中々臆病者で

前へ進まないでどん〳〵後へ退がつて行つて、他の馬の蹄を踏まうが自分の肢が溝に落ちやうが一向構はず、人夫さんを引き摺つて退がつて行くので、人夫さんヤッキになつて引つ張るけれども一人力は一馬力に敵はぬからね。

駒六　それからどうしたのよ。

豐國　引いても引いても汽車の方へ近寄らぬもんだから、人夫さんがカンカンに怒つて、太い棒切れで二つ三つ尻を叩いたから、さあ大變、臆病者は益々ビックリしてこれでは中に入つたら又叩かれるかと思つて、ブルブル震へて汗を出して泣きさうになつて來たよ。

駒八　駒六君、そんなやつ可哀さうだね、そんな臆病な奴が僕等の仲間にも居るもんかね。

駒一　そりや人間がわるいんだよ、臆病者を馴す方法を知らぬ人夫さんだね。

豐國　そうだそうだ、駒一の言ふ通りだよ。そうしてその人夫さんが又怒つて居ると、頭の白い太つた馬喰さんの大將さんが走つて來て、人夫を叱かりつけたよ。大將『コラ馬鹿者、何んでそんな棒で叩くか。怖がつてゐる奴を叩いたら益々怖がつて、どうしたつて入いりやしないよ、おれに寄越せ、それからあの青馬を引いて來い』斯う云つて、自分の外套のポケットから人參を出して臆病馬に食はせながら、頭や頸を撫でて可愛がつて居る。其處へ人夫が青馬を引いて來た。此青馬は良く太つたぼた〳〵した駄馬にでもなりさうな太いボカンとして居るやつだつた。大將『ソラ、其の青を此所へ持つて來い。ホーラ、ホーラ、お前にも人參をやるぞ、此奴は中々良く食ふ、ソレ汽車の方へ引いて行け』と人夫に命じて、自分も臆病馬を青の左側に付けて歩き出した。臆病馬、今迄と打つて變つて落着いて青と並んで靜かに歩いて行く。大將『ソレ青を引つ張り込め、ホッホッホ……よし入つた、入つた、そら見ろ此通り靜かに入るぢやないか、馬は良く馴らして靜かにやればちつとも怖がるもんでないよ、以後氣を付けろ』人夫『ハイハイ、だつて旦那さん、あんな臆病な奴ありやしないんですよ、已も勘忍袋が破れたから毆ぐつてやつたんで』大將『馬鹿！』

豐國　今話したやうなことも實際にはあるのだから、お前達も近い内に汽車に積まれて送られることになつて居るのだ。こんな臆病な眞似をせぬやうに氣を付けろよ。

小馬共　僕等そんな意氣地なしでないよ、ねえ君、僕等みんな軍馬だものね、そんな臆病なことでは大きくなつても戰爭に行けやしないや、みんな牧夫さん達の云ふこと良く聞いて御世話をかけぬやうにしようね。

駒八　僕はなんだか今おぢいちやんが云つた黑い大きな箱の汽車と云ふもの、怖いやうな氣がする

が、駒六君どうだ。

駒六　ヤーイ駒八君あんな弱いことを云ふ、ヤーイ弱蟲々々。

豐國　駒八、お前は生れつき神經質でお前の兩親の神經質が移つて居るから仕方もないが、外の子供達がやる通りに呑氣に跟いて行けば決して怖いことはないんだ。駒一を御覽、たつた獨りで寛つくり汽車に乘つて行けると云つて喜んで居るではないか。もつと膽玉を大きく持たぬとほんとうの臆病者になつてしまうよ。汽車なんかちつとも怖くはないよ。

駒八　わかつた〳〵、もうそんな弱いこと云はぬから、おぢいちやん安心して下さい。駒六君、もう君等にも負けぬやうに元氣になるから安心して呉れよ。

豐國　ヨシ〳〵駒八も賢いやつだ。己の云ふことが良くわかつた。サーみんな仲良く遊ぶんだよ。四、五日經つともう分かれ分かれになるんだからね。

駒一　おぢいちやん、僕は長い間汽車で行くんだらう。汽車の中でお腹が空いたらどうするの、ご飯誰れが呉れるのだらう？。

豐國　そんな心配はいらぬよ、お前が乘つて行く汽車の中にはちやんと牧夫さんが附いて居つて、水も飲まして呉れるし、飼もちやんと腹が空かないやうに呉れるから心配はいらぬが、汽車の中ではお前のやうに絶えず駈け廻つて居つた元氣ものでも、ちつとも歩くことが出來ないから、あんまり澤山食べると腹が痛むことがあるから良い加減にして置くんだよ。退屈になつたら乾草を嚙つて居ればよい、牧夫さんが乾草を澤山呉れるからね。

駒六　駒一君はたつた一頭で汽車に乘つて行くからよいが、僕等は六頭も八頭も乘つて行くんだから、どうやつてご飯食べるのかしら、心配だな。

豐國　そんな心配はいらぬよ、一つ汽車にはきつと一人の牧夫さんが乘つて居つて、水でも飼でもちやんと呉れるから行儀良く食べるんだよ。

駒八　行儀良く食べると云つてどうするのよ。

豐國　牧夫さんがね、ズツクで作つた入物の中へ三頭分か四頭分を一緒に入れて呉れるから、ちやんと自分の口の前の所にあるのを靜かに食べるんだよ。駒八、お前が贅澤を云つて居つた時のやうに鼻尖で飼を引つ掻き廻はしたり、駒六のやうに早く食べてしまつて外の奴の領分まで食ひに行つたりして行儀がわるいと、飼を下へ落してお前達の腹へ入いるものが減つて來るから、そんな行儀のわるいことしてはいかぬよ。ご飯は一粒も無駄にせぬやうに食べるんだ。

駒八　ヤー駒六の喰いしんぼ、お行儀がわるいと云はれたい、ヤーイおかしいなあ。

駒六　なんだ駒八の贅澤もの、汽車ん中で喰はしてやらんぞ、その時にベソかくなよ。

豐國　コレ〳〵そんな馬鹿な言ひ合ひするんでない、それがいかぬのぢや。お前達は内に居る時と同じやうに仲良くして、他所から來るやつらの御手本にならなくちやいかぬよ。もう駒八も贅澤ではない、駒六も喰ひしん坊でないから仲良くしろよ。

駒六　駒八君、もう仲良し仲良しね。

駒八　ウンもう言ひ合ひを止めて、おぢいちやんにもつと色んなことを敎へて貰うやうに賴まうね。

豐國　お前達がね、汽車に乘つて行く途中でね、俄かに眞暗になることがあつて吃驚りすることがあるが、そんな時には決して騒いではいかぬよ。

駒八　おぢいちやん、夜になりや何時だつて眞暗になるんぢやないか、夜なんかちつとも怖わくないよ。

豐國　又駒八め理窟を云ふが、そんな夜のことでないよ。眞晝間、急に眞暗になるんだよ。

駒八　へへー、どうしてそんなことがあるの？

豐國　それはトンネルと云つて大きな山の横つ腹に穴があいて居つて、其中を汽車が通るんだから今まで明るかつたのが俄かに眞暗になるのだ、意氣地なしはびつくりして大騒をすることがあるよ。己がお前達のやうに軍馬に合格して輸送せられた時に一頭の臆病なやつがトンネルに入つて大騒をしてひつくりかへつたが、兩方の韁がしつかり結ばれてあつたし、一頭があばれて倒れたので外のやつ迄が騒いだもんで、牧夫さん韁を解くことも出來ず困つて居つたが、トンネルが長かつたし、夏の暑い日であつたのでトンネルを出たら臆病者は咽が強く締めつけられて死にかかつて居つたから韁を切つて起こしたが、次の停車場へ着いた時に死んでしまつたことがあつた。

駒六　お前達もトンネルへ入つても決しい恐ろしがつて騒いではいけないよ。

駒八　ア、恐ろしい所を行かにやならぬもんだね、僕はちつとも怖くはないが、駒八は怖がるだらうなあ。

駒八　なんだ。僕ちつとも怖くないよ。おぢいちやんが敎へて呉れたやうに溫順しくして居るよ。

駒一　汽車のあんな箱の中へ入つて、長い間行つては暑くつてたまらぬでせう。そんな時氷でも呉れるの。

豐國　ウン夏の暑い時に汽車輸送せられるのが一番苦しいのだけれども、日頃身體が丈夫であればなんでもないことだが、腹工合がわるいとか風でも引いて居るとほんとうに困るよ。輸送係の取

締の人が氣が利いた人だと、汽車の中に澤山水を貯へたり、あんまり暑さが嚴しい時などには氷を持つて行くこともあるけれども、普通には中々さうはして呉れないからね。

駒八　氣の利いた取締さんや牧夫さんが付いてゐて呉れないかなあ。暑い時にはほんとうに目が眩んで來るから、こんな時に汽車の扉でも締め切られて居つたら堪つたもんぢやないや。

駒六　汽車と云ふやつは黑い〳〵煙を吐いてプツプ、プツプと苦しさうに坂を登るさうで、そんな時には臭くつて臭くつてたまらぬそうだよ。臭いのは厭やだね、トンネルの中では全く息がつまるさうだね。

豐國　そんな時に牧夫さんが氣を利かして扉をぴつしり締めて煙が入らぬやうにして、トンネルを出たらすぐ扉を開けて呉れると良いが、ぼんやりした始めての牧夫さんだと自分も煙にむせびながら、扉の開閉に氣がつかぬのがあるから閉口することがあるよ。

駒六　長い間汽車に乘つて居ると病氣になりやしないかな、病氣になつたらほんとうに困るだらうね。

大長　お前達のやうな子供の時には夏の暑い時に長い間汽車で旅行をすると、熱が出て食物が喰へないやうになつたり、無暗に汗をかいたり呼吸が困難になつたりして、ひどいのになると肺炎と云ふ病氣にかゝつて死ぬことがあるから、餘程氣を付けて喰ひ過ぎをせぬやうにして牧夫さんが呉れるものを良く嚙んで食べて、水も呉れた時に十分呑んで置かぬと、山に居つた時のやうに何時でも欲しい時に飲んだり喰つたりが出來ないから、腹がへつて痩せたり病氣になつたりするから氣をつけて行かにやいかぬよ。

こんな風で、老馬も小馬も嬉々として、埒のある廣い馬場で呑氣に遊んで居ると、牧夫さんが三、四人手に寢張頭絡を持つて埒内に入つて來て子供達の頭に寢張頭絡を掛けて周圍の柵に繫いだが、豐國と大長は枯殘つた芝の葉さきを出つ張つた齒で二、三本宛嚙み切つて食べて居る。

功勞軍馬のお蔭

俊助さんを先頭に十數人の人が嬉しさうに埒馬場の方に歩いて來る。

甲　俊助さん、あんたんとこは今年は大當りだつたね。その外此牧場に預かつたのも好成績でね、何んと云ふ良い成績だつたらうね、もう村中の大評判だぜ。

乙　全く俊助さんの努力の賜ものだ。時局柄國家の爲慶賀しますよ。

俊助　いえいえどういたしまして、今年は天候が良くて牧場の草生ひも良く害蟲も尠かつた爲に子

馬の發育が從來にない良況を續けた爲で、何んにも私が兎や角工夫したのでもないがね。それにしてもあの功勞馬二頭がほんとうに良く子馬を可愛がつて呉れたので、牧場内の運動でも採食でも全く牧夫が誘導する以上に良くやつて呉れたのだと彼等に感謝して居りますさ。馬でも軍隊で十分役に立つて戰場で殊勳を樹てるやうなやつは牧場でも殊勳を樹てるんですよはは、、

甲　へーそうですかね、俊助さんは良い功勞馬を御預りなすつたね。何處つから貸して呉れたのかね。僕等も借り受けたいが、どうしたらよいかね。

俊助　そりやね、陸軍で功勞のあつた馬を陸軍大臣が表彰して、之れに勳章を與へることになつて居つて甲、乙、丙の三種類あるよ。あの豐國は甲で大長は丙だが、二頭共一昨年軍馬愛護協會から預託を受けて大切にして居る馬ですよ。老馬だけれども迚も良い馬ですぜ。おまけに毎月十圓宛の飼料補助金まで頂いて居るのだから有難いもんだね。

それからこんどは俊助爺さん益々得意になつて種馬になつた駒一や軍馬に買上げられたものに就て、滔々と說明したり、一頭宛歩かして見たりして大滿悅である。

豐國　大長君ね、内の大將中々ウマイことを云つてるぜ、何時も僕等を大して賞めたことが無い癖に、今日は大變な賞め方だつたねえ。

大長　ほんとうに大將喜んで居るが、あれで子供達の成績が惡るからうもんなら、それこそ大變、僕等まで側杖喰つて虐待される所だつたが、まあ〳〵よかつたね。これからちつとは僕等の面倒も見て呉れるだらうよ。

豐國　まあ兎に角、僕等も出來るだけ子供達を敎育してやつて、老後の餘生を御國に捧げようぢやないか。

大長　大いにやらうよ。

大長の生ひ立ち

豐國　時に一體君は小さい時に何處へ買はれて行つたかね——それから何歲迄馬喰さんとこに育つたかね。

大長　ウン僕はね、初めは栃木町と云ふ所の、大變澤山馬を持つて居つた太つた度胸のよさそうな馬喰さんに買はれてね、一年ばかり其所の厩で五、六頭の友達と一緒に餘り廣くもない厩の中に入れられて、時々喧嘩するやつがあつて内の若い衆やお内儀さんから叱られたやつがあつたよ。其内に僕だけは或お百姓さんの内へ預けられることになつたが、もう其時は三歲だからね、お百

姓さんは僕を隨分可愛がつて毎日御馳走をして呉れるし、內の子供達がすてきに僕を大事にして毎日乘つて歩くのさ。僕も一家揃つて可愛がつて呉れるもんだからほんとうに安樂に育つたよ。それで人間と云ふものは斯うも馬を可愛がつて呉れるものかと思ふて、喜んで子供の云ふことを聞いてやつたし、內の人を見ると何んだか自分の母親に逢ふやうな氣がして懐かしくて仕樣がなかつたよ。

豐國　さうか、君は若い時から幸運だつたんだね、だがお百姓さんだから、隨分田圃の耕作には出されただらうね。

大長　所がね、內にはもう一頭僕の外に丸つこい駄馬の兄きが居つて、それが毎日畑や田圃へ出て働くのだが、僕は何時も內の子供達が乘つて學校へ行つたり內のお內儀さんまでが、此馬は流星がある肢が四白で艶のある栗毛でハイカラ馬だと云ふて、自分でも時々僕に乘つて町へ行つたり田圃の見廻りなどするんだからね。僕はほんとうに乘る人の云ふことを良く聞いて、危險な所などは注意して歩いて一度も落したり駈け出したりしなかつたもんだから、村中何處へ行つても村の人から可愛がられて色々の御馳走を貰つたもんだよ。

豐國　實際君が云ふ通り、內の人が心から可愛がつて呉れると有難くなつてしまつて、一寸の惡戯もやつてはならぬと云ふ氣になつて何時でも人に感謝して御用を聞くと云ふことになるんだね。僕等が知らぬことを無暗にやれと云はれても知らぬことは出來ないのだが、之を人間が間違へてずるいとか馬鹿だとか惡口云つたり叩いたりされると、ほんたうに癪にさわつて一つや二つ蹴つてやりたくもなるもんだよ。

大長　ほんたうだよ、吾々は生れつき決して惡い心を持つて居るもんでないから、人間さへ僕等の心を良く察して呉れさへすれば、決してわるいことは出來るもんでないからね。

豐國　それでは君はたう〳〵百姓はやらなかつたのかい。

大長　うん僕は一度も百姓をやつたことがなかつたし、それに僕が四歳の冬だつたが、內の息子さんが三年の間騎兵隊に兵隊さんに行つて馬の調教係をして居つたが除隊して歸つて來たよ。

豐國　それでは其息子さんに隨分絞られただらうね。

大長　いやそれがね、歸つて來て僕を見て大喜びさ、コイツは良い馬だと云つて僕に乘つて見たから僕も少々得意になつて、息子さんの云ふ通り動いたよ。三年間軍隊で鍛へ上げられた人だけあつて、今まで坊ちやんやお嬢さんが乘つて居つた時とはまるで乘り方が違つて迎ても歩き易いことと云つたらお話にならぬし、僕を使ふのにも一つも無理なことをしないで、僕が嬉しいから輕

く歩くと息子さんも大喜びでこれからと云ふものは毎日乘つて色々のことを敎へて呉れるし、僕の身體の掃除でも食物でも今迄とはやり方が變つて、全く軍隊でやる通りにして呉れるもんだから、僕は嬉しくつて嬉しくつてたまらず、何んでもちやんと覺えたよ。

豐國　一寸待つてくれ、君は息子さんが三年間軍隊に居つたと云ふが、そりや君二年の間違ひではないかい。

大長　はは、、君はまだ若いよ、僕等が始めて入隊した當時は兵隊さんはみんな三年宛御勤めしたもんだよ、

豐國　やーさうかね、僕はそんなこと知らなかつた。その時分に調敎手と云ふのが軍隊に居つたかね。

大長　いや〳〵其時分は調敎手と云ふものはなかつたのだよ。それで三年目の兵隊さんで馬に乘ることが上手な人が新馬係を命ぜられて新馬を仕込んだものだよ。

豐國　あーさうかね、僕等は調敎手に隨分手强くやられたもんだがね。一體調敎手と云ふものは何時から出來たかね。

大長　それは君が入隊した前年位に兵隊が二年で除隊するやうになた時に、調敎手が騎兵隊だけに出來たんだが、砲兵隊や輜重隊などにはそれから三、四年後に調敎手が置かれるやうになつて來たのだよ。

馬の取扱

豐國　へへえ、さうかね、矢張り古いことはお年寄に聞かぬとわからないもんだね。

大長　年寄をちつと大切にしたまへ。年寄共が嘗めた經驗から後進者が色々と敎へられる種が生れるんだからね。

豐國　大長二頭が昔話をしながらぶら〳〵遊んで居ると、小馬共は頭絡を脫されて嬉しさうにぞろぞろと老馬の方へ歩いて來る。

駒一　人間と云ふものは隨分勝手なもんだね。篠三君が喜んでぴん〳〵跳ねたり走つたりすると怒るし、駒六君が思ふやうに歩かぬと、こいつはずるいとか何んとか自分達の引き方の惡るいことに氣がつかずに僕等を叱るんだからね。あの背の小い丸つこい顏をした人は今日始めて來た癖に少々生ちやんだよ、ね君。

駒六　ウンさうだよ、あんな下手な頭絡の着け方されて無暗に引つ張られたつて、苦しくつて活潑

に歩けるもんかね。頭絡を着けるにはちやんと着ける方法があるのを知らずに、良い頭加減にやつて置いて僕等を叱かるつて、隨分素人臭いね。

篠三　ほんたうにあの丸つこい人は素人だよ。僕等の取扱方法をちつとも知りやしないよ。あんな人が兵隊に行つたら隨分あの人も困るだらうが、それよりも取扱はれる僕等の仲間こそ大變な迷惑だね。

駒八　僕は今日は良かつたよ。内の御馴染の牧夫さんが引いて呉れたから、思ふ存分颯爽たる氣分で伸び〳〵と歩いたもんで、みんなの人から賞められた。僕が賞められたのはあの牧夫さんの御蔭だから感謝するよ。

駒三　僕は今日程吃驚したことはなかつたから、思はず飛び上がつて前へ跳び出してやつたよ。あんな妙なおかしなものを着たお化けのやうな人が、何んとも云はずにいきなり僕の肢をウント痛いやうに握るんだもの。僕は熊でも來たかと思つたよ。あんな亂暴な人はないよ。ちよつと懲らしめの爲めに飛び出して驚かしてやつた。始めに優さしい聲を懸けて呉れたら僕だつてちやんとして居つてやるんだつたのにね。

駒一　ほんとうにあの妙な風をした人、氣に喰はぬ人間だつたね。あんな人は今に痛い目に逢ふよ。しかも澤山の人間の中には色んな風をした人や、何んにも知らずに間違つたやり方をして僕等を驚かす人があるから、僕等も良く注意してどんな風をして居つても故意に吾々を虐めようとするんでなければ、我慢して怖くないやうな風をして居つてやらうよ。

駒八　だつて駒一君ね、君のやうに大人じみたことばかり云ふて居つたつて、怖いものは矢張り怖いよ。不用意なぼんやりものはちつと覺醒させなきや駄目だよ。

駒六　賛成々々、やれ〳〵と云ふ彌次馬の聲が起る。

豐國　お前達が腹立つのも無理はないが、人間だつて隨分可哀想なのがあるよ。

駒六　可哀想と云つたつて惡い人はやつぱり惡いぢやないの、おぢーちやん。

豐國　又お前はえらさうな理窟を云ふ奴だ、そんな理窟を云はないで己れが云ふことを聞け。

駒六　はいはい

豐國　今から四年も前にね、支那事變と云つて日本と支那との戰爭が始まつた時の話を聞かしてやるから聞いて居れ。

駒一　ははあ、僕等まだ生れない時の話だね。

豐國　さうさ、其時に此の爺いは軍隊に居つたが、戰爭が俄かに起つたので日本中から澤山の兵隊

さんが軍隊に入つて來たよ。其兵隊さんの中で今まで軍隊で教育を受けたことがない素人の兵隊さんが澤山あつたよ。

駒八　そんな素人の兵隊さんが戰爭に行けたの。

豐國　默つて聞いて居れ。其素人の兵隊さんには呉服屋の番頭さんも居れば、銀行の役員さんも居る。米屋の小僧さんも居ると云ふ風に色々の人があつたが大抵皆馬を取扱つたことがないから馬が怖ろしい人ばかりで、入隊してどんな仕事でも厭はぬが馬丈けは恐ろしいから困るとか、敵の彈丸よりも馬が恐ろしいと云ふやうな若い素人兵隊さんが澤山あつた。

駒六　なんだ、人間つて偉らさうな風をして居るがそんなに僕等が怖いかね、意氣地なしだな。

豐國　駒六は又そんなことを云ふ。人間の中でも大きい都會などに住んで居る人は、生れてから兵隊になるまで馬の側に行つたこともない、馬のにほひも嗅いだことがないものが澤山あるよ。それに日本では小供が馬の側へ行くと、ソレ咬みつかれるぞ、ソレ蹴られるぞと母親が小供を叱かるのが普通のやうになつて居るから、其小供は俺等を怖がるのも無理がないことだよ。こんな國は世界中日本だけださうだよ。

駒一　隨分僕等を馬鹿にした話で、僕等を虎か獅子のやうに恐しがつて猛獸だと思つて居るのね。

駒八　人間の親と云ふものはそんなことを云つて小供を意氣地なしに育てるんだね。

豐國　お前達は中々理窟を云ふ奴等だね。

駒六　それで素人の兵隊さん、どうしたのよ。

支那事變突發と共に我國の誠意ある事變不擴大方針の交渉も、暴戾飽くなき蔣介石が二十年來青少年に對して養つて來た侮日抗日の精神的教育によつて煽られて、遂に我國をして徹底的膺懲の決心を取らしめるに至つた。動員下令と共に全國から徵發せられた澤山の馬は、各々其の所屬の軍隊に引き付けられて、未教育補充兵の多數が此徵發馬を取扱つて戰地に向つて急遽出發せねばならぬのであつた。

豐國　うん其の素人の兵隊さんがね、徵發せられたばかりで、まだ軍隊で使はれたことがない馬を取扱はなければならぬことになつたので、さあ困つたことだ。人も困る馬も困る、全く人馬共にお互に不幸を見たのが澤山あつたんだよ。軍隊の將校さんや下士官の人達は出征して行く準備の爲めに、其徵發馬の調教も、思ふやうにして呉れないし、兵隊さんに馬の取扱法も十分教へる暇がない。それで入隊してから五、六日で出發したのもあつたから、馬も人もほんとうに困つてしまつたのださうだよ。

習實事馬年少青

に人間の馴致がわるいことになるね。僕等は何んでも知つて居るもんね。

駒一　僕等の先輩が大に可哀さうだつたんですね、途中で死んだのはなかつたんですか？

豐國　そりやー云ふ迄もない。暑い〳〵夏の眞只中に汽車に積まれて毎日〳〵出て行つたが、兵隊さん達、汽車で馬を送るのも始めてだから、どうして良いやらさつぱりやり方がわからず、只恐ろしがつてブル〳〵震へて居つたのさへあるから、水や食物を十分に與れないのは當前だ。こんな調子で長い道中をしたから汽車の中で腹痛や肺炎や色〳〵な病氣にか〳〵つて死んだのもある。ふら〳〵になつて居るやつもある、誠に慘憺たるものだつたさうだよ。

駒一　ふんさういふことになると、人間が如何にも馬の馴致がわるいと云ふて、僕等仲間の惡口を云ふが反對

豐國　お前は中〳〵うまいことを云ふやつだ。ほんとうに人間の訓致がわるいよ。それでね、近頃は日本馬事會と云ふ所で全國の都會の青少年に馬事實習と云ふことを始めて、青少年を俺等仲間に馴致することになつて居るよ。其代り僕等仲間も其積りで、人間から教へられることを良く覺へて、青少年が早く僕等仲間と仲良しになれるやうにして行かにやならないね。

駒一　それにしても日本の女や小供が僕等を猛獸のやうに恐ろしがつて、僕等の側へ寄り附かないから癪に障るね。こんな風に僕等を猛獸のやうに小供に教へる母親や、又僕等の先輩を意地惡くするやうに取扱ふ人間こそ、吾々は惡い人間だと思ふね。

大長　豐國君、駒一は相變らず賢いことを云ふやつだが、ほんとうに駒一が云ふ通りだね。

豐國　うん僕等もね、時々駒一の云ふやうなことを思ふたこともあるが、吾々仲間でも隨分意地の惡いやつがあるから吾々仲間も自肅を要する點もあるからね。

大長　そりやそうだね、人間でも吾々仲間でも夫れ〳〵一つの魂があるからね、お互に其心を知り合つて打ち解けて仲良しになることだね。

小馬も老馬もこんな話をして、天性善なる彼等の心の中を語り合つて、人に使はれる動物の本音を吐いて居るが、之はあながち馬ばかりではあるまいと思はれる。

功勞軍馬は嘶く

秋の空は變り易い、午前中は一點の雲もない日本晴であつたが、吹く秋風に送られて來る山出しの雲は何時しか空一面を覆つて、今にも時雨が來るかと思はれる寒さを送つて來る。小馬達は思はず隅の方に集まつて體を押し付け合つて肌刺す風を防がんとして居る。

子馬の元氣

篠三　豐國おぢーちやん、僕大分寒くなつて來たよ、内へ入つても良いの？　僕はまだ蹄がわるいから内へ入つて休んでも良いだらう。

駒六　やー出たぞ、出たぞ、篠三君。蹄がわるいと云ふのは變だね、軍馬に合格するやうに良く直つて居つた蹄がまだわるいつて、ヤーイ寒むいもんだから、あんなことを云つて暖かい厩へ歸へらうとして居る。ずるいなあ、弱蟲だ、弱蟲だ。

篠三　ナニ生意氣云ふな、喰いしん坊、お前己れの蹄がどんなになつて居るか知つとるか。

駒六　そんなこと知らぬが、僕等小供は風の子と云ふぢやないか。寒い時に寒がらずに元氣を出して一生懸命身體を鍛へなければあならないぢやないか。ねー駒一君、これから一つ此風に負けぬやうに運動をして一汗かいて内へ歸へらうぢやないか、晩飯がウンと食へるぜ。

駒一　うん、やらうよ。何時も水飲みに行く小さい川を渡つてから、何時もおぢーちやん達が日當ぼつこをする山を登つて、此處へ戻つて來るんだよ。誰が一番速いか競走だ。篠三は蹄が痛いと云つとるから、おぢーちやんの所に殘して行かうよ。それからね、アノ森の中に細い溝やベトベトした水溜りがあるが、あれを通らぬやつは幾ら速く來ても駄目だぞ、アソコを通らぬやつは蹄が汚れて居らぬから嘘云つたつて駄目だぞ。サア皆んな並べ、一、二、三。

寒くなつて來て急に風でも吹いて來ると、馬が嬉しがつて方々駈け廻はるのはこんな精神狀態からやるのであらう。これが子馬の習性かも知れぬが、氣候風土に自ら馴れるやうに自然が動物に要求することであるかも知れぬ。

豐國　小供達は元氣だ。あの元氣がなくてはいかぬ。僕等老馬は走る氣にならぬが、小供達はあれでなくては丈夫になれぬ。篠三まで一緒に行つてしまつたね。ア奴、蹄がわるいとか云つて内へ歸へらうとしたが、駒六に冷かされてとう〳〵跟いて行つたが、また踏拔をせなけりやよいがね。

大長　あー戻つて來た。中々早いね、ア奴等も種馬や軍馬になつたもんで迎も嬉しくつて皆んな大元氣になつたね。

豐國　やー來た々々、駒一が先頭だ。次が駒六、次が篠三……篠三の蹄は之れで試驗せられた譯だ

が、もう大丈夫だね。軍馬補充部へ行つてももう別扱ひされずに濟むから結構だね。

大長　うん良く直つたね、やつぱりあの時の購買官は偉い人だね、大丈夫直ると云つて居つたがほんとうに大丈夫だ。あれで一、二回削蹄したら跡方なくなるからね。

馴致の後戻り

豐國　時に大長君、僕はどうも不思議でならぬことがあるが、君は一體どう考へるかね。實はね、僕等が隊に居つた時でも、此頃お百姓さん達が鍛錬をやつて居るのを見てもね、五寸か一尺位の細い溝を越すのにどうしても通れぬやつや、笹つ葉で作つた一尺位の籬が越せぬやつがあつて、先生から叱られて居るのを時々見るんだが、一體あれはどうしたもんだらうね。

大長　ほんとうにね、君が云ふ通りだね。此處の小供達が今駈けて來た途中には隨分道の惡い所や、小さい溝や、小川があるのを一頭だつて嫌はずにポンポンと飛び越して來て居るのに、大きな軀をしたやつらが一跨ぎするにも足らぬやうな小さな溝の前で止まつてしまつて、ちつとも前へ行かぬやつがあるのはどうしたもんだらうね。

豐國　うん、僕もそれを不思議に思ふて君に今話かけた所だがね。一體馬が惡いのか、人間が惡いのか、何方が惡いのだらうね。ほんとうに見て居つてもあの意氣地のないのには同僚としても恥かしいことがあるね。

大長　僕は考へて見たが、結局は吾々のほんとうの心を知らずに乘つて居るからだ。近頃の新しい言葉で云ふなら下意上通が出來て居らぬと云つて良いだらうね。

豐國　はは……君はお年寄だが中々新體制に合ふやうなことを云ふよ、やつぱりお年寄には負けたね。實際、非常に注意深い吾々の心を知らぬ人間はこんなものなんでもないと思つて、無理に通過させようと思ふけれども、どつこい、そうはいかぬ。此方が知らぬものは、さう容易く行かぬわな。

大長　だつて君、どんな馬でも小供の時には何處でも自由に走り廻はつて居るので皆んな知つて居る筈ぢやないか。さうすりや、矢つ張り人間が惡るいと云ふより外はないんだね。

豐國　うんそりや人間がわるいのは知れたことだよ。小さな溝位知らぬやつはない筈であるが、其れを忘れさせてしまふもんだからいかぬのだね。吾々同僚だつて、相當に記憶力は持つて居るけれ共、だん〳〵年を取ると仕事が殖えるし、都會生活もする、田舍生活もするが、其生活の指導者は大抵僕等を丈夫にしたり、臆病にせぬやうに心掛けて呉れる人は少くて、自分の利害ばかり

から使ふもんだから、遂に野外にある色々の溝や川や生籬などを少しも通らして呉れぬから、長い年月の間には小供の時に何んとも思はず馴れて居つたものを忘れてしまうことになるからね。

大長　うんさうだよ、吾々同僚は一度酷い目に逢はされたことや、恐ろしい目に合つたことは中々忘れぬけれ共、何の氣なしに自然に知つて居つたことは直きに忘れるのが通弊だからね。

豐國　そうだ／＼、先日もね、或所で軍用保護馬の鍛錬日にね、内の御大が久しぶりに僕に乘つて見に行つたよ。其時に五十糎位の溝をどうしても越えぬやつがあつて、乘つて居る人がムキになつて鞭で叩く、拍車で横腹に孔があく位蹴つて、眞赤になつて汗ダクダクでやつて居るが、どうしても越さぬから、指導員が之を見兼ねて其乘り手に下馬させて、自分で色々工夫してやつと樂に越すやうになつたことがあつたよ。

大長　ふんそりや面白かつたね、其時に其馬は何んと云つて居つたかね。

豐國　うんそれが又面白いんだよ、つまり斯う云んだ。其馬は中々元氣がある一寸神經質の乘馬だつたがね、其れが云ふことが又振つて居るよ。

大長　ふん、それや益々面白いね、それで、どんなことを云ふたかね。

障碍馴致

豐國　其馬が曰くさね「僕はあんな小さな溝はちつとも怖はくないが、乘る人があまり無茶で、おまけに下拙と來て居るから、少し馬術を練習して上手にならなきや通つてやらないよ、と教へてやるつもりであつたが、あんまり無鐵砲なことをやつたから、こちらも腹が立つて、教へてやると云ふよりも却つて苦めてやらうと云ふ氣になつたんだ」とこんなことを云つて居つた。

大長　中々面白い奴だね、一體其人が始めにどんなことをしたのかね、君も見て居つて分つただらうね。

豐國　そりや見て居つても分るよ。先づね、蹄跡で乘つて居る時でもグラ／＼して絶えず騎坐偏はやる、口に強く當る、まるで馬の口に人間が引つ掛かつて居るやうだつたね。それをさ、先生が障碍をやらせやうとするのも少し無理だと思つて見て居つたら、果して障碍の前で先づ一つ騎坐偏をやつたね。一寸馬が平衡を恢復しやうと思ふて左に寄つたら、こんどは又騎坐偏さ、其時丁度溝の一米位前だつたから、驚いて韁を引つ張つたから、馬はこれで溝を越したら落馬すると可哀想だと思つたから止まつてやつたのだね——。

大長　そりや中々同情心のある奴だね、へへ……。

豐國　ふふふ……。それがね、初め常歩で行つて靜かに跨がせる積りで行けば、こんなことがなくて馬も承知で通過して行くものを、大將一寸乘れる積りなんだから他の人に己が見事に飛んで見せると云ふやうな、高くもない鼻を高くして相當伸びた速度で行つたもんだから、何んともはや、致し方なし、面目泥だらけと云ふ所だつたね。

大長　そいつは面白かつたね、それからどうしたかえ。

豐國　それからが又面白いのさ、先生、人の手前もあるから何んとかして通過して見せてやらうと焦れば焦せる程、馬の奴四肢を揃へて空うそぶいたやうな顏をして身動きもせず、前へも後へも動かないが、あんまり焦つて鞭や拍車を無暗に入れるから一寸横へ動くと又大きな騎坐偏騷ぎさ。だん〳〵疲れて來るもんだからもう扶助も何にもない、唯無暗矢鱈に焦せるばかりさ。それで馬はこれでは危なくつて迚も溝を越してやれない、騎手のお氣に召すやうに飛んだら落馬するだらうと見えたから、僕もあの馬、仲々御主人思ひだなと思つたよ。

大長　とんでもない所へ御主人思ひが出たね、ハハ……一度位靜かに通過してやれば良かつたのにね。

豐國　そりやそうはいかぬよ。あの馬も仲々考へて居るやつでね。それで指導員の先生が其馬を取つて、こんどは牽馬で韁を長くして溝の前に停まつて人參を喰したりして、恐しくないよ靜かに越すんだよなどと話をして居つたが何時の間にか先生が溝の中へ入つて居つたが、馬は人參が貰へるもんだから頸を伸ばして先生の方へ出て來た、此時に又人參を與へて頸を撫でたり鼻梁を撫でたりして居つたが、又靜かに馬の反對の方へ上つて前を向いて韁を靜かに引いて居つたら、馬のやつ、こんな小さな溝にそれまでやつて貰はなくても宜しふございますと云はぬばかりに靜かに溝を跨いで越した。此時先生大に喜んで、どうだ君、斯うやつて慣らすんだよ。君のやうに無暗矢鱈に焦つたつて駄目だよと教へたね。矢張り先生は斯う云ふ所にも細かい注意を拂ふもんだね。

大長　それで馬は良く通過するやうになつたかね。

豐國　それから先生が乘つて二、三度常歩でやつたが、馬は先生の溫和なやり方と其根氣が強いのに遂に負けて、今までスネて居つた心をすつかり忘れたやうにすら〳〵と越えるやうになつて、それから速歩でも駈歩でもやつたが、全く馬が變つたやうに見えたね。之れも馬意人通と云ふか、人意馬通とでも云ふか、兎に角人と馬との心が一致した結果だね。先生が皆んなの人に、誠に謙

遜しながら一、一說明して居つたが、誠に奥床しい先生で、僕も見て居つて敬服したよ。

大長　ふん、偉い先生だね、そういふ所でも、先生になる人は相當の手腕を持たなければ駄目だと云ふことがわかるのだね。吾々は兎に角人間のやうに言葉で自分の考へて居ることを告げられないから、何をするにも目や耳や鼻や身體の素振りで知らせるより外に仕方がない。之を良く承知して吾々を敎へて呉れる人ならば、吾々だつて決して厭やだとか、それは無理だとか云ふやうなヤボなことをしない筈だが、そんなことには全く無頓着で自分にさつぱり分らぬ癖に僕等仲間を莫迦扱ひにしたり虐待したりする人が多いものだから、吾々も誠意を以つて人に接することが出來ないやうになるのは當然のことだね。

放馬上手な馬

豐國　ほんとうにさうだよ、それについて一つ面白い話がある。

大長　さうかね、それや一つ聞かして貰ひたいもんだね。

豐國　ウンそれはね、僕がまだ五、六歲の時だつたと思ふが、或る馬術を敎へる學校に、厩から逃げ出すことの得意な馬が居つてね、馬丁君がどんなに注意して繫いで置いても何時の間にか頭絡をスルツと脫いで馬栓棒をポンと飛び越して、厩の入口に張つてある綱を誠に上手に潛り拔けて外へ出ると、學校内を飛び廻はつて居る。サア馬丁さんは叱かられるから追つ駈け廻はすが、中々上手に逃げて歩いて捕まらない。燕麥や靑草など持つて捕へに來るとヒヨロ、ヒヨロと如何にも捕へられさうに側へ行くから、こんどこそ捕まるぞと思つて三、四人で遠卷きにして長い綱を持つて包圍して來る。もう捕まるかと思ふと其燕麥を一口食つて其手は喰はぬぞとプツと後肢で後を向いて逃げかゝると、三人四人で包圍されて居るから此處が己の腕の見せ所と、二、三度起つて今度は又蹴る、其内に馬丁君の頭の上を一寸失敬と飛び越して遠くの方へ走つて行つて常步になつて「此處までお出で鬼さんこちら」を極め込んで頗る呑氣なものさ。

大長　ヘエ……中々面白いやつだね、それで腹が空くとどうするかね、草ばかりでは腹が空くだらうがね。

豐國　所が、此奴中々考へたやつさね。學生さんの演習で、厩に馬丁も馬も居らぬ時に自分の厩へは這入らないで、外の厩へ這入り込んで大麥でも燕麥でも干草でも食ひたいだけ食ふて食ひ逃げさ。

大長　中々不良性になつたもんだね、そんな時に其食つて居るやつをなぜ捕へぬだらうね。

豐國　それやー君、其厩の馬丁さんは何處の厩の馬だかわからぬやつが盜み食ひして居るから見付

けりや「コン畜生泥坊だ」と云つて棒でも持つて來てブン毆ぐつて追拂ふけれども、捕へてはやらないよ。こんな風だから不良性は益々不良性になつて、とうとう人の手にはおへぬやうになつてしまつたんだよ。

大長　一體其馬はどうしてそんなに逃ることを覺えて、そんな不良になつたんだらうね。

豐國　ソレハ君矢張り馬丁さんが惡るかつたのが、遂にあ奴を本當の不良にしてしまつたんだね。その譯を聞いて見ると素人の馬丁君がね、咽紐を非常に強く締めて呼吸するにも苦しい位にして繋いだもんだから、苦くつて苦くつて堪らず、何んとかして頭絡が脫したいと思つて色々工夫をして頭を振つて居る內に、咽紐の結ひ方が素人だつたもんでスルツと脫れた。ソコで直ぐ廐から飛び出したのが抑もの起りであつたが、其後益々苦しいやうに繋がれるからだん〳〵惡智慧が嵩んで來て遂に逃出の名人でない名馬となつたが、每日追つ駈け廻はされるので、却つて之が面白くなつて習性ともなる位で、玆に惡性に變つてしまつたのだね。

大長　それでとう〳〵直らなかつたかね。

豐國　うんそれがとう〳〵人間に負けてしまつて純眞な元の眞面目なやつになつたんだよ。矢張りこんな惡性になつて人を馬鹿にしたやうなことをやつても結局は負けるんだよ。

大長　そりやよかつたね、其奴の爲め且は國家の爲め且は吾々同僚の爲め喜ばしいことだつたが、一體どんな手段で直つただらう。

豐國　ウンそれはね、其學校の廐長さんが中々思ひ切つた人で「よしそんなずるい馬なら二日間の重營倉に處せ」と命令せられたので、馬丁さん達はどんなことをやるのかさつぱり分からなかつたから一寸困つて居つたよ。

大長　一體馬を營倉に入れると云つて、あんな狹い所へ入れたら荒ばれて營倉を毀してしまふんだが、どうするんだらうね。

豐國　所がね、そんな所へ入れるんではなくて、麻綱と針金で作つた細かい目の口網を頑丈に嵌めてから「コレデ思フ存分外デ遊バシテヤレ廐長ガ許ス迄ハ廐ヘ引キ入レテハナラヌ」と強い命令が出たよ。

大長　へえ、それは面白い營倉だね、馬の奴隨分困つただらうね。

豐國　それで大變困つたやうだつたね、草が食ひたくても一本の草も食へず、廐へ行くと馬丁さんがこんどは捕へようとしないで却つて鞭で追ひ出されるのだから堪らないね、夜になつても廐へ入れて呉れないで、廐の外に放つたらかしだから其やり方が中々徹底して居るね。

大長　それでズル君、どうしただらうね。

豐國　初めの一日は馬丁さんが側に行くと矢つ張り逃げて中々捕まらなかつたが、一晩過ごしたらズル君腹がだん〳〵空いて來るがまだ水も麥も何んにも呉れないから大分我が折れて來て、今度は自分から厩の側へ行つてしよんぼり立つて居るが、まだ馬丁さん一向振向ひても呉れない、二日目の晝になつて腹は愈々空いて來たが、まだ何んにも呉れないので大分困つたらしい、所へ厩長さんが來て側へ寄つて來たら、ズル君又逃げ出したので、厩長さんが馬丁に「アンナヤツ三日ヤ四日食ハセナクツテモ死ヌコトハナイカラ人ノ側へ頭ヲ下ゲテ寄リ付クマデ放ツテ置ケ」との嚴命さ。

大長　それだけやられてはズル君も參つただらうね。

豐國　ウンそれだけ徹底的にやられたのでとうとうズル君參つてしまつて、三日目の朝に厩長さんが厩を見廻はりに來た時に水槽の側にボンヤリ立つて居つて厩長さんを見てヨロヨロと側へ寄つて行つた。さうすると厩長さんにこ〳〵しながら、ズル君の顏や顎を撫でたが、ズル君溫順しくして居つたから、馬丁を呼んで「モウ大丈夫ダ網ヲ脫シテ水ヲ飲マシテヤレ」と云つて、それから飼をたつた麥一升位と乾草を少し呉れたさうだよ。ズル君此時ばかりは有難がつて涙をこぼして喜んで瞬く間に食ひ盡してもつと欲しいと思つたが、それだけしか呉れなかつたが、だん〳〵馬丁さんが少し宛呉れたから厩長さんや馬丁さんに感謝して「モウ決シテ逃ゲマセヌ」と誓つて、其後は實に溫順な馬になつて頭絡を掛けないでも自分の馬房から自分勝手に出ないやうになつて、馬の馴致懲戒のお手本の馬になつたさうだよ。

大長　フン、やつぱりいくら惡質のやつでも、人間が徹底的に根氣良く馴らさうと思へば、吾々仲間は勝ち通すことは出來ないもんだね。

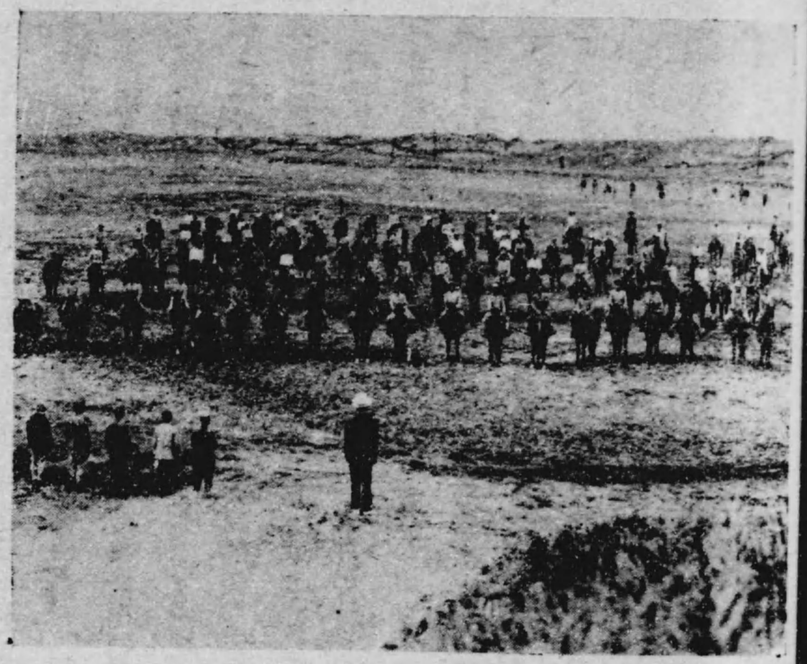
馬の惡癖を直すことや未知のことを教へるには、必ず人が馬の心を知つて勝つまで徹底的に思ひ切つてやれば、どんな馬でも立派に改善させて純良な馬にすることが出來るものであることが分るのであつた。こんな風で、最初は一寸した過失から天性善なる馬を癖馬とならしむる事は世間に澤山あることで、癖馬々々と汚名を被せられて天晴有爲の天性を持ち乍ら、十分の能力を出せずに世を終るものも決して尠くないのであつて、誠に國家の爲め惜むべき實例は澤山あるのである。どんな癖馬でも生れて世に出たばかりで癖馬はあるものではない。必ずや或時機に於ける人の取扱上の缺點から、馬の惡癖を作るのであることを吾人は常に忘れてはならぬ。厩務亂れて癖馬生じ、家庭亂れて不良生ず、心すべきことである。

騎乘鍛錬

鍛錬査閲

練兵場のやうな廣い草原の周りに何町第何班、何々村第何班と十數本の標板枚が樹てられて、係の人らしい面々が彼方此方と立ち働いて居るのは時節柄、軍用保護馬の鍛錬査閲か、聯合鍛錬が行はれる爲の準備であらうと肯かれるのである。

春陽麗らかに、吹く風も尙肌に觸れては寒さを感ずる三月の中頃、今日は軍用保護馬一年間の鍛錬の成果を見る査閲の日である。軍用保護馬の飼養者は今日の査閲では一年間精進の成績を十分に表はして見せてやらうと意氣込んで、壞れかゝつた簡易鞍や、小さな競馬鞍や、正式の將校鞍や、其形は種々雜多ではあるが出來るだけの入手補修をして意氣揚々と自分の集合所に集まつて來る。馬も日頃の手入とは一段念の入つた所が見えて、毛艶も美はしく、珍らしく蹄はピカピカと油で光つて居るのを見ても、其意氣込の盛んであることが問はずして知られる。況して、今日の査閲の成績は新年度早々行はるゝ定期檢査を目前に控へて居ることでもあり、査閲成績不良の爲に定期檢査で不合格となつてしまうものなら、名譽を誇る軍用保護馬の稱號も取消されてしまつて、馬の値打は慘落の悲運に陷らなければならぬのだから、飼養者が熱狂的場面を表はすのも當然のことである。



鍛錬査閲

午前八時三十分、各町村の鍛錬班は指導員の指揮で各々所定の位置に就て査閲の開始を待つて居る。「氣ヲ付ケ」の喇叭は嚠喨と場を壓して響き渡り、指揮官の號令は下つて一齊に靜まり返つた。

遙か場の入口から、堂々たる體軀と鹿毛流星二白の逞ましい馬で額にピカピカと甲功章を輝かした豐國號にどつしりと跨つて入つて來るのは、馬通を以て聞えも高い縣

功勞軍馬は嘶く

知事某である。續いて栗毛流星四白丙功章を額に輝かして、廿七歳の老馬とも見えぬ大長號に跨つて隨つて來るのは、縣の經濟部長某であつた。

査閲官が定位に就くと、指揮官の號令で各班一齊に敬禮をしたが、受檢馬五百餘頭が整然と整列して一頭の動くものなく、嘶く聲も立てず、森嚴其のものであつた。前後の重複と云ひ、左右の整頓と云ひ、一點非のうち所なく、之が民間馬の集合であるかと思はるゝ有樣で、査閲官も此有樣には流石に鍛錬の効果を禮讃せずには居られなかつたであらう。

敬禮が終つて指揮官は出場人馬數の報告を終るや直ちに閲兵が開始せられた。

今日の査閲を見んものと、近郷近在から集まつた老若男女は査閲場の周圍を埋めて其數實に萬を以つて數へ、場外路上には物賣の屋臺店までが連なつて馬に因む玩具や菓子や將だ又貧弱ながら馬具の類まで店を擴げて時ならぬ雜閙を呈してゐる（實際かうなれば誠に結構なことで、是非共之れ迄馬事思想を普及したいものであるが、各地の現狀はどうであらう？）

査閲官は得意の技倆を今日ばかりはウンと發揮して、馬術の天才を縣民に示さんものと、腰の張り方も長官室の椅子に懸つて居る時とは全く別人のやうな感じがする位立派な姿勢で、若かりし昔の技倆は此姿勢だけでも直ぐに推知することが出來るのであつた。

査閲は先づ閲兵から始められた。査閲官を乘せた豐國號は功勞軍馬とは云へまだ廿歳で、軍隊にも、この歳の馬で今日活動して居るものも相當にある位で、元氣旺盛、歩樣輕快、鋭敏で將校乘馬の現役に服しても尚十分其任に堪へ得る良馬だけあつて、長官の颯爽たる風姿と巧みなる御術とは此馬の威容を一段と高めて衆目の的となつた。速歩で閲兵が終るや一鞭高く動くと見るや、伸暢駈歩で所定の位置に向つて疾驅する。後に續く大長號是亦老馬ながら壯齡馬を凌ぐ元氣で豐國に負けず追躡する。是に續く指揮官以下隨行諸員も亦夫々見事な騎乘振を示したのは、受檢者始め觀衆の膽を奪ひ嘆賞暫し止まぬものがあつた。

「前へ進め」「速歩進め」「卷乘半卷」「右へ進め」「左へ進め」等々の號令は、忽ち廣い鍛錬馬場の中に旋風の襲來したやうに唸を立てゝ、蹄の音や鼻を鳴らす聲などで一時に今迄の靜寂を破つて人馬合體の大浪が起つたのである。

部班運動、各個運動、前駆集合、靜止不動、下馬乘馬、障碍通過など次ぎから次へと査閲官の視察を受けた。

斯う云ふ風に秩序整然として査閲は終了して、査閲官の講評訓示が殆んど滿點に近いものであつたのは、恐らく他縣に見ることの出來ない好成績であつた。是れと云ふのも實に縣の長官が馬術に

堪能であり、馬の趣味が深く、馬を知ることに素人放れがして居るが爲め、馬關係者一同が之に發奮して自らの技倆を磨き、馬の鍛錬に精進した賜ものと云ふことが出來るであらうが、豐國が長官の馬術技倆を遺憾なく發揮せしめたことも認めてやらなければなるまい。

此日の大役を無事濟ませて厩に歸つた豐國と大長、ホツト一息き安心の態で、水を飲み草を食ひ腹が出來たから、此處で互に今日の査閲が話題となつて圖らずも馬の調教鍛錬の今昔物語となつた。

豐國　おい大長君、今日は大したもんだつたね、縣知事と云ふ方はあの太つた身體でも馬術は大した技倆だね、僕も久しぶりに面白く歩いたよ。

大長　僕もね、年は取つたが今日ばつかりはウンと頑張つて歩いたよ。

豐國　まあ〳〵無事に任務を終つたことは何より結構なことで、老後の御奉公が今日の盛儀に役立つたのは嬉れしいことだね。

大長　ほんとうにお互長命であつて、おまけに勳章を頂いて居つて毎日大切にして貰つて暮らせることは此上もない幸福なことだ。お天道樣に感謝せずには居られないね。時に豐國君、僕は久しぶりにあんな所へ出て色々の運動を見たり色々の號令を聞いたが、僕等が若かつた時代とは大變に變つて居るね。

豐國　うん大いに變つた所もあるが、其原則はチツトも變つて居らぬやうだね。僕も昨年以來普通鍛錬の日に內の大將を乘せて鍛錬場へ行つたが、最初は何んだか變に思つたことがあつたけれども、結局は其方法が異つて居るだけで我々同僚を仕込む原則には少しも變化がないことがわかつて來たね。

大長　さうかね、僕は年寄りだからさういふ所へ一度も出ずに、今日始めてあんな所へ出たものだから變に思つたことがあつたのだが、成る程やつて居る所を見ると吾々がやつて居つた時と變つて居らぬやうだつた。

二題の老馬は厩の中で如何にも其身の幸福を喜んで話合つて居るのは、彼等の現役時代の献身的努力の報酬であるのは當然とは謂へ、馬として無上の榮譽であらう。

俊助さん、どうだつたね、今日の査閲の成績は素晴らしいもんだなたね、此村であれ位の人出を見たことは俺等が覺えがあるやうになつてからマア始めてだらうね。それに縣知事さんがあの太い身體で日頃から馬術が上手だと云ことは聞いて居つたが、今日の立派な乘り方つたらほんとうに見上げたもんだね。ああ云ふ長官が居つて馬を指導して下さるもんだから、此縣の鍛錬の成績は日本一だと云ふ評判だ。實際見て居つた者が誰一人知事さんの技倆に敬服しないものはなかつたね。

それにしても俊助さんとこのあの功勞馬は二頭共立派なもので、迚も二十歳を越えた老馬とは思へぬ元氣で、あの立派な輕い歩き方つたらとても田舍では一寸見られない名馬だね。あんな風に調教の出來た馬に乘つたら面白くつて誰れでも馬好きになるだらうね、と話をして居るのは、村でも馬好きで聞えて居る役場の助役さんの馬場さんであつた。

俊助　馬場さん、あんたの仰つしやる通りほんたうに今日ばかりは日頃の溜飲が下つたね。近鄕近在の馬好も馬嫌も女も男も老人もあの熱心な見物振りは、ほんたうに國家の爲に力强い感を起したね。私共は是を機會に更に力瘤を入れますから役場の方々も一層御指導をお賴みしますぜ。

馬場　まあ皆んな協力して國家の爲に大にやりませうや。

大長　今日は僕等も愉快だつたが、內の大將や役場の人達も非常に嬉しかつたやうだね。

鍛錬指導の技倆

豐國　うんさうだね。だが君、今日の成績を擧げる迄には指導員の人や縣の鍛錬主任官の人達は隨分苦勞もしたし、又隨分滑稽なことも澤山あつたよ。

大長　君は何時でも鍛錬の日には出て行つて居つたから色々面白いこともあつただらうね。先づ君が滑稽だと思つたことの話をして呉れんか。

豐國　ふふん、思ひ出しても吹き出すやうなことがあるぜ。先づ君初めて指導員になつた人などはどうして良いかわからぬからね。

大長　ふんさうだらうね。

豐國　昨年の五月頃だと思つて居るが、內の大將を乘せて鍛錬場に入つたら二、三班でもう運動を始めて居つたが、其內に「廻ハレ右前ヘオイツ」と云ふ號令が聞えて來たと思ふと、又其內に「右向ケ右」と云ふ號令が聞えるでないかね。

大長　そりやなんにも面白いことないでないか。僕は輜重隊で兵隊さんが良く其號令をかけて居るのを聞いたよ。

豐國　ウンそれでね、僕も大將もね、何處かに歩兵の兵隊さんが居つて演習して居るのだと思つて居つたら、それが君、堂々と云ひたいが、あんまり上手でもない乘り方をした指導員が臆面もなく乘馬した班に向つてかけて居る號令だつたよ。

大長　わはゝ……ヒイツヒイツ……、そりや實に天下一品珍無類だね。一體その指導員はどういふ人だらうね、どうかして居つたのだらう。

豐國　どうかして居るもなにもないよ、内の大將が聞いて見たら驚く勿れ、たつた三四年自分の馬に乘つて居るだけで教育を受けたことがないのださうだ。

大長　ふんさういふ人をどうして指導員にしたのだらうね。

豐國　そりや仕方がないよ。今戰爭で馬の教育を受けた在鄕軍人が無い村では、こんな人を使ふより外に道がないだらうからね。

大長　そんなこと云ふけれ共、一人で三ケ班迄兼任が出來る規則だから上手な人に兼任させたらよいではないか。

豐國　やー僕が參つた。成る程お年寄は良い考が出るね。それにしてもあんな人は監督者が十分教育しないと鍛錬もなにもあつたもんでないね。

大長　ほんたうに鍛錬の成績は指導員の腕一つで幾らでも進歩するんだからね。

豐國　君の云ふ通り指導員の技倆と云ふものは大切なもので、日本の馬が良くなるのも惡くなるのも指導員の力でどうにでもなるから、指導員の責任や重且つ大なりと云ふ所だね。

大長　所でね君、指導員には又中々立派な人が澤山あるやうだよ。或都會で輓馬が大部分軍用保護馬となつて居る班の指導員に、現時民間馬術では押しも押されもせぬ優秀者が祿に運動も出來ない馬の面倒を見てやつて居る所もあるのを見ると、勿體ないやうな氣がするものもあるやうだね。

豐國　さういふ所は馬も人も全く幸福だね。

大長　うん全く幸福だね。僕等も若かつたらさういふ先生に乘つて貰ひたい氣がするね。

豐國　話は又元へ戻るがね、僕が鍛錬の始まつた頃鍛錬場へ行つて見た時に、一寸異樣に感じたことがあるよ。

大長　そりやどういふことかね、そんな面白いことがあつたかね。

豐國　うんそれはね、指導員の大部分は軍隊で馬術を習つた人だから、大抵は一通り乘ることは乘れるけれども、人を教へた經驗がないもんだから、自分に知つて居つてもそれをどういふ風に說明したら良いのか、どんな時にどういふ號令を懸けたら良いかそれがわからずに、只ウロウロして居るだけで時間が過ぎてしまふやうなのもあるからね。

大長　フンそれでは此忙がしい世の中に全く不經濟だね。

豐國　それから、自分が軍隊で教育せられた時のことだけを受賣りすることが出來るのはまだ良い方で、大抵は忘れて居るものだから大に困つた樣子だが、默つて居る譯には行かぬから何んとか云はねばならぬので「オイ上體ヲ起セ」「オイ脚ガ前ニ出ル」「オイ拳ガ振レル」「皆ンナ元氣

ヲ出シテ乘レ」など〻一體誰に注意して居るのか、それさへわからぬ注意を口から出任かせに喋つて居るだけで、一人も其通りやつて居らぬやうなのもあるよ。

大長　それはなんだらう、自分が犯して居る過失を自分に説明して居るのだらうよ。

豐國　ハハ……ほんとうにさうだ。自分の過失を教官から直された時の受賣り其儘だらうねー。

大長　そんなことでは全く困つたものだ、一體軍用保護馬の鍛錬と云ふのは馬を作るのか、乘手を作るのか、どちらに重點を置くもんだらうね。

豐國　そりや君、分り切つたことで、無論馬を作るのが目的さね。けれども、軍用保護馬が始めて確定せられた當時は、馬を仕込む技倆のある人が幾人あつたかだね。幾十萬頭の馬を作るのに餘りにも乘る人が貧弱で、之れでほんとうに鍛錬が出來るだらうかと怪まれたんだね。

大長　さういへば全くさうだね。馬を飼つて居つても乘ることなんかテンデしないで、お百姓の馬なんかは夏の間忙しい時には星を踏んで野良に出て、月を踏んで厩に歸るといつた調子に、朝から晩迄使へるだけ使つて、農閑期になると暗い臭い厩の中で肥料の製造役で外へも出さず、蠅や臭氣で責められて居つても人は平氣なものだもの、乘ることが出來ぬのは當然で、吾々同僚が弱い弱いと云つて罪を吾々に被せて居つたのは、隨分勝手なもんだつたね。

豐國　うんその通り、その通り。そんな取扱ひをされて居つた馬が、戰爭に使へると思つて居つたのが大間違ひだつたね。然し矢張り國家を憂へ、吾々馬を十分役立たせて、お國の爲に働かせやうと考へついて軍用保護馬の制度を作つた人達の考へは適當であつて實に大成功だね。三、四年前とは吾々仲間がウンと強くなつて、昔のやうに豚みたいな太り過ぎたやつもなく、瘠犬のやうに細つこいやつもだん〳〵減つて、どれでも戰爭に行けるやうになつて來たのは、全くお國の爲に慶賀に堪へないね。

大長　軍用保護馬の制度は、實際吾々仲間が天性を發揮してお國に盡すことの出來る難有い法律だね。一般の國民が今一段と此法律の精神を克く知つて呉れたなら、吾々仲間の將來は萬々歲だがね。

豐國　話がだん〳〵横道へ這入りこんだが、指導員の大部分の人達は馬術を習ふには習つたが、教へた經驗がないのが殆ど大部分で、殊に新馬を取扱つたことのないのは何んと云つたつて仕方がなかつた譯さね。

大長　それでも君、今日見た所では中々良くやつて居つたでないか。そういふ人をどうやつて教へたのだらうね。

豐國　そこが馬に對する國家の方針が法律で確實に定められたお蔭と云ふものだらうね、其代り馬政局のお役人も縣の主任者も指導員も馬の持主も一生懸命になつて馬術の技倆向上と、之によつて馬を良くして行くことにほんとうに並大抵の努力ではなかつたやうだね。

大長　そうだらうね。君は鍛錬日毎に大抵行つて居つたから其邊は良く知つて居るだらうから、年寄の冷水かも知れぬが參考の爲に詳しく話をして呉れぬか。

豐國　うん、それでは少し長くなるが僕の考へて居る所をお話することにしようかね。

馬の見方

豐國　馬の見方と云つた所で、此前に駒一などに就て僕が色々話をしたやうな細かい所まで彼此れ云つた所でそれは少し無理なことだと思ふけれども、此處で僕が云ひたいのはそういふことも、必要であるが、一寸馬を見て此馬は乘馬の調教をすると良い、此の馬は乘馬として使ふ馬であるとか云ふ所謂用役を考へて之に合ふやうに指導して行く眼識を以て貰ふことだけでも結構だね。輓馬になる馬に無暗に障碍を飛ばして見たり、乘馬に伸暢歩度を要求せずに、愚圖々々した活氣のない歩き方ばかりをやらして居つたりするやうなことでは、天性の能力を發揚することが出來ず却つて害をなすやうなこともないとも謂へないのであるから、馬の體格によつて鍛錬指導の要領を斟酌することが出來るやうな技倆を持つて貰はないと、吾々同僚が非常に迷惑を感じたり、お上の目的に副はぬやうなことにならぬとも限らぬからね。

又、馬檢査をしても吾々同僚が肩が痛いと思つて居るのに肢が痛いだらうと云つて見たり、右肢が痛くて跛行を引いて居るのに左肢だと云つて、痛くもない肢を擦つて見たり、飛節を痛めて居るのに球節が痛いだらうなどと、痒ゆくもない球節に藥を塗つたりするやうなことが非常に多いのは、誠に迷惑至極と感ぜられるが、斯ういふ風に誤つても氣を付けて呉れるのはまだ良い方で、吾々の身體に痛い所があらうが無からうがさつぱりわからず、無暗矢鱈に追ひ廻はされて遂に歩くことが出來ないやうになつて、始めて吃驚して青くなるやうな人が多いのは全く閉口だね。

又、指導員あたりでも馬檢査をして居るのを見ると、馬體に觸れるには觸れるが唯觸れぬと檢査にならぬから觸れるのだと云つたやうなもので、何の目的もなく毛並を直す位が關の山で護謨毬のやうな大きな軟腫位はわかつても、骨癌に至つては更に相分り申さずで、副管骨の端末に觸つて見て、見る馬全部に管骨瘤があると云つた人さへあつたと云ふことを聞いたことがあるが、こ

れではほんとうに困つたものだね。

大長　成程ね、吾々の身體を見ると云ふことがそんなに六ケしいものかね。

豐國　吾々は自分の身體だからそう思ふけれども、人間から見れば中々六ケしいだらうよ。

大長　そうだね、人間と吾々とは一寸骨組が違ふから無理もないことだらう。それに吾々の身體や吾々の事故を發見することを實際に克く知つて居つて教へる人が尠いから仕方もないね。

豐國　吾々が若かつた時代には、陸軍の將校さんで殊に騎兵の將校さんは非常に馬が好きで、馬の身體を細かく知つて居つて吾々が一寸でも痛いと思ふ所を、ツツと指で押へて針でも刺したかと思ふやうに壓へられたものだが、斯ふ云ふ要點の發見法を一般に知つて貰へば吾々は痛い所も早く恢復するだらうと思ふがね。

大長　僕は田舍から初めて入隊したのだつたから、車を曳くのか荷物を積まされるのかと夫ればつかり心配して居つたのだが、入隊三日後に檢査があつて澤山の同僚と並んで居つたら、或大尉の人が僕の側へ來て「ウン此奴は良い馬だ將校乘馬にするんだ」と云つて、僕が眞先に選び出されて將校乘馬の名譽を與へられたよ。

豐國　それは良かつたね、君は駄馬にはならぬが輜重車の輓馬なら出來るからね。其大尉さんが見付けて呉れなければ、米俵や彈藥を運搬するお役目になる所だつたね。輓馬になつたら名譽の勳章も中々貰へなかつたゞらうにうまいことをしたもんだ。

大長　僕も嬉しくつてね、其大尉さんにほんとうに感謝したよ。おまけに其大尉さんが自分の乘馬にして毎日僕に乘つて色々のことを教へて呉れたのさ。

豐國　フン、そういふ將校さんは中々偉い人だね。それで君は其の頃からそういふスラリとしたバイカラな形をして居つたのかね。

大長　いや〳〵、どう致しまして、僕は田舍育ちで毛は蓬々と伸びて居つて長い顎髯も伸びて、今から思ふとほんとうに見すぼらしい姿で、吾ながら恥かしい風をして居つたよ。

豐國　そんな田舍者では駄馬になる心配も多分にあつたのだね、それを將校乘馬に拾ひ上げた大尉さんは偉いもんだつたね。

大長　拾ひ上げるとはひどいね、此堂々たる僕をは、、、、

豐國　その大尉さんは君によつぽど惚れ込んだのだね、僕等は初めから堂々と將校乘馬の銘打つて補充せられたんだからねへ、、、、

大長　お自慢はよして呉れよ、それではその大尉さんが僕を見付けた譯を隊長さんに報告して居つ

た所を受け賣して見よう。

「隊長殿、此馬は將來大に見込があります、輓馬や駄馬にするのは勿體ないです。今は百姓馬のやうな風をして居りますが、之れで一年も調教したら迚も見違へるやうな馬になります。毛が長いからボサボサして頸が短かいやうに見えるが、毛が變るとびつくりする位良くなつて相當の長さの頸をして居るし、肢は管圍と云ひ飛節球節も丈夫で肩の傾斜や鬐甲の高さ、長さも良く背は短かくつて眞直ぐで丈夫であります。又目や耳や尾の動き方などを見ますと悍も相當にあつて、今は肉付が餘り良くないから目立ちませぬが、上膊骨から肩に連なる筋肉や肢などの筋肉は中々太く强いから榮養が良くなると立派な馬になります。歩かして見ると歩樣が如何にも濶大で低伸して居る所など今年の補充馬の中では第一の良馬と思ひますから此れを私の貸與馬にして下さい」と報告をすると、隊長は、「僕もわるくはないと思ふが君が云ふほどにどうかね、君がそんなに所望ならまあ調教して見給へ」

こんな風に大尉が僕を自分で仕込んで呉れたが、それはそれは迚も親切にして色々細かいことを繰り返へしてやつて呉れたから僕も一生懸命に其命令に從つたよ。

豐國　成程それでわかつたよ、君が歩いて居る所を見てもお年寄に似合はぬ垢拔けした如何にも洗練せられた風が見えるから、不思議に思つて居つたことがあるよ。

大長　へへ、、、、昔取つた杵柄かね、はは、、、、、

豐國　フフフンほんとうにそこだよ、矢つ張り吾々は如何に體が良くてもね、教へて呉れる人が良く吾々の良い所を益々良くなるやうに、又惡るい所は根氣よく親切に直して呉れなければ千里の駒も肥踏(コエフミ)で終るかだね。君も其類で、其大尉さんが見付けて呉れなけりや、矢つ張り死んだ物を戴せてゴツゴツ歩く駄馬さんだつたかね。

大長　オイそんなに馬鹿にするなよ、天性の優駿は誰の目でも見落はないよ。

豐國　ヤー怒つた、怒つた、まあこんな議論をやめにしようね。時に君、吾々の毛色で一つ面白い話があるから聞かせようか。

大長　何んだ、毛色と云つて僕は栗毛、君は鹿毛で、何んにも面白くも不思議もないではないか、そんなつまらぬこと。

豐國　イヤそうでないよ、子供の時と大人になつた時とで吾々の毛色が變るやつの話でね。先日鍛錬馬の檢査の時にね、檢査官が芦毛と書いたが馬名簿には青毛と明瞭に書いてあるので、此處に色々の議論が出て、之れは名簿が他の馬の名簿だとか、いやそうでない違つて居ないと云ふ人が

あり、又ふんどうしてこんなに明瞭な芦毛が青色となつて居るだらうと云ふやうな議論で花が咲いたのを聞いて、僕はクスクス笑つて居つたよ。

大長　そんなことが何にが面白いかね、青毛は青色、芦毛は芦毛でちやんと區別があつて間違ふ筈がないではないかね。

豐國　は、、、君もほんとうに分からぬ方だね、彼の時に集つて居つた人達と同んなじことだね。

大長　何にが同じことだ、お互同僚の毛色位此年になつてわからぬことはないよ。

豐國　それが君は年寄つて居つてもわからぬと云ふ所だよ、一體君、黑と白とそう間違ふ筈がないでないか、それではその馬の名簿の青毛がほんとうか、芦毛と云つた檢査官の目がほんとうか、云つて見給へ。

大長　サア何つちがほんとうだらうなあー、芦毛がほんとうだらうね。

豐國　そうすると、青毛と書いてある名簿は僞りものだらうかね。

大長　そういへば一寸わからぬことになるね。

豐國　それ見玉へ矢張り君は知らぬのだよ。

そこでね、多勢の人が議論して居つたが馬の持主に聞いて見ることになつた。持主は「此馬は二歲の時には眞黑なびか〳〵した青色で、背筋や横腹や膁などの所々に白い毛が極く僅か生えて居つて、尾毛の一番の心にも五六本白い毛が混じて居つた。それから三歲の秋には全身の白毛が殖え昨年の春から目立つやうになつたと思ふて居つたが、今年五歲の春になつて毛が皆んな換つたら今のやうに白くなつて連錢が表はれて來たのだ」と云ふ説明であつたので、皆んなが始めてわかつたやうな、わからぬやうな顏をして見て居つたよ。

大長　成程そう聞けばそういふ變化をする小僧が時々あるもんだね、人間でも眞白の頭をして居る老人がまさか小供の時からあんなに白いことはないのだらうからね。

豐國　君は中々面白いことを云ふね、人間でも子供の時にあんまり毛が黑いのは年寄つてから白髮が澤山出るそうだよ、毛のある動物は大抵さうらしいね。

それで檢査官がニヤニヤ笑いながら説明したよ、其説明に曰く「二歲で眞黑で刺毛があつて尾筒に白毛のあるは芦毛なり」と云つて濟ましたもんさ。此の尾筒と云ふのは尾の骨の一番先きの尖んがつた所のことを云ふのだそうだよ。

大長　へヘーそれは僕は知らなんだ、檢査官は中々細かい所まで研究して居るんだね。

豐國　それ位のことを知らなければ檢査官としての職務が勤まらないからね。

馬の乘り方

馬に乘る方法は昔からヤレ大坪流だとか、ヤレ大坪本流だとか、ヤレ佛蘭西流、獨逸流と、それぞれ特別の流儀があつて其乘り方が皆違ふやうに思はれるが、其原則は全く一つで騎坐と脚で馬を壓し出して、韁で巧みに操つて行くと云ふことには何等違ふ所はないのである。只時代によつて馬に乘る道具である鞍や鐙などが、其作り方や其の效果に多少の違ひがあるだけで、馬を十分騎手の心に從はしめて活潑に歩かせて馬が强くなるやうにする目的は、何流であらうと、又何時の時代であらうと、日本でも外國でも何に一つ違ふ所はないのである。

指導員　おい太助君、モット脚を打つて馬を前進させろ。

太助　脚つて何處だべー此處ケー。

指　それは足だよ、脚はもつと上の方だ、膝の下の所だよ。

太助　膝の下つて、こんな所で打てやせんぢやよ。

指　おい大吉君、君の騎坐は弱いからもつと强くしなけれや馬が歩きやしないよ。

大吉　キザつて何處だべーおらは人に負けるやうな弱いことないぢやす、一體何處が弱いちゆうのかね。

指導員は脚はごうやつて打つんだ、騎坐とはこゝだと聲を渴らして說明して居るが、馬場を速歩で歩いて居る太助や大吉は一向耳に這入らず、只馬が暴ばれて落されでもしたら大變とばかりに上體を前にして、時々は前橋を握りながら早く常歩にして呉れゝばよいがと、そればつかり考へて居るから、指導員の前を通る時だけ一寸說明が聞える位のものである。こんなことでは人も上手にならぬが、馬も良くならぬのは當然である。鍛錬の初められた當時にはこんな風のやり方が澤山あつたやうだが、現時はどうかわからぬ。乘つて居る人も指導して居る人も、謂はゞ素人が多いから仕方がなかつたであらう。

豐國　大長君、ね君、去年、僕が內の大將のお供をしてね鍛錬場へ行つた時に、體のづつくりした如何にも丈夫さうな黑駒と云ふ鍛錬馬が、それはそれは面白いことを云つて居つたよ。

大長　へへゝゝ、又鍛錬馬の惡口かい。

豐國　いや〳〵そうでない、黑駒のやつ年が七つか八つかと思つたが、面白い事を云ひながら中々良いことを云ふやつだぜ。

大長　フンそんな面白いことなら僕にも聞かして呉れたまへ。

豐國　黒駒曰くさね「僕は今迄他縣の鍛錬班に居つたが、今度此班に御厄介になることになつた。此班の指導員も名人だが班員も中々名人が多いよ。僕の主人公などは指導員から何を注意せられても一向之を聞き入れようともしないで、騎坐がグラ〳〵して鞍の上で踊つて居るから、僕はフラ〳〵して眞直ぐに歩けやしないし、速歩をやつて居る間は絶えず銜がガチヤ〳〵僕の齒に當つてね、とう〳〵齒が痛くなつてどうにも仕方がないから、癪に觸はつたもんでウルサイツと云つて不意に頭をウンと下げてやつたよ。そうすると大將もヤツと云つて僕の目の前へドスンと着陸する名人だよ。それを見た指導員先生、吃驚して其處へ駈け寄つて來たが、僕がどんなことをしたから着陸したのやら、こんど乘つたらどうせよと云ふやうなことはちつとも教へないで、そんなヘタなことでは駄目だ、もつとしつかり乘れと云ふだけのことさ」と此指導員も中々名人だね。これでは吾々仲間も人間の思ふやうに働くことは出來ないのも無理はないね。

大長　そりや面白いことを云ふやつだね、然し落されたのも無理はないことだね。一體今度の軍用保護馬に乘る人達の殆ど全部は、馬術と云ふことを習つたこともないし、自分から好きで乘ると云ふ人も極く稀れだから僕等仲間が良くならうが、悪くならうが、唯月二回の集合鍛錬日にさへ出場すれば、それで義務が濟んだやうに思つて居つた人が最初の間は多かつたからね。

豐國　ウンそうだよ、それでも現在ではだん〳〵に僕等に乘つて鍛錬するのが何の爲になるかと云ふことも分かつて來たし、面白味も出た爲に最初のことを思ふと隔世の感ありだね。

大長　ほんとうにそうだよ、だけれどもね、指導員でもそうだが一般の班員には吾々が知つて居る位の馬術上の言葉さへ分らぬ人があるからね。君どうだ、君の豐富な經驗から馬術上の用語の解釋をして吾々が之に對してどうしたら人間の思ふやうに動いてやれるかと云ふことを一度頼みたいもんだね。唯僕の爲めばかりでなく人の爲め又吾等同僚の爲にね、お願ひするよ。

豐國　それでは僕も君の期待に副ふやうには參らぬだらうが、ぽつりぽつりとお話をしようかね。然し僕は極めて淺學菲才であつて、昔のことや新らしいことの理窟や六ケしい踊りの説明などは知らぬから、まあ僕が騎兵隊に居つた時、將校さんが教へて居つたことの受賣に過ぎないことを承知して置いて貰ひたいね

馬術の目的

「馬術ノ目的ハ騎手ヲシテ乘御使役ノ術ニ熟達セシメ且敢爲ノ氣性ヲ養成スルト共ニ馬ヲ訓練シテ軍馬所要ノ性能ヲ充タサシメ以テ戰鬪ノ要求ヲ充實スルニ在リ」馬術教範に斯う云ふやうに示

されて居つて、人間が吾々に乘るのも色々と仕込んで呉れるのも、皆んな此目的に合ふやうに、戰爭に行つてお國の爲になるやうに人間も吾々も心掛けて居らなければならないのだよ。

大長　フン成程ね、吾々もそういふ心掛けが必要だが、僕は悲しいことにはとう〳〵君のやうに戰爭に行けなかつたのは殘念で仕方がないよ。それにしても小さな子供のおもちやや金持の人の慰み半分にイヂクリ廻はされるのは厭やだね。ああ云ふ人達にはほんとうの馬術の目的がわかつて居るだらうかね。

豐國　そりや分つて居る人も居るさ。

大長　だつて君、狹い馬場の中でグズグズして歩いてやれば嬉しがつて居るが、一寸でも元氣良く歩き出すと、まるで背中の上でダンスでもやつて居るかと思ふ位暴ばれて、おまけに堅い鐵で齒を叩いたり、銜受けの處が麻痺する位に引つ張つたりして、お終ひにはこんな危い馬厭やだと云ふて下りてしまふやうな人があるが、こんなのは只冗談半分に吾々の荷物になつて喜んで居る外には目的はないんだから眞つ平御免だね。冗談にも程があるよ。

豐國　そりや君そう言つたつて仕方がないよ、そういふお殿樣氣分で吾々を遊び道具と心得て居る人も尠くないからね。日本が今支那と何ういふ目的で戰つて居ると云ふことさへ、十分にご存じない人もないではないから、況んや吾々に乘る目的に於てをやだね。苟くも吾々に乘る人間は、其の乘方は上手でも下拙でも構はぬから、只其精神が吾々によつて身體を丈夫にし勇往邁進の氣性を涵養して、吾々同僚と一緒に戰爭に行つて所謂屍を馬革に裹むと云ふ氣持を以つて、眞劍に稽古して呉れるのなら吾々同僚は喜んでどんな無理なことでも決して厭やだと云はないんだね。此れが馬術の目的でなければならないんだ。

大長　その通り、その通り。馬術の目的は克くわかつたよ。そういふ目的でやる馬術がほんとうに戰鬪馬術と云ふか、精神馬術と云ふか、純日本馬術と云ふか、兎に角之が第一の目的でなくてはならぬ譯けだね。只馬場の中ばかりで下拙な癖に高等馬術の眞似事をやつたり、一般の馬に出來もしないやうなことを汗を絞つてやつて居るのは、何んの目的もなく馬なら何の馬でも高等馬術が出來ると思つて居るやうな人は全く閉口だね。吾々同僚の任務は總て戰爭のお役に立つことであるからね。

豐國　馬術の目的は先づ此位にして、餘んまり素人の惡口を云ふのをやめして次へ移らう。

扶助

功勞軍馬は嘶く

轡脚等ノ操作ニ依リ騎手ノ意志ヲ馬ニ感知セシメ之ニ服從セシムル手段ヲ謂フ

斯う云ふ風にちやんと明かに示されて居るのに扶助と云つても何んのことやらさつぱりわからぬ連中が馬に乘るんだからたまつたもんでない。言葉さへもわからぬ人が吾々仲間に良くわかるやうに意志を傳へることが出來やう筈がないね。それだから先づこういう言葉から説明してかゝらねばならぬので、指導員と云ふものは中々骨が折れる仕事だね。

大長　うんそうだ、指導員も中々骨が折れるが指導員でも案外ほんとうの事を知らず、おまけに其説明がはつきりせずに今日は右と教へるかと思ふと明日は左と教へるやうなあやふやな自信の無いことを云つて、扶助の使ひ方を教へるのがあるから、習ふ方の人はどうして良いやらわからずに結局出鱈目に脚を打つたり、轡を引つ張つたりして、一番迷惑を感ずるのは乘られて居る吾々の同僚であると云ふことになるのだね。

豐國　そこでね、此間僕が鍛錬場へ行つた時に丸つこいづつくりした栗毛のやつがね、ウンウン唸りながら騎手からポンポンと横つ腹を打たれても少しも前へ歩かないので止まつてしまつたのさ。僕は其奴が可愛想で見て居れなかつたよ。

大長　ふん其奴は病氣だつたのかい。

豐國　いや〳〵病氣でも何んでもない元氣なやつだつたがね。乘つて居る人がさつぱり扶助と云ふものを知らないのに、指導員がソレ脚ヲ打ツンダ、モツト打ツンダと云ふので、御本人樣一生懸命になつてポンポン打つけれども栗毛のやつ前へ行くどころか後へ退がるではないか。指導員はヤツキになつて脚々と云つて居るが、さつぱり利目がない。乘つて居る人は眞赤になつてもう脚を打つ力もなにも無くなつてしまつたよ。

大長　栗毛の奴も中々ズルイ奴だね。

豐國　イヤイヤそれは栗毛がわるいのでない、指導員がわるいのだよ。

大長　だつて指導員が乘つて居るんでないのに、なぜ指導員がわるいと云ふかね。

豐國　それはね、栗毛に乘つて居る人はまだほんとうの素人だから、指導員が其人に脚を打つ時に轡を引張つてはならぬことを克く教へてやらぬから、人も馬も困つて居るのだね。

扶助一致

それだから脚を打つた座毎に拳が後方へ動くもんだから栗毛の奴、脚では前へ行けと命ぜられるが轡の方は後へ退れと命令されて居るから止まるより外に仕方がないことになる。強く脚を打て